

筑波大学博士（言語学）学位請求論文

中国語授与動詞の文法化に関する研究

佐々木 勲人

2019年度

# 目次

第1章	はじめに	1
1.1	本研究の目的	1
1.2	方言文法と文法化	8
第2章	授与から受益への文法化	14
2.1	授与対象表示の受益表現	14
2.1.1	本動詞型	14
2.1.2	補助動詞型	20
2.1.3	受給者後置型	26
2.2	受益者表示の受益表現	28
2.2.1	受益者前置型	28
2.2.2	前置詞“給”の語用論的特徴	37
2.3	動詞句直前型	43
2.3.1	強調の“給”再考	43
2.3.2	受動文との共起	48
2.3.3	処置文との共起	53
2.4	本章のまとめ	56
第3章	授与から使役への文法化	58
3.1	使役文の種類	58
3.2	福州語の使役文	65
3.3	寧波語の使役文	70
3.4	授与から使役への文法化	76
3.5	本章のまとめ	83
第4章	授与から受動への文法化	84
4.1	問題の所在	84
4.2	先行研究の解釈と問題点	90
4.3	使役から受動への文法化	104
4.4	本章のまとめ	111

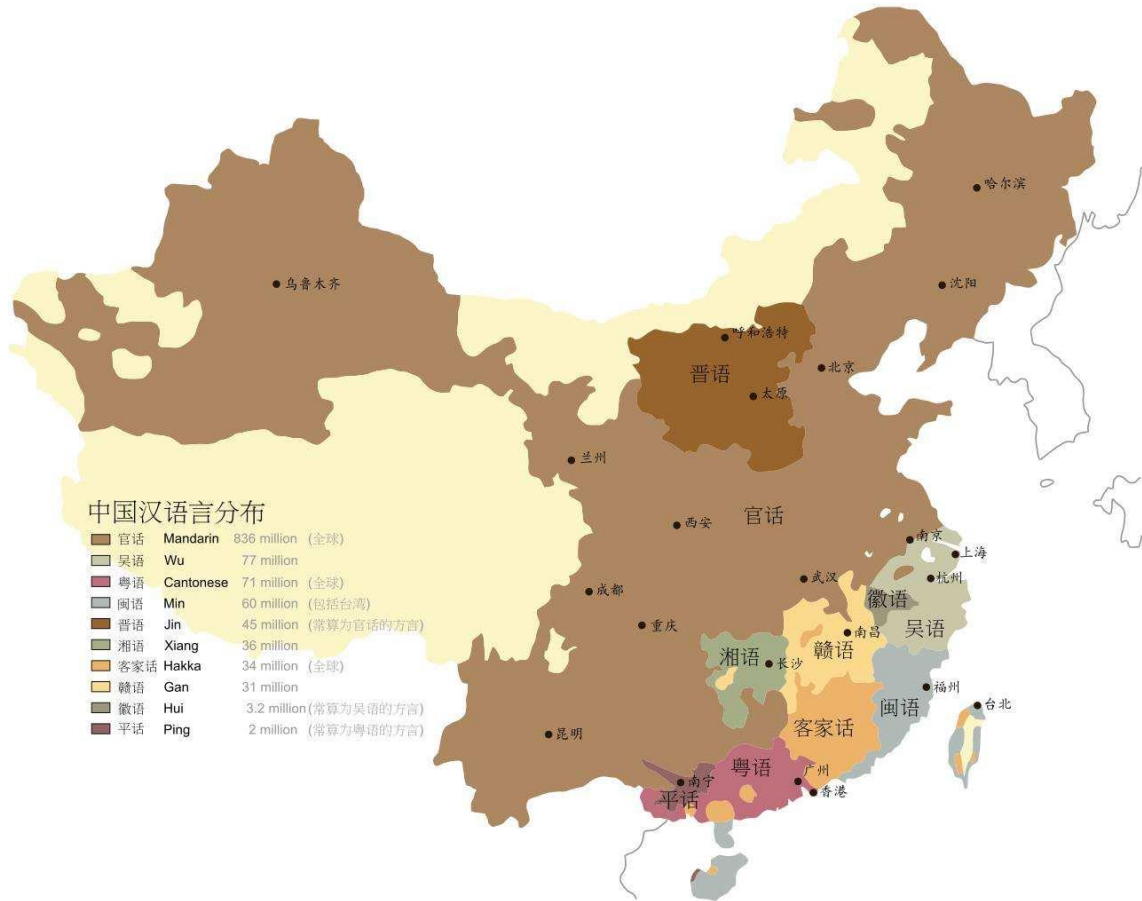
<b>第5章 授与から処置への文法化</b> .....	<b>113</b>
5.1 処置文の種類 .....	113
5.1.1 先行研究と問題の所在 .....	113
5.1.2 東南方言の処置文 .....	117
5.2 授与から処置への文法化 .....	130
5.3 受益から処置への文法化 .....	135
5.3.1 問題の所在 .....	135
5.3.2 随伴から受益への文法化 .....	137
5.3.3 受益と処置に関する先行研究 .....	140
5.3.4 処置対象と人称代名詞の関連 .....	143
5.3.5 文法化の多様性 .....	149
5.4 本章のまとめ .....	152

<b>第6章 授与動詞とヴォイス構文のネットワーク: まとめと展望</b> .....	<b>155</b>
---	------------

参考文献

中国漢語方言地図 .....	iii
中国東南方言地図 .....	iv
略号一覧 .....	v

# 中国汉语方言地图



<https://baike.baidu.com> より



## 略号一覧

ACC	accusative marker	対格標識
ASP	aspect marker	アスペクト助詞
BEN	benefactive marker	受益標識
CAU	causative marker	使役標識
CLA	classifier	量詞（類別詞）
CON	coordinate conjunction	等位接続詞
COM	commutative marker	随伴標識
CSC	stative construction marker	様態補語標識
GEN	genitive marker	所有格助詞
GIVE	verb of giving	授与動詞
MOD	modality marker	モダリティ助詞
PAS	passive marker	受動標識
PFX	prefix	接頭辞
PLR	plural	複数接辞

# 第1章 はじめに

## 1.1 本研究の目的

本研究は、中国語の授与動詞とヴォイス構文の関連を文法化の観点から考察するものである。受益文や受動文、使役文、処置文といった有標ヴォイス構文において<sup>1</sup>、ヴォイス標識の役割を担う授与動詞がどのような文法化のプロセスを経てその機能を獲得したのかを比較方言文法の観点から明らかにする。

ヴォイス (Voice) とは、同内容のことを違った声 (形) で表すことにその名が由来するように、典型的には他動詞の能動形と受動形の対立が考察の対象となる。柴谷 2000 は、ヴォイスとは何かという問いに対して、行為が動作主によって意図的にもたらされたのかどうか、そしてそれが他に及んでいるのか、それともその帰結が動作者に影響を及ぼしているのかといった、行為の発生とその展開のあり方を対象とした文法現象であるという包括的な捉え方を示している<sup>2</sup>。このような捉え方に基づけば、ヴォイスの考察対象には、能動形と受動形の対立だけでなく、動詞の自他対応や使役形、可能形、やりもらい関係など、さまざまな言語現象が含まれることになる。

これらの現象は多くの言語において動詞の形態の違いとして反映される。そのため、ヴォイスは一般に動詞の形態に関する問題と考えられてきた。しかし、形態変化の乏しい中国語では、ヴォイスの違いが動詞の形態の違いとして現れることはない。そのため、中国語学の分野ではヴォイスという文法範疇が積極的に認識されてこなかった。木村・鷺尾 2008 によれば、Chao Yuen Ren 1968 の *A Grammar of Spoken Chinese* や朱德熙 1982 の『语法讲义』、Li & Thompson 1981 の *Mandarin Chinese* など、代表的な中国語文法書のいずれの目次にも、ヴォイスの章は見当ら

---

<sup>1</sup> 有標ヴォイス構文については木村 2000 を参照。

<sup>2</sup> 鷺尾・三原 1997 は、ヴォイスとは、ある出来事を認識し、言語化する際、どのような観点からそれを行うか、ということに関わる文法範疇であると指摘している。

ないという。近年ではヴォイスに対して“語態[語態]”という訳語をあてることが定着しているが、それが使用されるのはおもに形態変化を備えた他言語の状況を説明する場合であって、中国語の文法研究において“語態”という術語を目にすることはほとんどない。

木村 2000、2003 は、ヴォイスを「動作者と主語の関係を中心に、名詞表現の意味役割と格表示の対応関係の変更が何らかのかたちで明示的かつ規則的に反映される現象」と定義した上で、中国語にもヴォイスと呼ぶにふさわしい文法現象が存在することを指摘している。本研究は、柴谷 2000 や木村 2000、2003 の観点を共有しつつ、形態変化という手段を持たない中国語において、受益文や受動文、使役文、処置文といった有標ヴォイス構文がどのように構成されるのか、またそれらが相互にどのようなネットワークを形成しているのかを、「与える」という意味の授与動詞がヴォイス標識を担う構文に焦点をあてて検討する。以下、とくに断らない限り、中国語とは“普通话（共通語）”を指すものとし、各地の方言に言及する際は例文の末尾に方言名と地域を記すこととする。

中国語の授与動詞“给 gěi [kei<sup>214</sup>]”は、三項動詞として間接目的語と直接目的語を取ることができる。

- (1) 我 给 你 一 本 书。  
I GIVE you a CLA book  
(ぼくはきみに本をあげる。)

(1)において“你（きみ）”は間接目的語として、直接目的語“一本书（一冊の本）”の受取手を表している。“给（与える）”という行為の実現によって、二つの目的語の間には所有関係が成立することになる。「与える」という授与の基本義を表し、間接目的語と直接目的語という二つの目的語を取ることのできる“给”は、語彙的にもまた統語的にも、典型的な中国語の授与動詞であるということができる。

授与動詞“给”は、以下に示すようなさまざまなヴォイス構文において、意味役割の異なる名詞句を導入するヴォイス標識の役割を担う。



- (2) 我 给 你 买 一 本 书。 : 受益文  
 I BEN you buy a CLA book  
 (ぼくはきみに本を買ってあげる。)
- (3) 我 给 你 看 照片。 : 使役文  
 I CAU you look picture  
 (きみに写真を見せてあげよう。)
- (4) 我 给 他 打 了。 : 受動文  
 I PAS him hit MOD  
 (ぼくは彼に殴られた。)
- (5) 我 给 电视机 修 好 了。 : 処置文  
 I ACC TV set repair-good MOD  
 (ぼくはテレビを修理した。)

(2)では、モノの受取手としての受益者を導入している。ここでの“你(きみ)”は“一本书(一冊の本)”の受取手であり、二重目的語文における間接目的語の意味役割にはほぼ等しい<sup>3</sup>。一方、(3)では使役文における被使役者を導入している。“你(きみ)”は“照片(写真)”の受取手であると同時に、“看(見る)”という行為の担い手でもある。次の(4)では、受動文における動作者を導入している。“打(殴る)”という行為の担い手であるという点において、(3)の被使役者との共通点が見て取れる。(5)はいわゆる処置文であり<sup>4</sup>、動作行為の働きかけの対象である“电视机(テレビ)”を導入している。ここでの“给”は“把[pa<sup>214</sup>]”に置き換えることができる。“修好(きちんと修理する)”という行為によって利益がもたらされるといふ点で、(2)の受益者との共通点がある。

このように、同一の形態素である“给”が、(2)のように受益者を導いたり、(3)や(4)のように動作者を導いたり、さらには(5)のように対象を導いたりすることが

---

<sup>3</sup> 受益文における受益者は、使役文や受身文における動作者や、処置文における対象との間に対応関係が認められることから、本研究では受益文も有標ヴォイス構文の一つと見なす。

<sup>4</sup> 処置文という名称には議論がある。詳しくは第5章を参照。

できるのはなぜなのか。本研究は文法化の観点からこの問題の解明に取り組む。

また、(2)の受益文と(3)の使役文が、意味的にも構造的にもある種の類似性を示唆しているように、(3)の使役文と(4)の受動文の間にも、多くの言語においてそうであるように、構文的な関連が見て取れる。さらに、(4)の受動文と(5)の処置文の間にも、例えば次の(6)のように、受動文にも処置文にも解釈可能な文が存在することから、両者の間には何らかの構文的な関連があると考えられている。

(6) 小偷儿 给 他 捆 起来 了。 朱德熙 1982:181  
thief PAS/ACC him tie-up-come MOD

(泥棒が彼に縛り上げられた／泥棒が彼を縛り上げた)

このように、受益文、使役文、受動文さらに処置文といった有標ヴォイス構文が、“給”という授与動詞を介して一つのネットワークを形成していることがわかる。こうしたネットワークがどのように成立したのか、そのプロセスを詳細に検証することが本研究のもう一つの目的である。

ヴォイス構文と授与動詞の繋がりを考える上で、どうしても避けて通ることができないのが方言差の問題である。多くの先行研究が指摘するように、(4)のような授与動詞を用いた受動文は、北方方言ではあまり使われない。近年は共通語における使用例が報告されてはいるものの、太田 1956 によれば、北方方言の一つである北京語には、元来“給”を用いた受動文は存在しなかったという<sup>5</sup>。これに対して、長江以南の東南方言では、授与動詞によって受動文を構成するのが一般的である。授与動詞は東南方言における典型的な受動標識であると言ってよい。詹伯慧 1981:82 が指摘する各地の例を参照されたい。

(7) a. 佢 畀 本书 我。<sup>6</sup> [粤语・广州]

---

<sup>5</sup> 山田 1998 は、老舍の諸作品、『儿女英雄傳』、『紅樓夢』を通して、一部の例外的な用法を除いて、“給”による受動文は見あたらないと指摘している。

<sup>6</sup> 東南方言では間接目的語と直接目的語の語順が共通語と逆の二重目的語文が成立する。この点については第2章で詳しく述べる。

- he GIVE CLA book me  
(彼はぼくに本をくれた。)
- b. 佢 畀 狗 咬 亲。 [粤语・广州]  
he PAS dog bite MOD  
(彼は犬に咬まれた。)
- (8) a. 伊 互 我 一 本 新 册。 [闽语・厦门]  
he GIVE me a CLA new book  
(彼はぼくに新しい本をくれた。)
- b. 伊 互 人 拍 一 下。 [闽语・厦门]  
he PAS someone hit one time  
(彼は誰かに殴られた。)
- (9) a. 我 拨 佢 一 本 书。 [吴语・苏州]  
I GIVE ASP him a CLA book  
(ぼくは彼に本をやった。)
- b. 我 拨 佢 吓 仔 一 跳。 [吴语・苏州]  
I PAS him surprise ASP one jump  
(ぼくは彼に驚かされた。)
- (10) a. 佢 分 一 本 书 佢。 [客家语・梅县]  
I GIVE a CLA book him  
(ぼくは彼に本をやった。)
- b. 佢 分 佢 打 e 一 拳。 [客家语・梅县]  
I PAS him hit ASP one punch  
(ぼくは彼に殴られた。)

詹伯慧 1981 は北方方言に属す西南官話にも、授与動詞を用いた受動文が成立することを指摘している。

(11) a. 他 把 了 我 一 本 书。 [官话・汉口]

he GIVE ASP me a CLA book

(彼はぼくに本をくれた。)

b. 他 把 狗 咬 了 一 口。 [官话・汉口]

he PAS dog bite ASP one mouth

(彼は犬に咬まれた。)

従って、授与動詞による受動文は、東南方言だけに見られる現象とは言えない。しかし、そのほとんどが東南方言に集中して観察されることは事実であり、授与動詞が東南方言の典型的な受動標識であることは間違いない。

また、これまであまり注目されてこなかったが、東南方言では一部の例外的な地域を除いて、授与動詞を用いた受益文が成立しない。共通語では(12b)のように、モノの受取手としての受益者を授与動詞の“給”によって動詞句の前に表示する受益文が成立する。しかし、東南方言では一部の地域を除いて、このような受益文は成立しない。

(12) a. 我 给 你 一 本 书。 [共通語]

I GIVE you a CLA book

(ぼくはきみに本をあげる。)

b. 我 给 你 买 一 本 书。 [共通語]

I BEN you buy a CLA book

(ぼくはきみに本を買ってあげる。)

(13) a. 我 拨 依 一 只 苹果。 [吴语・宁波]

I GIVE you a CLA apple

(ぼくはきみにりんごをあげる。)

b. \*我 拨 依 买 衣裳。 [吴语・宁波]

I BEN you buy clothes

(ぼくはきみに服を買ってあげる。)

- (14) a. 我 乞 汝 蜀 粒 苹果。 [闽语・福州]  
 I GIVE you a CLA apple  
 (ぼくはきみにリンゴをあげる。)
- b. \*我 乞 汝 画 蜀 张 图。 [闽语・福州]  
 I BEN you draw a CLA map  
 (ぼくはきみに地図を描いてあげる。)
- (15) a. 佢 分 你 一 粒 苹果。 [客家语・桃园]  
 I GIVE you a CLA apple  
 (ぼくはきみにリンゴをあげる。)
- b. \*佢 分 你 买 一 领 襯衫。 [客家语・桃园]  
 I BEN you buy a CLA shirt  
 (ぼくはきみにシャツを買ってあげる。)
- (16) a. 佢 畀 本 书 我。 [粤语・广州]  
 he GIVE CLA book me  
 (彼はぼくに本をくれた。)
- b. \*佢 畀 我 买 书。 [粤语・广州]  
 he BEN me buy book  
 (彼はぼくに本を買ってくれた。)

モノの受取手としての受益者は、授与動詞の典型用法である二重目的語文の間接目的語と意味的に共通点が多い。しかし、東南方言においてこの種の受益者を授与動詞によって動詞句の前に表示する受益文は成立しない。この点は、北方方言と東南方言の違いとして注目すべき事実である。受動文や受益文に観察されるこのような方言差はなぜ生じるのか。こうした現象に比較方言文法の観点から合理的な説明を与えることも本研究の目的の一つである。

## 1.2 方言文法と文法化

中国では「中国語」のことを“汉语(漢語)”という。13億9千万人あまりの総人口の92%を占める“汉族(漢族)”の“语言(言語)”という意味である<sup>7</sup>。莫大な使用人口を抱える“汉语”は、広大な国土の各地にさまざまな方言を形成している。それらは一般に北方方言と東南方言の二つに大別されるが、両者の性質は大きく異なっている。“官話 (Mandarin Chinese)”として知られる北方方言は、国土の約3分の2を占める広大な地域で使用されているにも関わらず、比較的均一性が高いことで知られる。“普通话 pǔtōnghuà”と呼ばれる現在の共通語も北方方言を基礎方言としている。これに対して、東南方言には北方方言のような均一性は乏しいといわれる。袁家骅等 1960 は呉語、湘語、贛語、客家語、粵語、閩語の6つを挙げるが、それぞれがヨーロッパの一言語に匹敵する規模と個性を備えている。

文法研究の分野において「中国語」と言ったとき、通常それは北方方言を基礎方言とする“普通话 (共通語)”を意味する。誤解を懼れずに言えば、代表的な北方方言である北京語が「中国語」と同義に扱われることも多い。しかし、本研究のテーマであるヴォイス構文と授与動詞の関連を考えるにあたっては、共通語のみを分析の対象とするのは必ずしも有効な研究方法ではない。

その理由の一つには、前節で見たように、授与動詞を用いた受動文はおもに東南方言で観察され、共通語における使用頻度はきわめて低いことが挙げられる。また、授与動詞を用いた処置文が観察される地域が、以下のように呉語、徽語、贛語、湘語など東南方言の北部に集中していることも、もう一つの理由として挙げられる。

(17) a. 我 拨 侬 一 只 苹果。 [呉語・寧波]

I GIVE you a CLA apple

(きみにリンゴをあげよう。) 林・佐々木・徐 2002

b. 侬 拨 房间 打扫 打扫。 [呉語・寧波]

---

<sup>7</sup> 国家統計局「2018年国民经济和社会发展统计公报」による。

you ACC room clean-clean

(部屋を掃除しなさい。) 林・佐々木・徐 2002

(18) a. 渠 畀 我 一 个 桃。 [徽语・黟县]

he GIVE me a CLA peach

(彼はぼくに桃をくれた。) 平田主編 1998

b. 尔 畀 门 关 起 来。 [徽语・黟县]

you ACC door close-up-come

(扉を閉めなさい。) 平田主編 1998

(19) a. 把 本 书 把 我。 [赣语・黎川]

GIVE CLA book GIVE me

(ぼくに本をくれ。) 颜森 1993

b. 莫 把 茶 碗 打 破 了。 [赣语・黎川]

don't ACC cup hit-broken MOD

(コップを割ってはいけない。) 颜森 1993

(20) a. 把 本 书 你。 [湘语・长沙]

GIVE CLA book you

(きみに本をあげる。) 李永明 1991

b. 把 口 碗 饭 吃 完 哒! [湘语・长沙]

ACC this CLA rice eat-finish MOD

(そのご飯を食べ終わってしまいなさい。) 李永明 1991

このように、受動文や処置文において、授与動詞を主たるヴォイス標識として使用するの、東南方言であって北方方言ではない。北方方言を基礎方言とする共通語では、授与動詞を受動標識や処置標識として使用することは、必ずしも一般的ではないのである<sup>8</sup>。ヴォイス構文と授与動詞の繋がりを考える上で、東南方

---

<sup>8</sup> 共通語の主たる受動標識は口語の“叫”“让”と書面語の“被”であり、主たる処置

言の分析を避けて通ることができないのはそのためである。本研究は、近年の方言研究によって蓄積されてきた東南方言の言語資料を十分に活用することによって、共通語のデータだけを見ては知ることのできない授与とヴォイスの繋がりについて考察する。

本研究のもう一つの目的は、ヴォイス構文における授与動詞の文法化のプロセスを明らかにすることにある。文法化（grammaticalization）とは、もともと実質的内容を表していた言語単位が、時間の経緯にしたがって機能語としての文法的役割を担うようになる歴史的变化と定義される<sup>9</sup>。内容語が機能語に変化したり、機能語がさらに別の機能語に変化したりする現象を通時的に解明することが文法化研究の目的である。このような定義に従えば、共時的なデータのみを扱って文法化を論じることは許されないことになる。しかし、中国各地の方言を研究対象とした場合、歴史的に遡って口語資料を入手することはほぼ不可能に近い。では、方言を対象とした文法化の研究は成立し得ないのであろうか。本研究は必ずしもそうではないと考える。

第3章において詳しく述べるが、共通語の授与動詞“给”は、使役標識として被使役者を導くことができる。しかし、その用法は授与行為に関わる使役状況に限られている。

(21) a. 这本书我给你看。 [共通語]

this CLA book I CAU you read

(この本をきみに読ませてあげる。)

b. \*我给你去机场。 [共通語]

I CAU you go airport

(ぼくはきみを空港に行かせてやる。)

本を「与える」ことによって、被使役者の読むという行為を誘発する状況を表

---

標識は“把”である。

<sup>9</sup> Heine et al. 1991、Hopper and Traugott 1993、河上 1995、山梨 1995、大堀 2004、橋本・中塚 2007 を参照。



す(21a)は問題なく成立するが、授与行為とは関係がない、許容を表す(21b)は成立しがたい。

しかし、例えば呉語の寧波（宁波）の授与動詞“拨[paʔ<sup>5</sup>]”には、そのような制約は見られない。授与行為を仲立ちとした(22a)だけでなく、授与行為とは無関係な(22b)も、寧波では問題なく成立する。

- (22) a. 该 本 书 我 拨 侬 看。 [呉語・寧波]  
this CLA book I CAU you read  
(この本をきみに読ませる。)
- b. 我 拨 侬 去 机场。 [呉語・寧波]  
I CAU you go airport  
(ぼくはきみを空港に行かせてやる。)

一方、閩語の福州の授与動詞“乞[khøyʔ<sup>24</sup>]”には、一見したところ、共通語と同様の制約があるように思われる。

- (23) a. 我 买 只 本 书 乞 汝 看。<sup>10</sup> [閩語・福州]  
I buy this CLA book CAU you read  
(この本を買ってきみに読ませる。)
- b. \*我 乞 汝 去 机场。 [閩語・福州]  
I CAU you go airport  
(ぼくはきみを空港に行かせてやる。)

しかし、福州において、この種の制約がかかるのは肯定形だけであって、否定形では、授与行為と無関係な状況であってもまったく問題なく成立する。

---

<sup>10</sup> 福州では、授与動詞を用いた使役文は、使役者の具体的な授与行為を明示しなければならない。すなわち、“买只本书（この本を買う）”の部分を省略することができない。この点については第3章2節で詳しく述べる。

(24) 我 无 乞 汝 去 机场。 [ 闽语・福州 ]

I not CAU you go airport

(ぼくはきみを空港に行かせない。)

こうした現象を文法化の観点から見れば、授与行為に限定される共通語の“给”に比べ、そのような制約のない寧波の“拨”は、使役標識として高度な文法化を遂げているといえることができる。そして、否定形に限ってそうした制約が解除される福州の“乞”は、共通語の“给”と寧波の“拨”の中間に位置づけることができる。つまり、各地の方言資料は授与から使役へという文法化のプロセスの異なる段階を我々に示しているのである。従って、複数の地域の方言資料を総合的に分析するならば、たとえ共時的な資料であっても、文法化のプロセスに合理的な説明を与えることは十分に可能であると本研究は考える。一般に歴史的なアプローチのみが許されると思われがちな文法化の現象に対して、共時的な方言資料に基づいてそのプロセスを解明していくことが本研究の特色の一つである。

本研究の構成は以下のとおりである。次の第2章では授与から受益への文法化について考察する。本動詞から補助動詞、前置詞、さらに動詞句直前用法へと至る文法化のプロセスを検証するとともに、東南方言の授与動詞には一部の例外を除いて受益者を導く前置詞の機能がないことを指摘する。第3章では授与から使役への文法化について考察する。呉語の寧波語と閩語の福州語を取り上げ、二つの東南方言と共通語の比較を通して、東南方言では許容使役のための使役標識が存在しなかったことが授与動詞の文法化を促進したことを指摘する。第4章では、第3章の考察をふまえて、授与から受動への文法化について検証する。授与動詞による受動文がなぜ東南方言に集中して観察されるのかという問題に対して、専ら許容使役を表すための使役標識が存在しなかったために、授与動詞が許容使役へと文法化を遂げたことが、受動標識への文法化をもたらした原因であることを指摘する。第5章では、授与から処置への文法化について考察する。授与動詞を用いた処置文が東南方言の北部に集中して観察されることを指摘した上で、当該地域において広く観察される一文中に授与動詞を二回使用する受益文が処置文へと拡張していくプロセスを示す。最後の第6章では、本研究のまとめとして、授与動詞の文法化のプロセスと有標ヴォイス構文のネットワークを総括するとともに

に、今後の課題について述べる。

## 第2章 授与から受益への文法化

### 2.1 授与対象表示の受益表現

#### 2.1.1 本動詞型

「与える」という意味の授与動詞である“給”は、次のようなさまざまな形式によって受益表現と密接な関わりをもっている。

- (1) 我 给 他 一 本 书。 : 本動詞型  
I GIVE him a CLA book  
(彼に本をあげる。)
- (2) 我 寄 给 他 一 本 书。 : 補助動詞型  
I mail-GIVE him a CLA book  
(彼に本を郵送してあげる。)
- (3) 我 买 一 本 书 给 他。 : 受給者後置型  
I buy a CLA book GIVE him  
(本を買って彼にあげる。)
- (4) 我 给 他 买 了 一 本 书。 : 受益者前置型  
I GIVE him buy ASP a CLA book  
(彼に本を買ってあげた。)
- (5) 房间 都 给 收 拾 好 了。 : 動詞句直前型  
room all GIVE clean-good MOD  
(部屋はすっかり片付いた。)

(1)は二重目的語文を構成する本動詞としての用法である。“給”は間接目的語と直接目的語の二つを伴う。(2)の補助動詞型では、他の授与動詞の直後に現れ、二重目的語文の成立を支えている。日本語の「～テヤル」の用法に近い。(3)は、モノの受取手としての受益者、すなわち受給者を文末に表示する形式である。以下、受給

者後置型と呼ぶ。(4)では、前置詞として動詞句の前に受益者を表示している。ここでの受益者は、利益の受け手であればよく、モノの受取手であってもよいし、そうでなくてもよい。以下、受益者前置型と呼ぶ。(5)は、動詞句の直前に現れる用法である。文意を強める働きがあるとされ、強調の“給”と呼ばれている。

はじめに、本動詞型について検討する。よく知られているように、一部の東南方言には、異なる二つのタイプの二重目的語文が存在する。以下の地域では、共通語と同じタイプの二重目的語文が成立すると同時に、直接目的語が間接目的語に前置されるタイプ（以下、粵語タイプと呼ぶ）の文も成立する<sup>1</sup>。

(6) a. 佢 畀 我 三 部 书。 [粵語・廣州]

he GIVE me three CLA book

(彼はぼくに本を三冊くれた。) 黄伯荣主编 1996

b. 佢 畀 三 部 书 我。 [粵語・廣州]

he GIVE three CLA book me

(彼はぼくに本を三冊くれた。) 黄伯荣主编 1996

(7) a. 分 佢 一 本 书。 [客家語・连城]

GIVE him a CLA book

(彼に本をあげる。) 项梦冰 1997

b. 分 一 本 书 佢。 [客家語・连城]

GIVE a CLA book him

(彼に本をあげる。) 项梦冰 1997

(8) a. 得 你 书。 [湘語・衡阳]

GIVE you book

---

<sup>1</sup> 横田 2019 によれば、粵語において直接目的語が間接目的語に前置されるタイプの二重目的語文は、地域や年代さらには個人によって容認度に違いが見られるという。香港では、確実に許容されるのは“畀（与える）”一語のみであり、“送（プレゼントする）”は容認度が低く、他の動詞は全く許容されないという。これに対して広州では、“畀”は問題なく成立し、“送”と“借（貸す/借りる）”は容認度が高く、“租（賃貸しする/賃借りする）”と“卖（売る）”は容認度が低いという。

(おまえに本をやろう。) 李永明 1986

- b. 你 明天 买来, 我就得钱你。[湘语・衡阳]  
you tomorrow buy-come I just GIVE money you

(おまえが明日買ってきたら, 金をやろう。) 李永明 1986

劉堅 1997 によれば、呉語の上海においても、二つのタイプが併存するという。ただし、若い世代の話者は共通語タイプの(9a)を使用し、粵語タイプの(9b)を使用するのは高齢の話者であるという。

- (9) a. 伊 拨 仔 我 本 书。 [吴语・上海]

he GIVE ASP me CLA book

(彼はぼくに本をくれた。) 劉堅 1997

- b. 伊 拨 仔 本 书 我。 [吴语・上海]

he GIVE ASP CLA book me

(彼はぼくに本をくれた。) 劉堅 1997

客家語の桃園においても、70代の話者は共通語タイプと粵語タイプの両方を許容したが、40代の話者は共通語タイプの(10a)のみを適格と判断した。

- (10) a. 佢 分 你 一 粒 苹果。 [客家语・桃园]

I GIVE you a CLA apple

(ぼくはきみにリンゴをあげる。) 佐々木 2015

- b. 佢 分 一 粒 苹果 你。 [客家语・桃园]

I GIVE a CLA apple you

(ぼくはリンゴをきみにあげる。) 佐々木 2015

このように、粵語タイプの二重目的語文は、東南方言の各地に散見するが、その使用条件は必ずしも同じではないようである。広州（广州）のようにこのタイプの二重目的語文がデフォルトであり、共通語タイプの使用頻度がきわめて低い地域もある。一方で、上海や桃園のように限られた話者しか粵語タイプを許容しない地域

もある。使用条件に違いはあるものの、粵語タイプの二重目的語文は東南地域に広く分布しており、特定の方言に固有の現象ではない。

粵語タイプの二重目的語文については、Xu & Peyraube 1997 が指摘するように、次のような受給者後置型の受益文から、受給者を導く授与動詞が省略された形式であるという見方が定説となっている<sup>2</sup>。粵語タイプの二重目的語文が成立する地域は、受給者を導く授与動詞の省略を許す地域である。

- (11) 佢 畀 三 部 书 (畀) 我。 [粵語・廣州]  
he GIVE three CLA book GIVE me  
(彼はぼくに本を三冊くれた。)

粵語タイプの二重目的語文を受給者後置型の受益文からの拡張と見なす根拠として次のような現象がある。周知のとおり、動詞“借”には、「貸す」と「借りる」の二つの意味がある。例えば、共通語の次の文には「授与」と「取得」の多義性が生じる。

- (12) 张 三 借 李 四 一 本 书。 [共通語]  
Zhangsan lent/borrow Lisi a CLA book  
(張三は李四に本を貸した／借りた。) 朱德熙 1982

李新魁等 1995 によれば、粵語の廣州において、共通語タイプの(13a)には「授与」と「取得」の多義性が生じるが、粵語タイプの(13b)には「授与」の解釈しか成立しないという。

- (13) a. 我 借 你 十 缙。 [粵語・廣州]  
I lent/borrow you 10 CLA  
(ぼくは彼に 10 元貸した／借りた。) 李新魁等 1995

---

<sup>2</sup> Xu & Peyraube 1997 は受給者を導く授与動詞を前置詞と見ているため、このような現象を Preposition Deletion (前置詞省略) と説明している。

b. 我 借 十 缙 你。 [粤语・广州]

I lent 10 CLA you

(ぼくは彼に10元貸した。) 李新魁等 1995

このことは、粵語タイプの(13b)が、次の(14)のような受給者後置型の受益文から、受給者を導く授与動詞“畀”が省略された形式であることを示している。(14)には「授与」と「取得」の多義性はなく、「授与」の解釈しか成り立たない。

(14) 我 借 十 缙 (畀) 你。 [粤语・广州]

I borrow 10 CLA GIVE you

(ぼくは彼に10元貸した。)

客家語の桃園では、二重目的語文が文末に動詞を伴って、いわゆる兼語文を構成することがある。その場合は、粵語タイプの(15b)や(16b)が優勢になるという。

(15) a. 佢 送 你 这 粒 苹果 食。 [客家語・桃園]

I present you this CLA apple eat

(ぼくはきみにこのリンゴをプレゼントして食べさせる。) 佐々木 2015

b. 佢 送 这 粒 苹果 你 食。 [客家語・桃園]

I present this CLA apple you eat

(ぼくはこのリンゴをきみにプレゼントして食べさせる。) 佐々木 2015

(16) a. 佢 卖 佢 这 本 书 读。 [客家語・桃園]

I sell him this CLA book read

(ぼくは彼にこの本を売って読ませる。) 佐々木 2015

b. 佢 卖 这 本 书 佢 读。 [客家語・桃園]

I sell this CLA book him read

(ぼくはこの本を彼に売って読ませる。) 佐々木 2015

粵語タイプの二重目的語文を不適格とした40代の話者も、(15b)や(16b)については適格と判断した。使役的状况を表す兼語文では、授与動詞の間接目的語は後接す



る動詞句の主語の役割も担う。つまり、“送（プレゼントする）”や“売（売る）”にとっての間接目的語は、“食（食べる）”や“読（読む）”の主語でもあるのである。粵語タイプの(15b)や(16b)では、主語と述語が隣接して表示されるため、主述関係が明示的に捉えられる。一方、共通語タイプの(15a)や(16a)では、主語と述語の間に直接目的語が介在してしまうため、兼語の解釈が取りにくい。インフォーマントの判断が変わった背景にはこうした理由があったと考えられる。

呉語の紹興（绍兴）では、粵語タイプの二重目的語文は原則として成立しない。

(17) \*我 拨 个 苹果 佢。<sup>3</sup> [呉語・紹興]

I GIVE CLA apple you

(ぼくはきみにリンゴをあげよう。) 佐佐木・樊晓萍 2019

(18) \*我 上 夜 拨 得 两 本 书 伊。 [呉語・紹興]

I last night GIVE ASP two CLA book him

(ぼくはきのう彼に二冊の本をやった。) 佐佐木・樊晓萍 2019

また、次のような共通語タイプの二重目的語文についても、容認可能ではあるが、その使用頻度は必ずしも高くないという。

(19) 我 拨 佢 个 苹果。 [呉語・紹興]

I GIVE you CLA apple

(ぼくはきみにリンゴをあげる。) 佐佐木・樊晓萍 2019

(20) 我 上 夜 拨 得 伊 两 本 书。 [呉語・紹興]

I last night GIVE ASP him two CLA book

(ぼくはきのう彼に二冊の本をやった。) 佐佐木・樊晓萍 2019

紹興では、直接目的語を主語と動詞の間に置いて、量詞（類別詞）だけを目的語の位置に置く次のような文が好んで用いられる。

---

<sup>3</sup> 紹興では、数詞“一”は原則として表出しない。

(21) 我 苹果 拨 偌 个。 [吴语・绍兴]

I apple GIVE you CLA

(ぼくはきみにリンゴをあげよう。) 佐佐木・樊晓萍 2019

(22) 我 上 夜 书 拨 得 伊 两 本。 [吴语・绍兴]

I last night book GIVE ASP him two CLA

(ぼくはきのう彼に二冊の本をやった。) 佐佐木・樊晓萍 2019

呉語における主題化の問題にも関わる現象であり、さらに詳しい検証が必要であるが<sup>4</sup>、共通語タイプの二重目的語文は、紹興において必ずしも安定した受益表現ではないようである。

### 2.1.2 補助動詞型

次に、補助動詞型の状況を見たい。朱德熙 1979 は、この形式が成立するためには、“给”を伴う前項動詞が授与の意味を備えていなければならないと指摘している。

(23) a. 送 给 他 一 件 毛 衣。

present-GIVE him a CLA sweater

(彼にセーターをプレゼントした。) 朱德熙 1979

b. 寄 给 我 一 个 包 裹。

mail-GIVE me a CLA parcel

(ぼくに小包を送ってくれた。) 朱德熙 1979

そのため、取得動詞や制作動詞など授与の意味を持たない動詞を用いた以下のよ  
うな文は成立しないという。

(24) a. \*我 买 给 他 一 本 书。

I buy-GIVE him a CLA book

(ぼくは彼に本を買ってやった。) 朱德熙 1979

---

<sup>4</sup> 呉語の主題化については、刘丹青 2003 を参照。

b. \*织 给 他 一 件 毛 衣。

knit-GIVE him a CLA sweater

(彼にセーターを編んでやった。) 朱德熙 1979

「買ってやる」や「編んでやる」などが問題なく成立する日本語に比べ、“V 给”の“V”が授与の意味を含んでいなければならない中国語は、“给”自身が授与動詞としての性質を色濃くとどめているといえる。その意味において、日本語の補助動詞「～テヤル」に比べ、“给”の文法化は進んでいない。

ただし、近年では、朱德熙 1979 の一般化に対する反例となる用例の存在が報告されている。邵敬敏 2009 は、以下のような実例を挙げ、“V 给”における“V”への制約が緩和されていることを指摘している<sup>5</sup>。

(25) 书 上 说 法 国 男 人 可 以 不 吃 饭 也 要 用 最 后 一 文 钱  
买 给 情 人 一 枝 花。

buy-GIVE lover a CLA flower

(本によると、フランスの男はご飯を食べなくても、最後の一銭を使って恋人に一輪の花を買ってあげられるらしい。) 邵敬敏 2009

澤田 2014 はインフォーマントに対する独自の調査を行った結果として、“买（買う）”を用いた(26a)は自然またはそれほど不自然ではないと判断されたが、“念（読む）”を用いた(26b)は容認度が低いと判断されたと報告している。

(26) a. 我 买 给 他 一 本 书。

I buy-GIVE him a CLA book

(ぼくは彼に本を買ってやった。) 澤田 2014

b. 我 念 给 他 一 首 诗。<sup>6</sup>

---

<sup>5</sup> 杉村 2007、井上 2011、神谷 2019 にも同様の指摘がある。

<sup>6</sup> “念给”については、3人中1人が適格と判断し、2人が不自然と判断したという。不適格と判断したインフォーマントはいなかったようである。

I read-GIVE him a CLA poetry  
(ぼくは彼に詩を読んでやった。) 澤田 2014

澤田 2014 は、(26a)の目的語“书(本)”は授与の対象物であるが、(26b)の目的語“诗(詩)”は授与の対象物でないという違いが関与していると述べている。モノの授与が読み込めるか否かは、補助動詞型の受益文の成立を左右する重要な要素であるといえる。

澤田 2014 は、「V 给」は文法化の途上にあり、近い将来、このタイプの受益表現が安定的に確立する可能性があることが示唆されると述べている。実際、共通語における補助動詞型はその使用範囲を拡大しつつあり、澤田 2014 が予測するように、このタイプの受益表現が安定的に確立する可能性は十分にある。言い換えれば、補助動詞型における“给”は前項動詞に対する語彙的制約を緩和し、日本語の「～テヤル」のように補助動詞としての機能語化を確立する可能性がある。

神谷 2019 は取得動詞や制作動詞を用いた動詞を「非授与義動詞」とした上で、「非授与義動詞+“给”」は、動作対象が言語的文脈上、既出であり、なおかつ「非授与義動詞」そのものに高い情報価値がある、あるいは情報伝達上、言語化しなければならないときに用いられると主張している。

(27) 河北 属 富二代, 有 辆 吉普, 有 套 房子,  
都 是 老 爸 买 给 他 的。  
all be father buy-GIVE him GEN

(河北は金持ちの二代目であり、ジープや家を持っている、それらはすべて父親が彼に買ってあげたものだ。) 常林《北京青年》 神谷 2019

上の文では、先行文脈において“买(買う)”の対象である“吉普(ジープ)”や“房子(家)”が示されている。その上で、それらは「父が買った」ものであるという情報が述べられている。非授与義動詞を用いた補助動詞型が成立するためには、こうした条件が必要であるという神谷 2019 の指摘は興味深い。

一方、東南方言における補助動詞型は、いくつかの点で共通語と異なっている<sup>7</sup>。まず、取得動詞について言えば、朱徳熙 1979 では不適格とされた“买（買う）”を用いる補助動詞型を適格と判断する地域が複数あった。寧波（宁波）と福州のインフォーマントを除いて、いずれも適格と判断した。

- (28) a. \*他 买 给 我 一 支 钢笔。 [共通語]  
 b. 伊 买 拨 我 一 支 钢笔。 [吳語・紹興]  
 c. \*其 买 拨 我 一 支 钢笔。 [吳語・寧波]  
 d. \*其 买 乞 我 蜀 把 钢笔。 [閩語・福州]  
 e. 伊 买 互 我 一 丛 铁笔。 [閩語・厦門]  
 f. 佢 买 分 僱 一 枝 铁笔。 [客家語・桃園]  
 g. 佢 买 畀 我 一 支 钢笔。 [粵語・廣州]  
 he buy-GIVE me a CLA pen  
 (彼はぼくにペンを買ってくれた。)

次のように、既存のモノに対する属性を規定する連体修飾節では、共通語も許容度は上がるが、神谷 2019 のいうコンテクストが用意されなければ、完全に適格とはならない。これに対して東南方言では、吳語の寧波を除いて何れも適格と判断された。

- (29) a. ?他 买 给 我 的 钢笔 很 好 用。 [共通語]  
 b. 伊 买 拨 我 个 钢笔 蛮 好 用。 [吳語・紹興]  
 c. \*其 买 拨 我 咯 钢笔 交关 好 用。 [吳語・寧波]  
 d. 其 买 乞 我 其 钢笔 野 好 使。 [閩語・福州]  
 e. 伊 买 互 我 的 铁笔 真 好 用。 [閩語・厦門]  
 f. 佢 买 分 僱 个 铁笔 当 好 用。 [客家語・桃園]  
 g. 佢 买 畀 我 嘅 钢笔 好 好 用。 [粵語・廣州]

<sup>7</sup> 各地のデータはインフォーマントに対する調査に基づいている。紹興：40代女性、寧波：40代女性、福州：50代男性、厦門：20代男性、桃園：40代女性、広州：20代男性。

he buy-GIVE me GEN pen very good use

(彼が買ってくれたペンはとても使いやすい。)

制作動詞については、閩語の福州と粵語の広州を除いて適格と判断された。広州のインフォーマントは取得動詞については適格と判断したが、制作動詞は容認しなかった。一方、取得動詞を容認しなかった寧波は、制作動詞については適格と判断した。このように、非授与義動詞を用いた補助動詞型に対する各地の許容度にはばらつきが見られる。

- (30) a. \*妈妈 做 给 我 一 件 衬衫。 [共通語]  
 b. 姆妈 做 拨 我 一 件 衬衫。 [吴语・绍兴]  
 c. 阿姆 做 拨 我 一 件 衬衫。 [吴语・宁波]  
 d. \*依妈 做 乞 我 蜀 件 汗衫。 [闽语・福州]  
 e. 妈 做 互 我 一 领 衫。 [闽语・厦门]  
 f. 阿姆 做 分 佢 一 领 襯衫。 [客家语・桃园]  
 g. \*阿姆 做 畀 我 一 件 襯衫。 [粤语・广州]

mother make-GIVE me a CLA shirt

(母はぼくにシャツを作ってくれた。)

閩語の厦門（厦门）では、「洗う」のような授与とは無関係な行為動詞についても補助動詞型が容認された。客家語の桃園では判断が揺れたが、明らかに不適格とはされなかった。

- (31) a. \*她 洗 给 我 一 个 苹果 [共通語]  
 b. \*伊 扠 拨 我 一 个 苹果。 [吴语・绍兴]  
 c. \*其 滂 拨 我 一 只 苹果。 [吴语・宁波]  
 d. \*伊 洗 乞 我 蜀 粒 苹果。 [闽语・福州]  
 e. 伊 洗 互 我 一 粒 苹果。 [闽语・厦门]  
 f. ?佢 洗 分 佢 一 粒 苹果。 [客家语・桃园]  
 g. \*佢 洗 畀 我 一 粒 苹果。 [粤语・广州]

she wash-GIVE me a CLA apple

(彼女はぼくにリンゴを洗ってくれた。)

ただし、同じ「洗う」という行為動詞であっても、「シャツ」を対象とする場合は、すべての地域で不適格と判断された。

- (32) a. \*她 洗 给 我 一 件 衬衫 [共通語]  
b. \*伊 扠 拨 我 一 件 衬衫。 [吴语・绍兴]  
c. \*其 澆 拨 我 一 件 衬衫。 [吴语・宁波]  
d. \*伊 洗 乞 我 蜀 件 汗衫。 [闽语・福州]  
e. \*伊 洗 互 我 一 领 衫。 [闽语・厦门]  
f. \*佢 洗 分 佢 一 领 襯衫。 [客家语・桃園]  
g. \*佢 洗 畀 我 一 件 襯衫。 [粤语・广州]

she wash-GIVE me a CLA shirt

(彼女はぼくにシャツを洗ってくれた。)

このことは、補助動詞型の受益文がモノの授与のスキーマに依拠する表現であることを端的に表している。リンゴを洗う行為とシャツを洗う行為は、具体的なモノの授与が想起されるか否かという点において違いがある。リンゴを洗う状況では、洗った後のリンゴが彼女から私へと授与される状況が読み取れるが、シャツを洗う状況にモノの授与は読み取り難い。シャツはもともと私のものであり、彼女から私に対して具体的なモノの授与はない。授与されるのは、シャツを洗うという行為であり、それに伴う恩恵である。つまり、リンゴを洗ってもらった受益者には具体的なモノの受取手の読みが成立するが、シャツを洗ってもらった受益者には受取手としての読みは成立し難い。取得動詞や制作動詞に関して条件が厳しくなかった厦門や桃園であっても、補助動詞型はモノの授与というスキーマに依拠していることを示している。

インフォーマントの年代が一致していないので、世代差の問題が含まれている可能性も否定できないが、東南方言では前項動詞に対する語彙的制約が比較的緩やかであり、総じて補助動詞型の受益文が容認されやすい。前項動詞に対する制限が緩

やかであるということは、この形式における授与動詞が、日本語の「～テヤル」のように、補助動詞としての機能語化を確立しつつあることを意味する。このことから、補助動詞型における東南方言の授与動詞は、共通語の“給”に比べて、文法化が進んでいるということが出来る。

### 2.1.3 受給者後置型

モノの受取手としての受益者を表示する最も安定的な表現は受給者後置型である。モノの授与がありさえすれば、授与動詞、取得動詞、制作動詞など、動詞の語彙的性質に関わらずこの形式を構成することができる。

(授与動詞)

- (33) a. 我 送 一 个 苹果 给 你。 [共通語]  
 b. 我 送 一 个 苹果 拨 侬。 [吴语・绍兴]  
 c. 我 送 一 只 苹果 拨 依。 [吴语・宁波]  
 d. 我 送 一 粒 苹果 乞 汝。 [闽语・福州]  
 e. 我 送 一 粒 苹果 互 你。 [闽语・厦门]  
 f. 侬 送 一 粒 苹果 分 你。 [客家语・桃园]  
 g. 我 送 一 粒 苹果 畀 你。 [粤语・广州]

I present a CLA apple GIVE you

(きみにリンゴを一つプレゼントしてあげよう。)

(取得動詞)

- (34) a. 我 买 一 个 苹果 给 你。 [共通語]  
 b. 我 买 一 个 苹果 拨 依。 [吴语・绍兴]  
 c. 我 买 一 只 苹果 拨 依。 [吴语・宁波]  
 d. 我 买 一 粒 苹果 乞 汝。 [闽语・福州]  
 e. 我 买 一 粒 苹果 互 你。 [闽语・厦门]  
 f. 侬 买 一 粒 苹果 分 你。 [客家语・桃园]  
 g. 我 买 一 粒 苹果 畀 你。 [粤语・广州]

I buy a CLA apple GIVE you

(きみにリンゴを一つ買ってあげよう。)



(制作動詞)

- (35) a. 妈妈 做 一 件 衬衫 给 我。 [共通語]  
b. 姆妈 做 一 件 衬衫 拨 我。 [吴語・紹興]  
c. 阿姆 做 一 件 衬衫 拨 我。 [吴語・寧波]  
d. 依妈 做 蜀 件 汗衫 乞 我。 [閩語・福州]  
e. 妈 做 一 领 云衫 互 我。 [閩語・厦門]  
f. 阿姆 做 一 领 襯衫 分 厝。 [客家語・桃園]  
g. 阿姆 做 一 件 襯衫 畀 我。 [粵語・廣州]  
mother make a CLA shirt GIVE me

(お母さんはぼくにシャツを作ってくれた。)

調査した限りにおいて、北方方言と東南方言のいずれにあっても、受給者後置型の受益文を持たない地域はなく、その成立条件についても、地域間の差異は観察されなかった。

その構造に注目すれば、受給者後置型の受益文は、複数の動詞句が連なって現れる連動構造 (serial verb construction) を構成しているということが出来る。木村 2017 は、中国語の連動構造には大きく 4 つのタイプがあると述べている<sup>8</sup>。

1) 〈移動〉 + 〈目的〉:

- (36) [ 去 杭州 ] [ 旅行 ]  
go Hangzhou trip  
(杭州へ行って旅行する: 杭州へ旅行に行く。)

2) 〈手段〉 + 〈目的〉:

- (37) [ 写 信 ] [ 通知 你 ]  
write letter inform you  
(手紙を書いてあなたに知らせる。)

3) 〈様態〉 + 〈動作〉:

---

<sup>8</sup> 例文中の[ ]は筆者による。

(38) [ 躺 着 ] [ 看 报纸 ]  
lie ASP read newspaper  
(寝そべって新聞を読む。)

4) 〈前提〉 + 〈動作〉 :

(39) [ 有 可能 ] [ 回 国 ]  
have possibility back country  
(帰国する可能性がある。) 木村 2017:270

受給者後置型の受益文は、〈手段〉 + 〈目的〉タイプに該当すると考えられる。つまり、先に見た“送一个苹果给你(リンゴを一つプレゼントしてあげる)”についていえば、“送一个苹果(リンゴを一つプレゼントする)”という〈手段〉を通して、“给你(きみに与える)”という〈目的〉を実現することを表しているのである。

(40) [ 送 一 个 苹果 ] [ 给 你 ]  
present a CLA apple GIVE you  
(きみにリンゴをプレゼントする。)

従って、ここでの授与動詞は「与える」という本動詞の意味と機能をそのまま引き継いでいるとあってよい。連動構造に基づく受給者後置型の受益文は、その成立条件に地域間の差異が見られることがなく、授与対象を表示するための表現としては、最も安定した形式であるといえる。

## 2.2 受益者表示の受益表現

### 2.2.1 受益者前置型

次に、受益者前置型についてみたい。ここでの“给”は一定の文法化を遂げた前置詞として動詞句の前に受益者を表示する機能を担っている。

- (41) 我 给 他 买 了 一 本 书。  
I GIVE him buy ASP a CLA book

(ぼくは彼に本を買ってあげた。)

- (42) 我 给 孩子 洗 衣服。  
I GIVE child wash clothes

(私は子どものために洗濯してやる。)

“给”によって導入される受益者は、(41)のようにモノの受取手であってもよいし、(42)のようにモノの受取手でなくてもよい。朱德熙 1979 は、この形式における“给”の品詞について、モノの受取手である場合を動詞、そうでない場合を前置詞と区別した。しかし、施关淦 1981 は朱德熙 1979 の区別に問題があることを指摘している。モノの受取手を導く“给”を動詞とみなした場合、構造的には連動構造を構成していることになる。そうであれば、時間の発生順に並ぶという連動構造の原則を逸脱してしまうと施关淦 1981 は主張する。(41)について言えば、「彼に与える」という行為の後に「本を買う」という行為を行ったことになり、時間的に明らかな矛盾が生じる。本研究は施关淦 1981 の主張を支持し、動詞句の前に受益者を表示する“给”は、モノの受取手であるか否かに関わらず、すべて前置詞であると考える。

前節でみた補助動詞型や受給者後置型とは異なり、受益者前置型は付加詞成分 (adjunct) であり、文の構成に必須の要素ではない。その意味では、日本語の「～タメニ」に匹敵する成分である。ただし、ここでの“给”は前置詞に文法化を遂げてはいるものの、動詞の語彙的性質をその機能の中にとどめており、その意味では完全な機能語にはなっていない。

例えば、受益者である“孩子 (子ども)”の代わりに洗濯をするという場合でも、動作行為の対象である“衣服 (服)”は、原則として受益者の所有物でなければならない。

- (43) \*我 给 孩子 洗 小 王 的 衣服。  
I GIVE child wash PFX Wang GEN clothes

(私は子どものために (かわりに) 王さんの服を洗濯する。)

他人の服を受益者に代わって洗濯することによって、受益者に利益がもたらされるといっただけでは、受益者前置型は成立しない<sup>9</sup>。木村 2000 は、この形式には「奉仕」「服務」あるいは「労務」を含意する動詞しか共起しないと述べているが、要するに受益者に対する直接的な働きかけが必要とされるということである。面倒を見たり、世話をしたりする状況が読み取れなければ、受益者前置型は成立しない。前置詞“給”の機能に見られるこうした性質は、「与える」という意味の授与動詞に備わる文法的特徴が保持されていることを示している。

したがって、日本語の「～タメニ」では問題なく成立する以下のような文も、受益者に対する直接的な働きかけが欠如しているため、“給”を用いた受益者前置型は成立しない。

- (44) a. 僕は子供のために毎日残業する。  
 b. ?我 天 天 给 孩子 加班。 佐々木 1994  
 I every day GIVE child add work
- (45) a. 僕は親のために大学へ進学した。  
 b. \*我 给 父母 上 大学 了。 佐々木 1994  
 I GIVE parents go university MOD

毎日残業することで収入を得て、その結果として子どもに経済的な利益が及ぶことは十分に想定されるのだが、そうした間接的な利益の享受者は、前置詞“給”によって導くことはできない<sup>10</sup>。また、自身が大学へ行くことで親が如何に喜ぼうとも、親への直接的な働きかけが何ら読み取れない状況において、受益者前置型を用いることはできない。

---

<sup>9</sup> 日本語としては「子供のために王さんの服を洗濯する。」は許容可能である。「タメニ」によって代替受益者を導入することは可能である。

娘の {ために／かわりに} 孫の面倒をみる。

<sup>10</sup> “我天天给孩子加班（子供のために毎日残業する）。”は完全に不適格な文とは言えないようである。例えば、子供と同じ職場に勤めている父親が、子供を労わって残業を毎日代わってやるような状況では、この文は十分に許容可能である。

そうした場合、やや書面語的な前置詞ではあるが、“为”または“为了”を用いることになる。

(46) 我 天天 为 孩子 加 班。  
I every day for child add work  
(ぼくは子供のために毎日残業する。)

(47) 我 为了 父母 上 大学。  
I for parents go university  
(親のために大学へ行く。)

受益者前置型に関わる興味深い現象として、朱德熙 1979 は三項動詞がこの形式とは共起しないことを指摘している。

(48) ?我 给 他 卖 了 一 辆 车。  
I GIVE him sell ASP a CLA car  
(ぼくは彼に車を売った。) 朱德熙 1979

(49) ?我 给 他 还 了 一 本 书。  
I GIVE him return ASP a CLA book  
(ぼくは彼に本を返した。) 朱德熙 1979

朱德熙 1979 は、三項動詞を無理にこの形式にあてはめれば、そこでの“给”は動詞ではなく前置詞である、すなわち受益者はモノの受取手ではないと述べている。受益者前置型になぜ三項動詞は馴染まないのか。朱德熙 1979 はその理由については言及していない<sup>11</sup>。

同様の現象は「～タメニ」を用いた日本語の受益文にも見られる。

(50) ぼくは彼のために車を売った。

---

<sup>11</sup> 盧涛 1993 は“张三给李四送一本书。”における“李四”に受け手(受取手)の解釈が成立すると指摘しており、朱德熙 1979 とは異なる判断を示している。

(51) ぼくは彼のために本を返した。

日本語の場合、「タメニ」が導く受益者が受取手である可能性を完全には否定できない。しかし、(50)について言えば、車を彼に売ってやったという解釈よりも、彼を助けるために別の第三者に車を売ったという解釈の方が明らかに優勢である<sup>12</sup>。

この現象に関して、中国語と日本語の付加詞型の受益文には同じ原理が働いているものと考えられる。三項動詞にとって、授与の対象を表示する最も単純な方法とは、二重目的語文の形式によって間接目的語としてそれを表示することである。二重目的語文は三項動詞にとって受取手を表示する無標 (unmarked) の形式にあたる。これに対して、受益者前置型や「タメニ」を用いる付加詞型の形式は有標 (marked) の形式にあたる。本来、付加詞型の受益文は、モノの受取手としての受益者を表示することは不可能ではない。しかし、三項動詞にとって付加詞型の受益文は有標の形式にあたるため、無標の形式とは異なる解釈が優勢になるのである。受取手ではない受益者の解釈が優勢になるのはそのためである。

このように、授与動詞“給”は動詞の原義を留めつつも、一定の文法化を遂げた前置詞として受益者を表示する機能を担っている。しかし、これは共通語の“給”の状況である。東南方言では、これとは異なる現象が観察される。

東南方言では、一部の例外的な地域を除いて、授与動詞を用いた受益者前置型の受益文が成立しない。

(52) a. 我 拨 依 一 只 苹果。 [吴语・宁波]

I GIVE you a CLA apple

(ぼくはきみにリンゴをあげる。)

b. \*我 拨 依 买 衣裳。 [吴语・宁波]

---

<sup>12</sup> 日本語では「タメニ」によって受益者を導き、なおかつ三項動詞が補助動詞「テヤル」を伴う文が成立する。「テヤル」を伴わない文に比べて、受益者がモノの受取手である読みは強くなるが、受取手でないという読みも依然として成り立つ。

(a) ぼくは彼のために車を売ってやった。

(b) ぼくは彼のために本を返してやった。

- I BEN you buy clothes  
(ぼくはきみに服を買ってあげる。)
- (53) a. 我 乞 汝 蜀 粒 苹果。 [闽语・福州]  
I GIVE you a CLA apple  
(ぼくはきみにりんごをあげる。)
- b. \*我 乞 汝 画 蜀 张 图。 [闽语・福州]  
I BEN you draw a CLA map  
(ぼくはきみに地図を描いてあげる。)
- (54) a. 侬 分 你 一 粒 苹果。 [客家语・桃园]  
I GIVE you a CLA apple  
(ぼくはきみにりんごをあげる。)
- b. \*侬 分 你 买 一 领 襯衫。 [客家语・桃园]  
I BEN you buy a CLA shirt  
(ぼくはきみにシャツを買ってあげる。)
- (55) a. 佢 畀 本 书 我。 [粤语・广州]  
he GIVE CLA book me  
(彼はぼくに本をくれた。)
- b. \*佢 畀 我 买 书。 [粤语・广州]  
he BEN me buy book  
(彼はぼくに本を買ってくれた。)

従来の研究では、こうした現象が積極的に取り上げられることは少なかった。しかし、本研究が問題としている受動文や処置文といった有標ヴォイス構文の分析にとって、授与動詞が受益者を導く前置詞に文法化を遂げていないという現象は、第4章や第5章で見るように、きわめて重要な意味を持つ。

呉語の紹興は、東南方言にありながら、「与える」という意味の授与動詞を用いた受益者前置型の受益文を許容する数少ない地域の一つである<sup>13</sup>。

<sup>13</sup> 授与動詞を用いた受益者前置型の受益文は、呉語の杭州（钱乃荣 1992）、徽語の休寧（平田 1998）についても報告されている。紹興とこれらの地域は地理的に近接している。

- (56) 我 拨 伢 爹爹 姆妈 送 袋 六谷粉 去。《翠》<sup>14</sup>  
 I BEN my father mother send CLA Liugufen go  
 (私は私の父と母に六谷粉を届けに行った。) [吴语・绍兴]
- (57) 哥哥, 拨 我 买 啥 西 来 哉? 《翠》  
 brother BEN me buy what things come MOD  
 (お兄さん、私に何を買ってきてくれたの。) [吴语・绍兴]
- (58) 我 只 不过 欢喜 葛 块 布料,  
 想 拨 自己 做 件 出 嫁 个 衣裳。《翠》  
 want BEN myself make CLA wedding of dress [吴语・绍兴]  
 (この生地が好きだけで、自分のために花嫁衣裳を作りたいんです。)
- (59) 阿姐, 我 拨 侬 捉 鱼 去。《翠》 [吴语・绍兴]  
 sister I BEN you catch fish go  
 (お姉さん、魚を捕まえてきてあげるよ。)

紹興では、上のような“给予対象（授与の対象）”のほか、以下のような“服务对象（サービスの対象）”としての受益者を導くこともできる。

- (60) 伊 通常 拨 我 庠 衣裳。 [吴语・绍兴]  
 she often BEN me wash clothes  
 (彼女はいつも私のために洗濯してくれる。)
- (61) 姆妈 日日 拨 小人 刷 牙齿。 [吴语・绍兴]  
 mother every day BEN child brush teeth  
 (お母さんは毎日子供の歯を磨いてやる。)
- (62) 我 来 拨 侬 拣 好 个 日脚 哉。《翠》  
 I come BEN you select good of date MOD [吴语・绍兴]  
 (お前のために良い日を選んでやろう。)

<sup>14</sup> 《翠》は紹興の地方劇「绍兴莲花落」の一つである《翠姐姐回娘家》から採取した例であることを示す。 <https://v.qq.com/x/page/s0697521tms.html>



さらには、共通語の“給”が許容しない代替行為による利益供与を表す状況についても、授与動詞を用いた受益者前置型が成立する。

(63) 我 拨 侬 去 菜 市场。 [吴语・绍兴]

I BEN you go vegetable market

(きみの代わりに市場へ行ってあげる。)

(64) 阿 翠 姑， 我 眼睛 有 些 花， 《翠》 [吴语・绍兴]

侬 来 拨 我 数 数， 小 鸡 有 几 只 咯。

you come BEN me count-count small bird be how many CLA MOD

(翠ねえさん、私は目がぼやけてしまっているので、わたしの代わりに小鳥が何羽いるか数えてくれませんか。)

(65) 姐姐， 我 脚 胖 酸 啊 酸 煞 哉， [吴语・绍兴]

侬 来 拨 我 踏 歇 好 勿 好？ 《翠》

you come BEN me tread a while good not good

(ねえさん、あたしはもう足がパンパンで痛くてたまらないの。わたしの代わりにしばらく踏んでくれませんか。)

共通語の前置詞“给”は、動詞の語彙的性質から制約を受けるため、行為者が受益者に対して直接的に働きかける状況しか表すことができない。そのため、以下のような文は共通語としては許容され難い。

(66) \*我 给 你 去 菜 市场。 [共通語]

I BEN you go vegetable market

(きみの代わりに市場へ行ってあげる。)

(67) ?你 来 给 我 数 数， 小 鸡 有 几 只。 [共通語]

you come BEN me count-count small bird be how many CLA

(わたしの代わりに小鳥が何羽いるか数えてくれませんか。)

(68) ?你 来 给 我 踩 会 儿 好 不 好？ [共通語]

you come BEN me tread while good not good

(わたしの代わりにしばらく踏んでくれませんか。)

一方、紹興では、「与える」という意味の授与動詞“拨”によって、これらの詩受益者が問題なく導入されている<sup>15</sup>。授与の意味に制約を受けない紹興の“拨”は、共通語の“给”に比べ、より高度な文法化を遂げていると言ってよい。

紹興のような例外的な地域を除けば、東南方言の授与動詞は受益者前置詞型の受益文を構成することができない。つまり、東南方言では授与動詞が受益者前置詞に文法化を遂げていない。しかし、将来的には、紹興のような地域が増えていくことも予測される。

钱乃荣 1997 は、呉語の上海について以下の例を挙げ、“新派（新しい（若い）世代）”は、授与動詞“拨[pəʔ<sup>5</sup>]”を受益前置詞として使用することを報告している。

- (69) 伊 拨 我 送 过 来 八 只 月 饼。 [吴语・上海]  
he BEN me send-over-come eight CLA moon cake  
(彼は私に月餅を8個とどけてきた。) 钱乃荣 1997:182

また、閩語の福州の授与動詞“乞”についても、陈泽平 1998 は以下のような受益者前置型の受益文を適格な文として挙げている。

- (70) 我 乞 汝 剃 头。 [闽语・福州]  
I BEN you shave head  
(頭を剃ってやろう。) 陈泽平 1998:153

福州の授与動詞“乞”に受益者を導く用法が容認される背景には、共通語からの影響が考えられる。上海と同様に、共通語の授与動詞“给”の機能をそのまま転写した可能性がある。さらにもう一つの可能性として、前置詞“共[koyŋ<sup>242</sup>]”との混

---

<sup>15</sup> 共通語の“给”についても、受益前置詞の用法はその範囲を拡大しつつあり、代替行為による受益者の許容度は高まっている。インフォーマントによれば、代わりに市場へ行く状況を表す(66)に比べて、(67)や(68)の許容度は高いという。

同が考えられる。福州の“共”は随伴者や受益者、さらには処置対象を導く機能を備えた前置詞である。

(71) 我 先 回 共 各依 商量 𠄎 介 讲。[闽语・福州]  
I first back COM everyone consult MOD again talk

(帰ってみみんなと相談してからにします。) 陈泽平 1998:153

(72) 汝 共 我 行 蜀 头。 [闽语・福州]  
you BEN me go one time

(代わりに行って来てくれ。) 陈泽平 1998:154

(73) 伊 共 我 其 车 骑 去。 [闽语・福州]  
he ACC I GEN bicycle ride-go

(彼はぼくの自転車を乗って行ってしまった。) 陈泽平 1998:154

陈泽平 1998 によれば、日常会話では、前置詞の“共”は轻声化し、[ky<sup>3</sup>]と発音されるという。一方、授与動詞の“乞”も前置詞として使用される場合にはしばしば轻声化し、[khy<sup>3</sup>]または[ky<sup>3</sup>]と発音されるという<sup>16</sup>。轻声化後の発音が類似（または一致）したことによって、両者の機能を混同するようになった可能性が指摘されている。

共通語との接触が多い話者にとって、授与動詞を受益前置詞として使用することに、さほど大きな抵抗はないものと思われる。授与動詞“给”が受益者前置型を構成することに慣れた話者が、自らの方言の授与動詞にもその機能を担わせるという状況は十分に考えられる。ヴォイス標識のスイッチング (switching) とも呼ぶべきこうした現象は、各地の東南方言に広がっていくことが予想される。

## 2.2.2 前置詞“给”の語用論的特徴

次に、日本語との対照を通して、共通語の前置詞“给”の語用論的特徴について検討してみたい。はじめに、楊凱榮 2009 が挙げる次の3種類の日本語の受益文を参

---

<sup>16</sup> 陈泽平 1998:198 は、[ky<sup>3</sup>]は弱化によって有気音の性質が失われた結果であると述べている。

照されたい。

- (74) a. 先生、私がお持ちしましょうか。  
b. ?先生、私が持ってあげましょうか。  
c. 先生、私が持ちましょうか。 楊凱榮 2009:4

楊凱榮 2009 は、語用論的観点から言えば、(74a)が最も相応しく、受益を表す(74b)は語用論的条件に抵触する、日本語では「目上の人」または敬意を払われるべき人物が相手の場合、その人への恩恵授与を明示すると失礼な言い方になってしまう、と述べている<sup>17</sup>。

一方、受益者である教師を前置詞“給”によって表示する次の(75)は、中国語として何ら問題ない。

- (75) 老师， 我 给 你 拿 吧。  
teacher I GIVE you bring MOD  
(先生、私が持ってあげましょう。)

楊凱榮 2009 は、上の文には日本語のような語用論的含意はなく、“给”は単なる与格名詞としての受益者を導入しているに過ぎないと述べている。受益表現に関する日中両言語の語用論的条件の差異を端的に示す現象であり、楊凱榮 2009 の指摘は興味深い。

しかし、ではなぜ中国語の受益文では目上の人物に対する恩恵授与が語用論的制約を受けないのであろうか。そうした語用論的配慮に対して中国語はつねに無関心であると言えるのか。恩恵授与を表す受益者前置型の受益文の性質をあらためて検討してみたい。

---

<sup>17</sup> 同様の指摘は楊凱榮 1994:112 にも見られる。楊凱榮 1994:112 は「日本語の表現においては、事実として自分の行為が相手のためになされるものであっても、待遇表現として敬意を払うべき人に対してはそれを明示的な形(てあげる)で表現するのはやはり慎まなければならない」と述べている。

確かに、中国語では目上の相手に対しても前置詞“给”を用いて恩恵授与を表すことが可能である。「助ける」という意味の援助動詞が文法化した前置詞“帮”を用いた方がより丁寧であると感じるインフォーマントもいるが、教師に対する恩恵授与を表す文に“给”を用いることは、語用論上不適格ではなく、とくに不躱であるとはいえない。

(76) 老师， 我 给 你 拿 吧。

teacher I GIVE you bring MOD

(77) 老师， 我 帮 你 拿 吧。

teacher I HELP you bring MOD

(先生、私がお持ちしましょう。)

以下の例では、恩恵授与の対象に敬語形の二人称“您”が使用されている。このことからわかるように、“主席”や“李师傅”は話し手にとって敬意をもって接すべき人物である。これらの人物を“给”によって表示することに、語用論的な問題は生じない。

(78) “主席， 我 给 您 检查 一 下 身体。”

president I GIVE you check a little body

(主席、お身体を検査いたしましょう。) (CCL<sup>18</sup>)

(79) “李 师傅， 我 给 您 戴上 吧！”

Li master I GIVE you put-on MOD

(李師匠、私が(バッジを)お付けしましょう!) (CCL)

これらの例においても、以下のように“给”の代わりに“帮”を用いることは可能であり、その方が丁寧だと感じるインフォーマントがいることは事実である。しかし、“给”を用いた上の(78)や(79)がことさら不躱で失礼だと感じられることはない。

---

<sup>18</sup> CCL : 北京大学中国语言学研究中心のコーパス“現代汉语语料库”による。

(80) 主席，我 帮 您 检查 一 下 身体。

president I HELP you check a little body

(主席、お身体を検査いたしましょう。) (CCL)

(81) 李 师傅，我 帮 您 戴上 吧！

Li master I HELP you put-on MOD

(李師匠、私が（バッジを）お付けしましょう！) (CCL)

これに対して、目上の人物に対する恩恵授与を表すこれらの状況に対して、「てやる（てあげる）」を用いた日本語は語用論上あきらかに不適格となる<sup>19</sup>。

(82) #主席、お身体を検査してあげましょう。

(83) #李師匠、私が（バッジを）付けてあげましょう。

恩恵授与に関わるこのような語用論的制約の違いは、日本語と中国語の事態把握の違いがもたらす現象の一つと考えられる。客観的な事態把握を好む中国語では、話し手の視点は事態の外にあり、授受行為は舞台上のやり取りを描くかのように表現される。そこでは恩恵授与を行う話し手も登場人物の一人であり、登場人物間の上下親疎の関係はことさら問題とはならない。一方、主観的な事態把握を好む日本語では、話し手の視点から体験的に事態を描くため、話し手と恩恵授与の対象との上下親疎の関係がつねに問題となる。下から上への恩恵授与には上から目線の恩着せがましさがつきまとう。そこには話し手の視点を離れて恩恵授与を表現することが難しい日本語と、事態の外から観察的にやり取りを捉える中国語の違いを見て取ることができる。

しかし、中国語の受益者前置型に語用論的制約がまったくないというわけではな

---

<sup>19</sup> 謙譲語の「さしあげる」を用いても、上から目線の恩着せがましさは完全には払拭しがたい。山田 2004 を参照。

#主席、お身体を検査してさしあげましょう。

#李師匠、私が（バッジを）付けてさしあげましょう。

い。永江 2005 によれば、教師に対して窓を開けてくれるよう依頼する状況において、“給”を用いた受益文の使用は失礼にあたり、通常は“給”に代わって“帮”が選択されるという<sup>20</sup>。

- (84) a. 老师, 麻烦 您, 帮 我 开 窗户 好 吗?  
teacher bother you HELP me open window good MOD  
b. #老师, 麻烦 您, 给 我 开 窗户 好 吗?  
teacher bother you GIVE me open window good MOD  
(先生、すみません、窓を開けていただけますか。) 永江 2005

永江 2005 が指摘する通り、目上の人物に対して荷物を持ってくれるよう頼む次の文においても、複数のインフォーマントが“給”よりも“帮”の方が相応しいと判断した<sup>21</sup>。

- (85) a. 王 老板, 您 帮 我 拿 一 下 行李 好 吗?  
Wang boss you HELP me bring a little baggage good MOD  
b. #王 老板, 您 给 我 拿 一 下 行李 好 吗?  
Wang boss you GIVE me bring a little baggage good MOD  
(王社長、荷物をもつていただけますか。) 佐々木 2017

ところが、話し手に対する恩恵授与を求める場合であっても、次のような状況で

---

<sup>20</sup> ここでの“#”は依頼表現としての適性を問題にしている。目上の人物を“給”によって導入することがつねに不適格というわけではない。例えば、客観的事実を描写する文ではまったく問題なく成立する。

我 给 老师 写 了 一 个 条子。

I GIVE teacher write ASP a CLA strip

(ぼくは先生にメモを書いた。)

<sup>21</sup> この現象には地域差の問題も含まれている。台湾国語では、目上の人物に対して“给”の受益文を用いることは厳しく制限されるようである。永江 2010 を参照。

は“給”の使用はとくに問題とならない。少なくとも、窓を開けたり荷物を持ったりすることを依頼する上の(84b)や(85b)に比べて、その許容度は高くなる。

(86) a. 老师, 麻烦 您, 帮 我 签 个 字 好 吗?

teacher bother you HELP me sign CLA signature good MOD

b. 老师, 麻烦 您, 给 我 签 个 字 好 吗?

teacher bother you GIVE me sign CLA signature good MOD

(先生、すみません、サインをいただけますか。) 佐々木 2017

(87) a. 李 大夫, 您 帮 我 检 查 一 下 身 体 好 吗?

Li doctor you HELP me check a little body good MOD

b. 李 大夫, 您 给 我 检 查 一 下 身 体 好 吗?

Li doctor you GIVE me check a little body good MOD

(李先生、身体を检查一下してくださいませんか。) 佐々木 2017

“给”の使用が語用論的にとくに問題とならないこれらの例に共通することは、話し手からの依頼内容が想定内の行為遂行を促しているという点にある。即ち、教師にとって学生の書類にサインすることや、医者にとって患者の身体を検査することは日常業務の一環であって、ことさら特別な要求ではない。これに対して、窓を開けたり荷物を持ったりすることは予想を外れた要求であり、「消極的フェイス (Negative face<sup>22</sup>): 相手に自分の領域を邪魔されたくないという欲求」が大きく脅かされる。つまり、話し手の依頼内容が目上の人物の消極的フェイスを大きく脅かす場合には、中国語においても“给”を用いた恩恵授与の受益文は回避されるのである<sup>23</sup>。

たとえ想定内の依頼内容であっても、目上の人物への依頼表現には“帮”を用いる方がよいと感じる話者がいる可能性は十分にある。しかし、ここで注目すべきは、中国語の恩恵授与にも上に見たような語用論的制約が存在するという事実である。

---

<sup>22</sup> Brown & Levinson 1987 を参照。

<sup>23</sup> 依頼行為と消極的フェイスの関係については、山岡・牧原・小野 2010 を参照。



話し手自身への恩恵授与を求める依頼表現では、中国語においても相手との上下親疎の関係に無関心であることはできないのである。

このような現象は、日本語に比べて客観的な事態把握を好む中国語においても、話し手自身への恩恵授与を求める状況では、当事者としての主観的な事態把握が優勢になることを示している。言い換えれば、受益者が話し手自身である場合には、事態の中に身を置く体験者の視点から主観的に恩恵授与を求めざるを得ないのである。依頼内容が目上の人物の消極的フェイスを大きく脅かす場合には、“給”を用いた恩恵授与の受益文は回避されることになる。

以上、恩恵授与を表す受益表現について、事態把握の観点から日本語と中国語の違いについて考察した。これまでの研究では、日本語の「てやる」には目上の人物に対して使いにくいという語用論的制約が認められるのに対して、中国語の“給”にはそうした制約が存在しないと考えられてきた。しかし、中国語の恩恵授与が相手との上下親疎の関係に対してつねに無関心であるというわけではない。話し手自身への恩恵授与を求める状況において、依頼内容が相手の消極的フェイスを大きく脅かす場合には、目上の人物に対して“給”による受益者前置型の受益文を用いることは憚られる。つまり、中国語においても語用論的制約によって授受表現を回避しなければならない状況がある。こうした現象は、客観的な事態把握を好む中国語にあっても、話し手自身に対する恩恵授与を求める状況では、日本語と同様に主観的な事態把握が優勢となることを示している。

## 2.3 動詞句直前型

### 2.3.1 強調の“給”再考

本節では、以下のような動詞句の直前に現れる授与動詞の文法的性質について考えてみたい。

(88) 房间 都 给 收拾 好 了。

room all GIVE clean-good MOD

(部屋はすっかり片付いた。) 《现代汉语八百词》

(89) 衣服 给 晾干 了。

clothes GIVE air-dry MOD

(服は乾いた。) (同上)

動詞句の直前に現れるこの種の“给”には、これまでもさまざまな解釈がある。それらはおよそ次の二つの点において共通している。一つは、「文法的にあってもなくてもよい」とする点である。即ち、文の成立に関して“给”は何ら影響を及ぼすものではないと理解されてきた。事実、上の二文から“给”を除いた次の(90)や(91)は問題なく成立する。

(90) 房间 都 收拾 好 了。

room all clean-good MOD

(部屋はすっかり片付いた。)

(91) 衣服 晾干 了。

clothes air-dry MOD

(服は彼によって乾かされた。)

もう一つは、「意味を強める働きがある」とする点である。「強調」の“给”と呼ばれるのはそのためであるが、言い換えれば、ここでの“给”には受動や処置の意味を強めること以外に文法的な役割が認められてこなかった。

この種の“给”は、受動文や処置文のような有標ヴォイス構文の動詞句の直前に現れることが少なくない。

(受動文)

(92) 房间 都 让 我们 给 收拾 好 了。

room all PAS us GIVE clean-good MOD

(部屋は私たちによってすっかり片付けられた。)

(93) 衣服 让 他 给 晾干 了。

clothes PAS him GIVE air-dry MOD

(服は彼によって乾かされた。)

(処置文)

(94) 我们 把 房间 都 给 收拾 好 了。

we ACC room all GIVE clean-good MOD

(私たちは部屋をすっかり片付けた。)

(95) 他 把 衣服 给 晾干 了。

he ACC clothes GIVE air-dry MOD

(彼は服を乾かした。)

以下に示すように、上の受動文や処置文において、“给”の有無は文の成立には関与しない。そのため、“给”は受動や処置の意味を強めるための助詞であると説明されてきた。

(受動文)

(96) 房间 都 让 我们 收拾 好 了。

room all PAS us clean-good MOD

(部屋は私たちによってすっかり片付けられた。)

(97) 衣服 让 他 晾干 了。

clothes PAS him air-dry MOD

(服は彼によって乾かされた。)

(処置文)

(98) 我们 把 房间 都 收拾 好 了。

we ACC room all clean-good MOD

(私たちは部屋をすっかり片付けた。)

(99) 他 把 衣服 晾干 了。

he ACC clothes air-dry MOD

(彼は服を乾かした。)

この種の“给”に対しては、目的語が省略された前置詞であるとする見方がある。朱德熙 1982 は次の二つの文をあげて、前置詞“给”の目的語は省略できると述べている。

- (100) 房子 给 (土匪) 烧 了。  
house PAS bandit burn MOD  
(部屋は匪賊に焼かれた。) 朱德熙 1982
- (101) 你 给 (我) 帮 帮 忙。  
you BEN me help-help busy  
(ちょっと手伝ってくれ。) 朱德熙 1982

(100)は受動文の動作者が省略された例であり、(101)は受益者が省略された例である。しかし、目的語の省略という見方に対して、山田 1998 は目的語を復元できない例があることを指摘している。

佐々木 1996 は、動詞句直前に現れる“给”を抽象的な方向性を表す成分と分析した。一方、李炜 2001 は動作対象と照応する三人称代名詞“它”の省略説を提示している。また、温锁林・范群 2006 は、この種の“给”は焦点化マーカ―であると主張している。

黄蓓 2016 は、動詞句直前の“给”を主観性マーカ―と捉えた上で、“说话人的移情(話者の感情移入)”を表す成分であると主張している。神谷 2019 は、先行研究の主張に対する問題点を踏まえた上で、この種の“给”は単に目的語を省略したものではなく、動詞“给”が機能語化を経て、前置詞とは異なる機能を獲得したものであると結論付けている。そして、この種の“给”の機能を話者の主観的な認定を表す成分と分析している。

本研究は、動詞句直前の“给”を主観的な成分と見る黄蓓 2016 や神谷 2019 の分析に同意する。受益表現に関わる授与動詞の機能の中でも、この種の“给”は最も文法化のレベルが高い成分であり、事態に対する話者の捉え方を示すきわめて主観的な成分であると考えられる。佐々木 1996 では「抽象的な方向性」を表す成分と見なしたが、黄蓓 2016 や神谷 2019 の分析を踏まえ、「主観的な方向性」を表す成分に改める。

成立過程や意味機能に関する解釈はさまざまであるが、この種の“给”が「与える」という実義を抽象化した機能語であるという点については、先行研究の理解はほぼ一致している。本研究は、単なる前置詞の目的語省略という立場はとらないが、

動詞句直前型は受益者前置型が文法化を経て成立した形式であり、受益表現に関わる“给”の機能の中でも、最も文法化のレベルが高い用法であると考えられる。

動詞句直前型を受益者前置型から文法化した形式と考える一つの根拠に、東南方言の授与動詞に、この種の用法がまったく見られないことが挙げられる。前節で見たように、東南方言の授与動詞は受益前置詞としての機能を持たない。そうした地域では、例外なく動詞句直前用法も存在しない。動詞句直前用法があるにも関わらず、受益前置詞としての機能がないという地域はない。このことから、動詞句直前型は受益者前置型からの拡張と見るのが妥当と思われる。

呉語の紹興の授与動詞“拨[peʔ<sup>45</sup>]”は、東南方言としては例外的に受益前置詞の機能を持つ。しかし、動詞直前用法は持たない。

(102) a. 哥哥， 拨 我 买 啥 西 来 哉？ [呉語・紹興]

brother GIVE me buy what things come MOD

b. \*哥哥， 拨 买 啥 西 来 哉？ [呉語・紹興]

brother GIVE buy what things come MOD

(お兄さん、何を買ってきてくれたの。)

(103) a. 伊 通常 拨 我 庠 衣裳。 [呉語・紹興]

she often GIVE me wash clothes

b. \*伊 通常 拨 庠 衣裳。 [呉語・紹興]

she often GIVE wash clothes

(彼女はいつも洗濯してくれる。)

(104) a. 伊 拨 佢 敲 得 去 哉。 [呉語・紹興]

he PAS someone hit ASP go MOD

b. \*伊 拨 佢 拨 敲 得 去 哉。 [呉語・紹興]

he PAS someone GIVE hit ASP go MOD

(彼は誰かに殴られた。)

(105) a. 我 则 伊 敲 得 顿。 [呉語・紹興]

I ACC him hit ASP CLA

b. \*我 则 伊 拨 敲 得 顿。 [呉語・紹興]

I ACC him GIVE hit ASP CLA

(ぼくは彼を一発殴った。)

ある文法成分の有無が文の成立を大きく左右しないからといって、その成分を文法的に無意味であると判断することはできない。その意味では、真に「あってもなくてもよい」という文法成分の存在は想像し難い。また、「強調」という意味機能に関しても、それがどのようなプロセスを経て実現されるのかを明らかにしなければ、真に問題を解決したことにはならないであろう。

本節では、受動文や処置文において動詞句直前に現れる“給”を、動作行為とその関与者との間に、主観的な方向性をもたらす文法成分と定義する。その上で、この種の“給”が構文の成立にとって必ずしも任意の要素ではないこと、またこれまで指摘されてきた「強調」という意味機能についても、“給”がもたらす主観的な方向性と関わりがあることを述べる。

### 2.3.2 受動文との共起

すでに見たように、一般に動詞句直前に現れる“給”が受動文の成立を左右することはない。また、多くの指摘があるように、動詞句直前に“給”があることによって、受動の意味が強まる。では、具体的にどのような“給”の文法機能が、受動文の意味を強めているのであろうか。

この問題にとってきわめて示唆的であるのが、以下に示すような動詞句直前に現れる“来 / 去”である。

(106) 我们 用 这 个 办法 来 帮助 他。  
we use this CLA way come help him

(我々はこの方法で彼を助けてやるつもりだ。)

(107) 我 来 给 你 介绍 一 下。  
I come for you introduce a little

(きみに紹介してやるとしよう。)

(108) 你 去 研究 研究, 看 该 怎么 解决。  
you go study-study look shall how solve

(どう解決すべきか、よく考えてごらん。)

(109) 你 別 管, 让 他 自己 去 想 办法。

you don't care CAU him self go think way

(彼に自分で考えさせるよう、放っておきなさい。)

こうした“来/去”は動作者の積極性を表し、その有無は文の成立に関わらないと説明されている<sup>24</sup>。動詞句直前という位置的な共通点に加え、文の成立を大きく左右しない要素であることから、問題の“給”と類似した文法成分であるといえる。

“来/去”は本来空間的な移動を表す動詞である。しかし、上の(106)から(109)では、そうした空間的な移動の意味を離れ、動作者が動作行為に積極的に臨もうとする姿勢や、別の動作者にそれを促そうとする意向を表現している。空間的な移動の意味を抽象化することによって、観念的な意味での移動、即ち主観的な方向性を表す成分として、動作者と動作行為の関係を位置づける役割を果たしている。両者の間に主観的な方向性が添えられることで、動作者がいわばある種の勢いをもって動作行為に臨むことが示され、それによって積極性が表されている。積極性という動作者の心的側面が、“来/去”の方向性を借りて表現されていると言ってもよい<sup>25</sup>。

本稿が問題としている“給”にも、これと類似した性質を見て取ることができる。“給”は授与を表す動詞である。授与とは授与者から受給者へモノを移動させることであるならば、“給”もまた語彙的に方向性を内包しているといってもよい。動作者の移動が“来/去”であるとすれば、モノの移動が“給”である。移動動詞の“来/去”が空間的な移動の意味を抽象化したのと同じように、“給”もまたモノの授与という物理的な移動の意味を抽象化し、主観的な方向性を表す成分へとその性質を変化させていると考えられる。

従来の研究は、動詞句直前の“給”を文の成立に関与しない成分、即ちあっても

---

<sup>24</sup> 相原 2005 は、動詞句直前の“来/去”に主語がフォーカスであることを標示する成分であると指摘している。

<sup>25</sup> 英語の“be going to”や日本語の“～テイク”が、動作者の意志や積極性を表現する場合があることに共通する。

なくてもよい助詞と説明してきた。しかし、以下の現象を見る限り、そうした主張は誤りであると言わなければならない。

周知の通り、現代中国語に複数ある受動標識の中で、“被”だけは動作者を省略することができる。

- (110) a. 我 被 他 打 了。  
b. 我 被  $\phi$  打 了。  
I PAS him hit MOD  
(ぼくは(彼に)殴られた。) 佐々木 1996

- (111) a. 衣服 被 他 晾 干 了。  
b. 衣服 被  $\phi$  晾 干 了。  
clothes PAS him air-dry MOD  
(服は(彼によって)乾かされた。) 佐々木 1996

しかし、動詞句直前に“给”が現れた場合、動作者の省略は許されない。

- (112) a. 我 被 他 给 打 了。  
b. \*我 被  $\phi$  给 打 了。  
I PAS him GIVE hit MOD  
(ぼくは(彼に)殴られた。) 佐々木 1996

- (113) a. 衣服 被 他 给 晾 干 了。  
b. \*衣服 被  $\phi$  给 晾 干 了。  
clothes PAS him GIVE air-dry MOD  
(服は(彼に)乾かされた。) 佐々木 1996

“被”は書面語に多く用いられ、ことに動作者を省略した形式は、その性質が強いと言われている<sup>26</sup>。一方、動詞句直前の“给”は、それとは対照的に、口語的な

---

<sup>26</sup> 王还 1983 を参照。



文体に用いられることが多い<sup>27</sup>。従って、上に見られる現象にも、そうした文体論的な衝突が原因の一つに考えられる。しかし、たとえ動詞句直前の“给”と“被”との間に一定の文体論的差異を認めたとしても、動作者が現れる(112a)や(113a)では何れも問題なく成立していることから見て、この本質はやはり動作者との関係に求めなければならない。

この点に関しても、“给”を主観的な方向性を表す成分と見ることで、合理的な説明を与えることができる。授与動詞であった“给”は、動詞句直前という位置において、動作行為とその関与者との間に、主観的な方向性をもたらす成分へと文法化を遂げている。一方、受動文における動作者の省略は、それが自明であったり、敢えて言及する必要性に乏しかったりするために生じる。“被”を用いた受動文にとって、動作者の省略はいわばあるべき動作者の背景化を意味する<sup>28</sup>。動作行為とその関与者の関係を位置づけようとする“给”は、関与者である動作者が背景化される状況とは、真っ向から対立することになるのである。この種の“给”をあってもなくてもよい成分と説明する従来の研究は、こうした現象を見落としている。

同様の現象は、動詞句直前の“来”にも観察される。動詞句直前に“来”が現れる受動文では動作者の省略は許されない。

- (114) a. 没想到 今天 我们 房间 会 被 贼 来 偷 东西 了!  
 b. \*没想到 今天 我们 房间 会 被  $\phi$  来 偷 东西 了!  
 not expect today our room can PAS thief come steal things MOD  
 (今日私たちの部屋が泥棒にもものを盗まれるなんて思いもしなかった。)  
 (BCC<sup>29</sup>)

- (115) a. 法国人 周末 40% 以上 的 人 采取 关机,  
 不 容 被 人 来 打扰。  
 not allow PAS someone come disturb  
 b. \*法国人 周末 40% 以上 的 人 采取 关机,

<sup>27</sup> 《现代汉语八百词》(1980)及び《现代汉语虚词例释》(1982)を参照。

<sup>28</sup> 益岡 1987、杉村 1992 を参照。

<sup>29</sup> BCC : 北京语言大学语料库中心のコーパス“汉语语料库”による。

不 容 被  $\phi$  来 打 扰。

not allow PAS come disturb

(フランス人は週末に 40%以上の人が、人に邪魔されないように携帯の電源を切る。) (BCC)

一方、動詞句直前に“来”が現れない受動文では、動作者の省略は問題とならない。

(116) a. 没 想 到 今 天 我 们 房 间 会 被 贼 偷 东 西 了 !

b. 没 想 到 今 天 我 们 房 间 会 被  $\phi$  偷 东 西 了 !

not expect today our room can PAS thief steal things MOD

(今日私たちの部屋が泥棒にものを盗まれるなんて思いもしなかった。)

(117) a. 法 国 人 周 末 40% 以 上 的 人 采 取 关 机 ，

不 容 被 人 打 扰 。

not allow PAS someone disturb

b. 法 国 人 周 末 40% 以 上 的 人 采 取 关 机 ，

不 容 被  $\phi$  打 扰 。

not allow PAS disturb

(フランス人は週末に 40%以上の人が、人に邪魔されないように携帯の電源を切る。)

移動動詞の“来”は、動詞句直前という位置にあつて、動作者の積極的な関与を表す成分に文法化を遂げている。動作行為に積極的に臨む動作者の存在を前景化しようとする“来”は、あるべき関与者の背景化を意味する動作者の省略とは相容れないのである。物理的な移動の意味を抽象化し、主観的な方向性を表す成分に文法化を遂げている“给”との共通点を見て取ることができる。

動詞句直前の“给”には、受動の意味を強める働きがあると言われてきた。黄蓓 2016 は次の対比を挙げて、“给”を伴わないことによって文の命題には影響を与えないが、削除することによって表現効果が下がると指摘している。

(118) a. 市场 都 被 你们 给 占 了。

b. 市场 都 被 你们 占 了。

market all PAS you GIVE occupy MOD

(市場はすべてきみたちに占領されてしまった。) 黄蓓 2016

(119) a. 当时 我们 被 蒋先生 智慧 的 狡黠 给 震 住 了。

b. 当时 我们 被 蒋先生 智慧 的 狡黠 震 住 了。

at that time we PAS Mr. Jiang wisdomof cunning GIVE tremble-stay MOD

(当時私たちは蒋氏の知恵の狡猾さに震え上がった。) 黄蓓 2016

この問題にとっても、“给”がもたらす主観的な方向性が深く関与していると考えられる。上に見たように、動詞句直前の“给”は動作行為の関与者の存在を前景化させる働きがある。行為の担い手である動作者やその受け手である対象の存在を強く意識させることによって、動作者から対象への行為の影響が明示的に表現される。すなわち、誰が誰に何をしたかということが明確に表される。受動の意味が強く意識される背景には、“给”がもたらす主観的な方向性がある。

### 2.3.3 処置文との共起

次に、処置文の状況をみたい。黄蓓 2016 は、動詞句直前の“给”が文の命題に影響を与えることはなく、削除することによって意味が弱まるだけであると指摘している。

(120) a. 因为 太 多 的 学 生 想 进 入 会 场 ， 结 果

把 西 电 礼 堂 的 大 门 给 挤 坏 了 。

b. 把 西 电 礼 堂 的 大 门 挤 坏 了 。

ACC Xidian hall of main gate GIVE push-broken MOD

(たくさんの学生が会場に入りたがったので、西電ホールの表門を壊してしまった。) 黄蓓 2016

処置文に関してさらに興味深いことは、すでに王力 1943 及び王还 1957 などの指摘にもあるように、“给”を伴う処置文には、好ましくない意味がつきまとうという現象である。

(121) 文化大革命 就 把 他 的 前途 给 堵 死 了。

Cultural Revolution just ACC he GEN future GIVE block-dead MOD

(文化大革命は彼の前途をふさいでしまった。)

(122) 我 把 母亲 可 给 气 死 了。

I ACC mother very GIVE angry-dead MOD

(私は母を怒らせてしまった。)

動詞句直前に“给”が現れる処置文は、「不如意」の意味を表すことが多い。ただし、ここで言う「不如意」とは、動作行為の影響を蒙る対象、即ち“把”の目的語にとってのものであることを確認しておきたい。

処置文は、その名の通り、対象への働きかけを強く表現する形式である。従って、処置文における対象は、通常その他動文に比べ、動作者からの影響を甘んじて受ける立場にある。次の文では、対象である“他(彼)”がよほど泥酔しているか、あるいは分別のない子供である場合にしか処置文の形式は用いられない。対応する通常その他動文と比較されたい。

(123) a. 我 开 车 把 他 送 走 了。

I drive car ACC him send-move MOD

b. 我 开 车 送 了 他。

I drive car send ASP him

(ぼくは彼を車で送った。)

従って、さらにそこに主観的な方向性を表す“给”が付加されれば、受動文の場合がそうであったのと同じように、動作行為の影響が対象に強く及ぶことが明示的に表現される。そのため、対象は通常処置文よりもさらに強く動作行為の影響を受けることによって、もはやそれに抗しがたい状況に置かれることになる。

- (124) 我 开 车 把 他 给 送 走 了。  
 I drive car ACC him GIVE send-go MOD  
 (ぼくは彼を車で送った。)

つまり、“给”を伴う処置文は、対象に有無を言わせぬような強制的な状況を表す。他者からの影響によって、抗しがたい状況に置かれることが、往々にして「不如意」の意味に繋がることは想像に難くない。このように、“给”を伴う処置文が対象にとって好ましくない事態を表す背景にも、主観的な方向性がもたらす影響性の高まりがある。

ただし、“给”を伴う処置文のすべてが好ましくない状況を表すわけではない。以下の例からは、「不如意」の意味を読み取れない。

- (125) 快 想 法子 把 我 给 救 出 来 吧。  
 quickly think way ACC me GIVE help-out-come MOD  
 (早く方法を考えて私を助け出してくださいよ。)

- (126) 他 很 执拗， 一路上 费 了 好 大 的 劲  
 才 把 他 给 劝 过 来。  
 at last ACC him GIVE persuade-over-come  
 (彼はとてもひねくれていて、途中やっとのことで説得したんです。)

これらの文からは、もともと実現困難であったことをようやく達成するという状況を見て取ることができる。こうした環境の下では、対象に対して強く影響を及ぼすことが、対象を抗しがたい強制的状況に置くことには繋がらない。従って、“给”を付加することによって、たとえ対象への影響性が強く示されたとしても、「不如意」の意味が表れることはない<sup>30</sup>。

---

<sup>30</sup> 一般に好ましくない状況を表すことの多い中国語の受動文が、難事が克服された状況では、必ずしも不如意の意味を表さないことに類似する。詳しくは杉村 1992 及び木村 1992 を参照。

以上のように、動詞句直前の“給”を主観的な方向性を表す成分と分析することによって、受動文や処置文における“給”の機能を理解することができる。それは同時に、「強調」や「不如意」といった、構文の意味に関わる“給”の役割に対しても、有効な解釈を与えることになる。

## 2.4 本章のまとめ

本章では、受益表現に関わる授与動詞の用法を本動詞型、補助動詞型、受給者後置型、受益者前置型、動詞句直前型の5種類に分類し、それぞれの形式の意味と機能について分析を行った。

本動詞型については、共通語とは目的語の語順が異なる粵語タイプの二重目的語文が東南方言に広く観察されることを取り上げた。広州のようにこのタイプの二重目的語文がデフォルトであり、共通語タイプの使用頻度がきわめて低い地域もある一方で、上海や桃園のように限られた話者しかこのタイプを許容しない地域もある。各地の使用条件に違いはあるものの、粵語タイプの二重目的語文は東南地域に広く分布しており、特定の方言に固有の現象と見るべきではない。また、このタイプの二重目的語文は、受給者後置型の受益文から受給者を導く授与動詞が省略された形式と見るべきであることを指摘した。

補助動詞型については、共通語に比べて、東南方言は前項動詞に対する語彙的制約が緩く、取得動詞や制作動詞を用いた文も許容されやすいことを指摘した。前項動詞に対する語彙的制約が厳しくないということは、授与動詞が自身の語彙的性質を抽象化していることを意味する。つまり、東南方言の授与動詞は、補助動詞としての機能語化の程度が高く、その意味において共通語の“給”よりも文法化が進んでいるといえる。

受給者後置型は、モノの受取手を表示するための最も安定した受益表現であることを指摘した。「手段+目的」型の連動構造を構成するこの形式には、地域ごとの差異が見られない。この形式からの拡張によって、この後の各章で取り上げる使役文や受動文、処置文などが成立したと考えられる。受給者後置型の受益文は、授与とヴォイスの繋がりを理解する上できわめて重要な形式である。

受益者前置型は、これまでも注目を集めてきた形式である。共通語の“給”は前置詞として一定の文法化を遂げてはいるが、その機能には授与動詞の語彙的特徴が反映されている。そのため、受益者に対して直接的な働きかけが読み取れる状況しか成立しない。比較方言文法の観点から見て何よりも興味深いのは、東南方言では一部の例外的な地域を除いて、授与動詞を用いた受益者前置型の受益文が成立しないことである。従来の研究ではあまり取り上げられることがなかったが、第4章において検討する授与動詞から受身標識への文法化のプロセスを考える上で、東南方言が受益者前置型を持たないことは重要な意味を持つと考えられる。

最後に、動詞句直前型は、受益表現に関わる授与動詞の用法の中で、最も文法化が進んだ形式であると考えられる。従来の研究では、文の成立には関与しない成分とみなされていたが、受動文において動詞句直前の授与動詞は必ずしも任意の文法成分でないことを指摘した。また、先行研究の多くは、意味を強める働きがあると指摘しているが、そのメカニズムが十分に解明されてこなかった。動詞句直前の授与動詞は主観的な方向性を表す文法成分であり、それによって受動や処置の意味が強められていると考えられる。

このように、受益表現に関わる授与動詞は、それぞれの形式で異なるレベルの文法化を遂げながら、受給者や受益者を表示する機能を担っている。授与と受益の関連は、多くの研究者が注目してきた現象であるが、方言資料を視野に入れた分析はこれまで決して多くはなかったように思われる。本章では、連動構造を構成する受給者後置型は、地域間の差異が見られないのに対して、受益者前置型については北方方言と東南方言の間に明確な違いが見られることを指摘した。

## 第3章 授与から使役への文法化

### 3.1 使役文の種類

中国語の使役文は、次の(1)に示すように使役前置詞によって被使役者を動詞句の前に導入することで構成される。

- (1) 我 让 他 去 北京。  
I CAU him go Beijing

(ぼくは彼を北京に行かせた。)

主語の位置にある“我(ぼく)”が使役者(causer)であり、“让”によって導入される“他(彼)”が被使役者(causee)である。“让”は「譲る」という意味の動詞であるが、ここでは一定の文法化を遂げた前置詞としての役割を担っている。中国語の前置詞は動詞が一定の文法化を遂げたものであり、前置詞と動詞の間に明確な線引きをすることは難しい。使役前置詞もその例外ではない。“让”をあくまで動詞と見ることも可能である。ここではそうした品詞の問題はとりあえず措くとして、中国語には性質の異なる複数の使役前置詞が存在することをはじめに確認してみたい。

使役前置詞として使用頻度が高いのは“叫”と“让”である。「言いつける」という意味の動詞が文法化した“叫”はおもに指示使役(directive causative)を表し、「譲る」という意味の動詞が文法化した“让”はおもに許容使役(permissive causative)を表す。

- (2) 我 叫 她 早点儿 回 家。  
I CALL her quickly back home

(ぼくは彼女を早く家に帰らせた。)

- (3) 主任 让 小 李 去 广州。



chief ALLOW PFX Li go Guangzhou

(主任は李さんを広州へ行かせた。)

江藍生 1999 によれば、歴史的に見て使役動詞（前置詞）として最もよく用いられたのは“教”であり、唐代以降の文献では“交”と書かれていた。“叫”の使役用法が現れるのは明代以降であり、その後“教”に取って代わるようになったという。また、“让”の使役用法は清代の文献にも見ることはできず、比較的新しい用法であると述べている。

木村 2000 が指摘するように、“叫”による指示使役は、使役者が積極的に指示する形で被使役者に関与する状況を表し、“让”による許容使役は、使役者が意図的に何も働きかけないことによって、消極的に被使役者に関与する状況を表す。しかし、両者の文法化のレベルはかなり高いと言ってよく、“让”が指示使役の状況を表し、“叫”が許容使役の状況を表すこともある。上の(2)と(3)において、“叫”と“让”の置き換えは十分に可能である。

両者の違いが比較的明確に現れるのは否定形の場合である。指示使役の“叫”は否定形には馴染まず、専ら許容使役の“让”が用いられる。言葉による指示を通して被使役者に積極的に関与する状況をプロトタイプとする“叫”にとって、指示そのものを行わないことによって被使役者の行為を阻止することは難しい。一方、譲らない、許容しないという状況はまさに“让”の特性と合致する<sup>1</sup>。

(4) a. ?\*我 不 叫 她 回 家。

I not CALL her back home

b. 我 不 让 她 回 家。

---

<sup>1</sup> “叫”を用いる否定形が完全に成立しないとは言い難く、次のような用例も見られる。ここでは「なぜ私に行けと言わないのか」という文字通りの「言いつける」意味で用いられている。

怎么 不 叫 我 去 呢。

how not CALL me go MOD 老舍《四世同堂》

(なぜ私に行けと言わないんだ。＝なぜ私に行かせないんだ。)

I not ALLOW her back home

(ぼくは彼女を家に帰させない。)

(5) a. ?\*主任 不 叫 小 李 去 广州。

chief not CALL PFX Li go Guangzhou

b. 主任 不 让 小 李 去 广州。

chief not ALLOW PFX Li go Guangzhou

(主任は李さんを広州へ行かせない。)

使役者が意思を持った動作者ではなく、事柄が原因となって被使役者の状態変化を引き起こす状況には、「使う」という意味の動詞が文法化した“使”が使われる。このタイプの使役文を木村 2000 は誘発使役と呼んでいる。

(6) 这 个 噩 梦 使 他 老 了 许多, 老舍《骆驼祥子》

this CLA bad dream USE him old ASP much

(その悪夢は彼をぐっと老け込ませた。)

ただし、原因としての事柄が主語に立つ“使”はおもに書面語の中で使われ、話し言葉としては使用頻度が低い。(6)が小説の地の文であることは、ネイティブであれば比較的容易に察しがつく。コトがヒトに状態変化をもたらすような状況は、典型的な使役の事態であるとは言い難く、少なくとも話し言葉では、そのような使役文はほとんど使われない。

また、たとえ誘発使役の状況を表す書き言葉の文であっても、そのための前置詞である“使”を使わず、指示使役の“叫”や許容使役の“让”が選択されることがある。この点からも、指示使役や許容使役に限定されない“叫”や“让”の文法化のレベルの高さを見ることができる。

(7) 这 个 噩 梦 {叫/让} 他 老 了 许多。

this CLA bad dream CALL/ALLOW him old ASP much

(その悪夢は彼をぐっと老け込ませた。)

本研究のテーマである使役と授与の関連を考える上で議論の中心になるのが、以下のような“給”を用いた使役文である。

(8) 他 给 我 看 照片。

he GIVE me look picture

(彼はぼくに写真を見せてくれた。)

(9) 我 给 你 吃。

I GIVE you eat

(君に食べさせてあげる。)

(10) 阿 眉 给 我 看 她们 的 厨房 设备。

PFX Mei GIVE me look they GEN kitchen equipment

(阿眉は私に彼女たちの厨房の設備を見せてくれた。) 王朔《空中小姐》

(11) 仿佛 我 给 她 吃 的 东西 都 有 毒 似的。

as if I GIVE her eat of things all have poison like

(まるで私が彼女に食べさせてやったものにみな毒が入っていたかのようだった。) 老舍《四世同堂》

“给”を用いたこれらの使役文の否定形は問題なく成立する。使役者がモノや作用を授与しないことによって、被使役者の行為を阻止する状況が表される。

(12) 他 不 给 我 看 照片。

he not GIVE me look picture

(彼はぼくに写真を見せてくれない。)

(13) 我 不 给 你 吃。

I not GIVE you eat

(君に食べさせてあげない。)

(14) 我 拆 了 它 也 不 给 你 住。王朔《我是你爸爸》

I break ASP it also not GIVE you live

(たとえぶっ壊したっておまえに住まわせてなんかやるもんか。)

受益者を導く“給”がそうであったように、使役文を構成する“给”もまた、その原義である「与える」という意味から強い制約を受けている。そのため、授与行為とは無関係な次の(15)や(16)のような指示や許可を表す状況を“给”の使役文が表すことはできない。

(15) \*主任 给 小 李 去 广州。

chief GIVE PFX Li go Guangzhou

(主任は李さんを広州へ行かせた。)

(16) \*我 给 她 早点儿 回 家。

I GIVE her quickly back home

(ぼくは彼女を早く家に帰らせた。)

被使役者の性質に注目すれば、“叫”や“让”が導く被使役者が意思を持った動作者であるのに対して、“给”が導く被使役者はモノや作用の受取手としての性質が強い。「与える」という意味から強い制約を受ける“给”は、使役者が被使役者に対して何かを授与するか、少なくとも直接的な作用を及ぼすことによって、必然的に動作行為を引き起こす状況しか表すことができない<sup>2</sup>。授与行為を仲立ちとして成立する“给”の使役文の誘発的使役状況を以下では「授与使役」と呼ぶことにする。

次の(17)における対比を参照されたい。“给”を用いた場合、母親が子供の口元まで薬を運ぶ直接的な使役状況が表される。一方、“叫”や“让”を用いた場合は、そうした直接的な使役状況を表すこともあれば、口頭やその他の手段によって薬を飲むよう促したり、飲むことを容認したりする非直接的な状況を表すこともできる。

(17) 妈妈 {给/叫/让} 孩子 吃 药。

mother GIVE/CALL/ALLOW child eat medicine

(お母さんは子供に薬を飲ませる。)

---

<sup>2</sup> 楊凱榮 1989 は“给”の使役文が日本語の複他動詞（奥津 1980）が表す操作使役に対応することを指摘している。

このことは、以下のような統語的振る舞いの違いとしても表れる。“給”の場合、場所や様態を表す副詞句を動詞句の直前に置き、被使役者の行為だけを限定することはできないが、“叫”や“让”にはとくにそうした制約はかからない。

- (18) 妈妈 { \*给/叫/让 } 孩子 在 这儿 吃 药。  
mother GIVE/CALL/ALLOW child at here eat medicine

(お母さんは子供にここで薬を飲ませる。)

- (19) 妈妈 { \*给/叫/让 } 孩子 慢慢儿 吃 药。  
mother GIVE/CALL/ALLOW child slowly eat medicine

(お母さんは子供にゆっくり薬を飲ませる。)

一方、場所や様態を表す副詞句を使役前置詞の前に置き、使役者の行為と被使役者の行為の両方を限定する場合には、“给・叫・让”のいずれもが問題なく成立できる。

- (20) 妈妈 在 这儿 { 给/叫/让 } 孩子 吃 药。  
mother at here GIVE/CALL/ALLOW child eat medicine

(お母さんはここで子供に薬を飲ませる。)

- (21) 妈妈 慢慢儿 { 给/叫/让 } 孩子 吃 药。  
mother slowly GIVE/CALL/ALLOW child eat medicine

(お母さんはゆっくり子供に薬を飲ませる。)

また、量的表現を伴う場合の解釈にも違いが表れる。

- (22) 妈妈 { 给/叫/让 } 孩子 吃 了 两 次 药。  
mother GIVE/CALL/ALLOW child eat ASP two time medicine

(お母さんは子供に2回薬を飲ませた。)

“叫”や“让”を用いた文では、使役者の行為と被使役者の行為がともに2回行われたという解釈と、使役者の行為は1回だけで、被使役者の行為だけが2回行わ

れたという解釈の何れもが成立する。これに対して、“給”の場合は前者の解釈、すなわち使役者の行為と被使役者の行為がともに2回行われたという解釈しか成り立たない。“給”の使役文では、使役者の行為と被使役者の行為の回数が一致する読みしか成立しない<sup>3</sup>。

以上のことから、“給”の使役文と“叫”や“让”の使役文とでは、その使役状況に違いがあることがわかる。“叫”や“让”の使役文は使役状況を一つの事象と捉える場合と、二つの事象と捉える場合があるのに対して、“給”の使役文はつねに一つの事象と捉えているのである。

楊凱榮 1989 は、“让”を用いた使役文と他動詞“逗（からかう）”を用いた兼語文についての比較を行っている。

(23) 我 让 他 笑 了 三 次。

I ALLOW him laugh ASP three time

(彼を三回笑わせた。) 楊凱榮 1989:152

(24) 我 逗 他 笑 了 三 次。

I tease him laugh ASP three time

(彼を三回笑わせた。) 楊凱榮 1989:153

“让”を用いた使役文には「私が彼に笑うように三回指示した」という意味と「私が三回笑うように彼に指示した」という意味の多義性がある。しかし、他動詞“逗”を用いた文には、“我逗了三次（私が三回引き起こした）”という意味しかなく、「私

---

<sup>3</sup> 柴谷 1978:125 は、日本語の使役文に関する分析の中で、(a)の文には母親が次郎に漢字を書くよう言ったのと次郎が漢字を書いたのが両方とも十回であったという解釈と、母親が（一度だけ）次郎に漢字を十回書くように言ったという解釈が許されるが、(b)の文には母親の写真を見せるという行為も次郎が写真を見るという行為も共に十回起こったという解釈しか許されないと指摘している。“給”を用いる授与使役文は、(b)の文の性質に近い。

(a) 母親は次郎に漢字を十回書かせた。

(b) 母親は次郎に写真を十回見せた。

が一回引き起こして、彼が三回笑った」という意味がないと楊凱榮 1989 は述べている。このことから、「让」を用いた使役文が使役状況を一つの事象と捉える場合と、二つの事象と捉える場合があることがわかる。

上に見たように、「给」を用いた使役文は、他動詞“逗”と同様、使役状況を一つの事象として捉えることしかできない。このことは、典型的には“杀（殺す）”のような、語彙的意味として使役性を含む他動詞を用いた語彙的使役文の性質に近いことを意味する。

(25) 我 杀 了 他。

I kill ASP him

(ぼくは彼を殺した。)

語彙的使役文では、使役者である“我（ぼく）”が何らかの働きかけを行うということと、その結果として被使役者の“他（彼）”が死ぬという状態に至ることが、“杀（殺す）”という一つの語彙の中に縮約されている。動詞の語彙的特徴を色濃くとどめる“给”の使役状況は、そうした他動詞によって表される使役状況に近い。

このように、中国語では原義の異なる複数の使役前置詞が、それぞれに意味役割の異なる被使役者を導き、さまざまなタイプの使役文を構成していることがわかる。ただし、これはあくまでも共通語の状況である。ここに見た使役文の類型は、共通語以外の方言にも同じようにあてはまるわけではない。次の 3.2 節と 3.3 節では、東南方言の一つである閩方言の福州語と呉方言の寧波語の使役文を共通語と比較しながら詳しく観察する。そこで得られたデータをもとに、3.4 節では授与と使役の構文的な関連について検討する。

## 3.2 福州語の使役文

本節では、東南方言の一つである閩語に属す福州（以下、福州語と呼ぶ）の使役文について観察する。福州語において指示使役を表す前置詞には“告[ko<sup>213</sup>]”と“吼[hɛu<sup>31</sup>/hau<sup>31</sup>]”の二つがある。“告”は「言いつける」という意味の動詞が文法化し

たものであるが、“吼”の来源は不明である。“告”と同様に言語活動を表す動詞であることが推測されるが、現在の福州語で“吼”と同じ音を持つ動詞は見当たらない。

(26) 我 告 伊 早 佻 团 转 厝。 [闽语・福州]

I CALL her quickly turn home

(ぼくは彼女を早く家に帰らせた。)

(27) 汝 告 伊 出 来! [闽语・福州]

you CALL him out-come

(彼に出てこさせなさい。)

(28) 主任 吼 小 李 去 广州。 [闽语・福州]

chief CALL? PFX Li go Guangzhou

(主任は李さんを広州へ行かせた。)

(29) 伊 吼 我 共 汝 拍 电话。 [闽语・福州]

he CALL? me for you hit telephone

(彼はぼくに君に電話をかけさせた。)

“告”と“吼”の置き換えは自由であり、どちらか一方しか使えないという状況は観察されない。また、これら発話動詞が文法化した使役前置詞が否定形に馴染まないという点は、共通語の“叫”と同じである<sup>4</sup>。

(30) ?\*我 无 告 伊 转 厝。 [闽语・福州]

I not CALL him turn home

(ぼくは彼女を家に帰らせなかった。)

(31) ?\*主任 无 吼 小 李 去 广州。 [闽语・福州]

chief not CALL? PFX Li go Guangzhou

(主任は李さんを広州へ行かせなかった。)

---

<sup>4</sup> 福州語の否定辞には、“有”の否定形である“无”のほかに、動作者の意思を否定する“侬”があるが、何れの否定辞を用いた場合にも“告”や“吼”の使役文は成立し難い。



共通語との違いとしてとくに注目すべきは、許容使役を表すための前置詞が存在しない点である。即ち、福州語には共通語の“让”に相当する前置詞が見あたらない。“让（譲る）”という動詞はある。しかし、それが使役前置詞に文法化を遂げていないのである。従って、次のような文は必ずしも容認不可能ではないが、共通語の影響を受けた福州語らしくない表現という印象を免れない。

- (32) 让 我 各依 参观 嘞, 会 使 咁? [闽语・福州]  
 ALLOW me-PLR visit MOD, can use not-can  
 (参観させていただいてもよろしいですか。)

福州語において許容使役の状況を表す最も単純な方法は、“告”や“吼”を使うことである。つまり、“告”や“吼”を用いた使役文には、指示使役の解釈と同時に許容使役の解釈も成立する。例えば、次の文は主任が李さんに広州へ行くよう指示したとも解釈できるし、広州へ行きたがっている李さんに対して、主任がそれを許したとも解釈できる。

- (33) 主任 {告/吼} 小 李 去 广州。 [闽语・福州]  
 chief CALL PFX Li go Guangzhou  
 (主任は李さんを広州へ行かせた。)

共通語の“叫”と“让”が肯定形においては両者の置き換えが可能であったことを見れば、福州語に見られるこのような現象は十分に理解できることである<sup>5</sup>。

共通語との違いとして注目すべきもう一つの点は、授与使役に関する制約である。福州語において「与える」という意味を表す動詞“乞[khøy<sup>24</sup>]”は、共通語の“给”

<sup>5</sup> 福州語は“在伊”によっても放任使役に近い状況を表すことができる。“在伊”は慣用的な表現であり、“伊”を他の名詞や代名詞に置き換えることはできない。

在 伊 随便 捡! [闽语・福州]  
 be him freely pick  
 (彼に自由に選ばせなさい。)

とは異なり、以下のような授与使役文を構成することができない。

(34) a. \*伊 乞 我 看 相片。 [闽语・福州]

he GIVE me look picture

b. 他 给 我 看 照片。 [共通語]

he GIVE me look picture

(彼はぼくに写真を見せてくれた。)

(35) a. \*我 乞 汝 食。 [闽语・福州]

I GIVE you eat

b. 我 给 你 吃。 [共通語]

I GIVE you eat

(君に食べさせてあげる。)

福州語において授与使役の状況を表すためには、次のように使役者が行った授与のための方法を具体的に明示する必要がある。

(36) 伊 掏 相片 乞 我 看。 [闽语・福州]

he bring picture GIVE me look

(彼は写真を持ってきてぼくにを見せてくれた。)

(37) 我 剝 苹果 乞 汝 食。 [闽语・福州]

I peel apple GIVE you eat

(ぼくはリンゴを剥いて君に食べさせてあげる。)

動作行為の対象を主題化し、文頭に表示したとしても、授与のための具体的な方法が明示されない場合、“乞”を用いた授与使役文は成立しがたい<sup>6</sup>。

---

<sup>6</sup> 授与のための具体的な方法である“掏”という行為が示されれば、授与動詞“乞”を用いない以下のような授与使役文が成立する。この現象については3.4で取り上げる。

只 张 相片 伊 有 掏 我 看。 [闽语・福州]

this CLA picture he have bring me look

(38) \*?只 张 相片 伊 乞 我 看。 [闽语・福州]

this CLA picture he GIVE me look

(その写真を彼はぼくに見せてくれた。)

(39) \*?只 粒 苹果 我 乞 汝 食。 [闽语・福州]

this CLA apple I GIVE you eat

(このリンゴを君に食べさせてあげる。)

興味深いことに、このような制約は肯定形にのみ見られるものであって、否定形では必ずしも授与のための具体的な方法を明示する必要はない。

(40) 伊 无 乞 我 看 相片。 [闽语・福州]

he not GIVE me look picture

(彼はぼくに写真を見せてくれない。)

(41) 我 无 乞 你 吃。 [闽语・福州]

I not GIVE you eat

(君に食べさせてあげない。)

また、“乞”の否定形は、次のような授与行為とは無関係な使役状況をも表すことができる。共通語ではこうした状況に“给”を用いることは許されない。

(42) a. 主任 无 乞 小 李 去 广州。 [闽语・福州]

chief not GIVE PFX Li go Guangzhou

b. \*主任 不 给 小 李 去 广州。 [共通語]

chief not GIVE PFX Li go Guangzhou

---

(その写真を彼は持ってきて見せてくれた。)

只 粒 苹果 掏 汝 食。

[闽语・福州]

this CLA apple bring you eat

(このリンゴを持ってきて君に食べさせる。)

(主任は李さんを広州へ行かせない。)

(43) a. 我 无 乞 伊 转 厝。 [闽语・福州]

he not GIVE her back home

b. \*我 不 给 她 回 家。 [共通語]

he not GIVE her back home

(ぼくは彼女を家に帰らせない。)

(44) a. 溪势 无 乞 我 各依 参观? [闽语・福州]

why not GIVE me-PLR visit

b. \*为什么 不 给 我们 参观 呢? [共通語]

why not GIVE us visit MOD

(どうして参観させてくれないんですか。)

共通語の授与動詞“给”が肯定形と否定形の何れにおいても授与使役に限定されていたのに対して、福州語の授与動詞“乞”は、否定形の場合に限られるとはいえ、授与とは無関係な使役状況にまで、その表現領域を拡げている。このことは「与える」という語彙的制約からの解放を示すものであり、その意味において福州語の“乞”の文法化は共通語の“给”よりも進んでいる。

では、なぜ福州語の“乞”の文法化は進んだのであろうか。共通語の“给”よりも高いレベルの文法化を遂げた背景には何があったのか。これまでの観察から見て、その原因として最も蓋然性が高いのは、許容使役を表す前置詞の不在である。福州語は共通語の“让”に相当する前置詞を持たない。発話動詞に由来する“告”や“吼”は否定形には馴染まない。そうであれば、福州語にとって使役文の否定形を構成する方法は、授与使役を表す“乞”以外に選択肢がなかったのである。そうした選択の余地のない状況が、授与動詞“乞”の文法化を促進したと考えられる。そして、これと同様の現象は、次節で見る呉語の寧波においても観察された。

### 3.3 寧波語の使役文

本節では、呉語の一つである寧波（宁波）（以下、寧波語と呼ぶ）の使役文につ

いて検討する。寧波語の指示使役は、共通語や福州語と同様、言語活動を原義とする“呕[œø<sup>44</sup>]”によって表される。“呕”は「言いつける」という意味の発話動詞が文法化した前置詞である。

(45) 我 呕 其 早眼 回 屋 里 去。 [吴语・宁波]  
I CALL her quickly back home in go  
(ぼくは彼女を早く家に帰らせた。)

(46) 主任 呕 小 李 去 广州。 [吴语・宁波]  
chief CALL PFX Li go Guangzhou  
(主任は李さんを広州へ行かせた。)

共通語の“叫”や福州語の“告”や“吼”と同様に、“呕”もまた否定形には馴染まない。

(47) \*?我 弗 呕 其 回 屋 里 去。 [吴语・宁波]  
I not CALL her back home in go  
(ぼくは彼女を家に帰らせない。)

(48) \*?主任 弗 呕 小 李 去 广州。 [吴语・宁波]  
chief not CALL PFX Li go Guangzhou  
(主任は李さんを広州へ行かせない。)

許容使役を表す前置詞を持たないという点は福州語と共通している。寧波語には共通語の“让”に相当する使役前置詞がない。“让(讓る)”という動詞はあるが、それが使役前置詞としての機能を備えていないのである。

寧波語において許容使役の状況を表す方法は少なくとも二通りある。一つは、福州語がそうであったように、指示使役の“呕”を使うことである。例えば、次の文には、主任が李さんに広州へ行くよう指示したという解釈と、広州へ行ったがっている李さんに対して、主任がそれを認めたという両方の解釈が成立する。

(49) 主任 呕 小 李 去 广州。 [吴语・宁波]

chief CALL PFX Li go Guangzhou

(主任は李さんを広州へ行かせた。)

寧波語において許容使役を表すもう一つの方法は“撥[paʔ<sup>5</sup>]”を使うことである。“撥”は「与える」という意味の授与動詞が文法化を遂げた前置詞であり、典型的には以下のような授与使役を表す。この点は、共通語の“给”と同様である。

(50) 其 拨 我 相 照相。 [吴语・宁波]

he GIVE me look picture

(彼はぼくに写真を見せてくれた。)

(51) 我 拨 侬 吃。 [吴语・宁波]

I GIVE you eat

(君に食べさせてあげる。)

寧波語の“拨”は、上のような授与使役に加えて、次のような許容使役の状況を表すこともできる。共通語の“给”にこのような機能はない。

(52) a. 我 拨 侬 去 翯话。 [吴语・宁波]

I GIVE you go play

b. \*我 给 你 去 玩儿。 [共通語]

I GIVE you go play

(遊びに行かせてやる。)

(53) a. 其 机场 拨 我 去。 [吴语・宁波]

he airport GIVE me go

b. \*他 给 我 去 机场。 [共通語]

he GIVE me go airport

(彼はぼくを空港へ行かせた。)

(54) a. 拨 阿拉 参观 一 下, 好 哦? [吴语・宁波]

GIVE us visit a little good MOD

b. \*给 我们 参观 一下, 好 吗? [共通語]

GIVE us visit a little good MOD

(参観させていただいてもよろしいですか。)

授与行為との関連が乏しいこれらの状況に、共通語は“给”を使うことができない。ところが、寧波語では授与動詞の“拨”を用いた許容使役が問題なく成立する。前節で見た福州語の“乞”にも許容使役を表す現象が見られたが、それは否定形だけに限られていた。しかし、寧波語の“拨”は肯定形と否定形の何れにあっても許容使役を表すことができる<sup>7</sup>。

(55) a. 我 弗 拨 依 去 翯话。 [吴语・宁波]

I not GIVE you go play

b. \*我 不 给 你 去 玩儿。 [共通語]

I not GIVE you go play

(遊びに行かせてやらない。)

(56) a. 其 机场 弗 拨 我 去。 [吴语・宁波]

he airport not GIVE me go

b. \*他 不 给 我 去 机场。 [共通語]

he not GIVE me go airport

(彼はぼくを空港へ行かせない。)

寧波語における“拨”の使役文が授与使役の状況に限定されていないことは、次のような量的表現の解釈からも確認することができる。

(57) a. 我 拨 其 相 勒 两 网。 [吴语・宁波]

I GIVE him look ASP two time

---

<sup>7</sup> 楊凱榮 2015 は、清末の上海語において授与動詞“拨”が否定形に限って許容使役を表すことを指摘している。楊凱榮氏のご教示によると、現代の上海語では、寧波語と同様、肯定形と否定形のいずれにも授与動詞“拨”を用いた許容使役文が成立するという。

b. 我 给 他 看 了 两 次。 [共通語]

I GIVE him look ASP two time

(ぼくは彼に2回見せた/見させた。)

授与使役に限定される共通語では、使役者が被使役者に直接的な授与行為を働きかけ、それによって被使役者の行為が誘発される状況を表す。そのため、使役者の行為と被使役者の行為がともに2回行われたという解釈しか成立しない。これに対して、寧波語では使役者の行為が2回行われたという解釈と、使役者の行為は1回だけで、被使役者の行為だけが2回行われたという解釈のどちらもが成立する。

“拨”の使役文に見られるこのような振る舞いは、指示使役を表す寧波語の“呕”や共通語の“叫/让”と同じである。

(58) a. 我 呕 其 相 勒 两 网。 [吴语・宁波]

I CALL him look ASP two time

b. 我 {叫/让} 他 看 了 两 次。 [共通語]

I CALL/ALLOW him look ASP two time

(ぼくは彼に2回見せた/見させた。)

このように、寧波語の“拨”は共通語の“给”や福州語の“乞”に比べて、その表現範囲が広いことがわかる。共通語の“给”に比べて文法化が進んでいるのは言うまでもないが、福州語の“乞”と比較した場合にも、肯定形と否定形の区別なく授与使役に限定されないという点で、より高いレベルの文法化を遂げているということができる。

寧波語の“拨”がこのように高いレベルの文法化を遂げるにあたって、最も大きな影響を与えたのは、やはり許容使役の不在であろう。福州語と同様に、寧波語は共通語の“让”のような許容使役のための前置詞を持たない。その空白を埋めるために、授与使役の“拨”の文法化が促進され、前置詞としての機能を拡張していったと考えられる。

許容使役のための前置詞を持たない点では等しい寧波語と福州語であるが、寧波語の“拨”は肯定形と否定形の区別なく授与使役以外の状況を表すことができるの



に対して、福州語の“乞”は否定形に限ってそれが許される。この点については、次のような説明を与えることが可能であろう。すでに見たように、福州語では、肯定形の授与使役において、授与のための具体的な方法を明示する必要がある。この条件がいわば文法化のブロックとなって、肯定形における“乞”の機能拡張が実現しなかったものと考えられる。

(59) a. \*伊 乞 我 看 相片。 [闽语・福州]

he GIVE me look picture

(彼はぼくに写真を見せてくれた。)

b. 伊 掏 相片 乞 我 看。 [闽语・福州]

he bring picture GIVE me look

(彼は写真を持ってきてぼくに見せてくれた。)

(60) a. \*我 乞 汝 食。 [闽语・福州]

I GIVE you eat

(ぼくは君に食べさせてあげる。)

b. 我 剝 苹果 乞 汝 食。 [闽语・福州]

I peel apple GIVE you eat

(ぼくはリンゴを剥いて君に食べさせてあげる。)

以上、共通語との比較を通して、福州語と寧波語という二つの東南方言における使役標識の分業状況を見た。これまでの観察を次のようにまとめることができる。

	北 京	寧 波	福 州
指示使役	CALL / ALLOW	CALL	CALL
許容使役	ALLOW / CALL	CALL / GIVE	CALL / (GIVE) <sup>8</sup>
授与使役	GIVE	GIVE	GIVE

<sup>8</sup> 福州語の“乞”は否定形に限って使用可能である。

### 3.4 授与から使役への文法化

3.2 節において観察されたように、福州語の授与使役では授与のための具体的な方法を明示しなければならない。つまり、使役者がどのような行為を通して授与という行為を実現させたのか、その内容が具体的に言語化される必要がある。福州語に見られるこのような制約は、授与使役の性質を理解する上できわめて興味深い。

(61) 伊 送 本 书 乞 我 看。 [闽语・福州]

he present CLA book GIVE me read

(彼は本を一冊プレゼントしてぼくに読ませてくれた。)

(62) 伊 掏 相片 乞 我 看。 [闽语・福州]

he bring picture GIVE me look

(彼は写真を持ってきてぼくにを見せてくれた。)

(63) 我 剝 苹果 乞 汝 食。 [闽语・福州]

I peel apple GIVE you eat

(ぼくはリンゴを剥いて君に食べさせてあげる。)

福州語と同様の形式は、共通語や寧波語にも成立する。

(64) 他 送 本 书 给 我 看。 [共通語]

he present CLA book GIVE me read

(彼は本を一冊プレゼントしてぼくに読ませてくれた。)

(65) 他 拿 照片 给 我 看。 [共通語]

he bring picture GIVE me look

(彼は写真を持ってきてぼくにを見せてくれた。)

(66) 我 削 苹果 给 你 吃。 [共通語]

I peel apple GIVE you eat

(ぼくはリンゴを剥いて君に食べさせてあげる。)

(67) 其 送 本 书 拨 我 看。 [吴语・宁波]

he present CLA book GIVE me read

(彼は本を一冊プレゼントしてぼくに読ませてくれた。)

(68) 其 挖 照相 拨 我 相 相。 [吴语・宁波]

he bring picture GIVE me look-look

(彼は写真を持ってきてぼくに見せてくれた。)

(69) 我 削 苹果 拨 依 吃。 [吴语・宁波]

I peel apple GIVE you eat

(ぼくはリンゴを剥いて君に食べさせてあげる。)

3つの地域に共通して成立するこの形式を次のように表すことにする。

(70)  $N_1 + V_1 + N_2 + GIVE + N_3 + V_3$

朱德熙 1982、1983 が指摘するように、(70)は次の(71)のような受給者後置型の受益文から拡張した形式と考えられる。すなわち、モノの受取手である受給者を文末に表示する(71)のようなタイプの受益文に、動詞が附加された連動構造が(70)である<sup>9</sup>。

(71)  $N_1 + V_1 + N_2 + GIVE + N_3$

(71)のような受給者後置型の受益文は、北京、寧波、福州に共通して観察される、きわめて汎用性の高い形式である。

(72) a. 他 送 一 本 书 给 我。 [共通語]

b. 其 送 一 本 书 拨 我。 [吴语・宁波]

c. 伊 送 一 本 书 乞 我。 [闽语・福州]

he present a CLA book GIVE me

---

<sup>9</sup> 連動構造については 2.1.3 を参照。

(彼はぼくに本をプレゼントしてくれた。)

- (73) a. 他 拿 照片 给 我。 [共通語]  
b. 其 挖 照相 拨 我。 [吴语・宁波]  
c. 伊 掏 相片 乞 我。 [闽语・福州]  
he bring picture GIVE me

(彼は写真を持ってきてぼくにくれた。)

- (74) a. 我 削 苹果 给 你。 [共通語]  
b. 我 削 苹果 拨 侬。 [吴语・宁波]  
c. 我 剝 苹果 乞 汝。 [闽语・福州]  
I peel apple GIVE you

(ぼくはリンゴを剥いて君にあげる。)

これまでに見た3地域の授与使役文の構造を統一的に説明するならば、授与使役とはモノの受取手を文末に表示する受給者後置型の受益文に動詞が付加された連動構造から、使役者の働きかけを表す部分が背景化された形式であると見ることができると見ることができる。

(75)  $N_1 + (V_1 + N_2) + GIVE + N_3 + V_3$

福州語に見られた制約とは、この種の背景化を許さない現象と理解することができよう。つまり、共通語や寧波語では、使役者が具体的にどのような手段によって授与という行為を実現したのか、そうしたプロセスを言語化しないことが許されるが、福州語では文法的にそれが許されないのである。

- (76) a. 他 (送 一 本 书) 给 我 看。 [共通語]  
b. 其 (送 一 本 书) 拨 我 看。 [吴语・宁波]  
c. 伊 \*(送 一 本 书) 乞 我 看。 [闽语・福州]  
he present a CLA book GIVE me read

(彼はぼくに本をプレゼントして読ませてくれた。)

- (77) a. 他 (拿 照片) 给 我 看。 [共通語]

b. 其 (挖 照相) 拨 我 相 相。 [吴语・宁波]

c. 伊 \*(掏 相片) 乞 我 看。 [闽语・福州]

he bring picture GIVE me look look

(彼は(写真を持ってきて)ぼくに見せてくれた。)

(78) a. 我 (削 苹果) 给 你 吃。 [共通語]

b. 我 (削 苹果) 拨 侬 吃。 [吴语・宁波]

c. \*我 \*(剥 苹果) 乞 汝 食。 [闽语・福州]

I peel apple GIVE you eat

(ぼくは(リンゴを剥いて)君に食べさせてあげる。)

共通語や寧波語の授与使役にV<sub>1</sub>+N<sub>2</sub>の省略を認めるこのような分析は、3つの地域の授与使役を同一の構造によって捉えることができるという点で優れている。それと同時に、共通語における授与使役の被使役者が、つねに受取手の性質を備えていなければならないという意味的制約に対しても、構造的根拠を与えることが可能になる。つまり、授与使役において被使役者を導くGIVEとは、受益文においてモノの受取手を導くGIVEに他ならないのである。

これまでの観察が示すように、福州語では授与のための手段を背景化することが許されない。しかしその一方で、福州語では授与動詞を用いない以下のような形式によっても授与使役の状況を表すことができる<sup>10</sup>。

(79) 伊 送 一 本 书 我 看。 [闽语・福州]

he present a CLA book me read

(彼は本を一冊プレゼントしてぼくに見せてくれた。)

(80) 伊 掏 相片 我 看。 [闽语・福州]

he bring picture I look

(彼は写真を持ってきてぼくに見せてくれた。)

(81) 我 剥 苹果 汝 食。 [闽语・福州]

---

<sup>10</sup> 同様の形式は客家語の連城(項夢冰 1997)や吳語の宜興(黃伯榮主編 1996)など、閩語以外の東南方言においても観察されている。

I peel apple you eat  
 (ぼくはリンゴを剥いて君に食べさせてあげる。)

このような形式は、共通語や寧波語では不適合となる。

- (82) a. \*他 送 一 本 书 我 看。 [共通語]  
 he present a CLA book me read  
 (彼は本を一冊プレゼントしてぼくに読ませてくれた。)
- b. \*其 送 一 本 书 我 看。 [吴语・宁波]  
 he present a CLA book me read  
 (彼は本を一冊プレゼントしてぼくに読ませてくれた。)
- (83) a. \*他 拿 照片 我 看。 [共通語]  
 he bring picture I look
- b. \*其 挖 照相 我 相 相。 [吴语・宁波]  
 he bring picture I look-look  
 (彼は写真を持ってきてぼくに見せてくれた。)
- (84) a. \*我 削 苹果 你 吃。 [共通語]  
 I peel apple you eat
- b. \*我 削 苹果 依 吃。 [吴语・宁波]  
 I peel apple you eat  
 (ぼくはリンゴを剥いて君に食べさせてあげる。)

福州語に成立するこの種の授与使役文は、次に示すような GIVE の省略によって成立した形式と理解することができる。

(85)  $N_1 + V_1 + N_2 + (GIVE) + N_3 + V_3$

授与のための方法を必ず明示しなければならない福州語が、受取手の表示にあたっては、必ずしも GIVE を必要としないのは、十分に理解できることである。共通語や寧波語では、授与のための具体的な方法が背景化されたが、それを許容しない

福州語では、受給者に対する授与行為の部分が背景化されている。つまり、背景化の部分が異なるのである。福州語にとっては、たとえ受取手を表示する GIVE が背景化されても、V<sub>3</sub>の担い手である N<sub>3</sub>が N<sub>2</sub>の受取手であることは、連動構造の枠組みの中で容易に予測がつくというわけである。

共通語では福州語のような GIVE の省略は許されない。しかし、例えば次のような文は、同様の原理によって成立していると見てよいであろう。

- (86) 你 的 工作证 带着 没有? 拿 来 看 看。 [共通語]  
you GEN ID card have ASP not-have bring-come look-look  
(職員証は持ってるか。出して見せろ。) 王朔《人莫予毒》

共通語において上のような文が成立するには、命令文であることや、受取手が一人称であることなど、さまざまな条件が必要である<sup>11</sup>。しかし、使役を示す形態素が何も見当たらないこのような文であっても、“拿来(取り出す)”と“看看(見る)”がそれぞれ誰によって担われる動作であるのかは自ずと明らかである。そこに GIVE を顕在化させる必要はないのである。中国語における使役の意味が、使役の型ともいうべき構造的な枠組みと解釈によってもたらされていることを端的に示す現象である。

最後に、従来の研究においてしばしば問題となる、次のような授与使役についても一瞥しておきたい。

- (87) 哪 天 你 弹 段 琵琶 给 我们 听 听。 [共通語]  
any day you play CLA pipa GIVE us listen-listen  
(いつか琵琶を弾いてぼくたちに聞かせてくれよ。) 王朔《动物凶猛》
- (88) 我 就 头 撞 墙 死 给 你们 看。 [共通語]  
I just head bump wall die GIVE you look

---

<sup>11</sup> 「ちょっと～してみる」ことを表す動詞の重畳形式“看看”を使っていることも、少なからず影響を及ぼしていると思われる。

(壁に頭をぶつけておまえたちに死んで見せてやる。) 王朔《动物凶猛》

具体的なモノのやり取りがないこれらの文には、以下のような受給者後置型の受益文が成立しない<sup>12</sup>。

(89) \*你 弹 段 琵琶 给 我们。 [共通語]

you play CLA pipa GIVE us

(ぼくたちに琵琶を弾いてくれ。)

(90) \*我 死 给 你们。 [共通語]

I die GIVE you

(おまえたちに死んでやる。)

ここで注目すべきは、上の(87)や(88)のような文において、被使役者の行為を表す“听(聴く)”や“看(見る)”などの動詞に、ほとんど情動的価値がないという点である。日本語であれば「弾いてくれる」「死んでやる」で十分であって、ことさら「弾いて聴かせる」「死んで見せる」と言わなくてもよいところであろう。つまり、これらの文は、形式的には使役文であっても、意味的には受益文と何ら変わるところがないのである。

“弾(弾く)”や“死(死ぬ)”などの行為に、受取手が関与することは本来ありえない。受給者後置型の受益文の不成立はそのことを物語っている。しかし、それらの行為も、つねに自己完結する状況ばかりとは限らず、特定の対象に向けて行われることは現実として起こりえる。そのような対象を如何に表示すべきか。そこで選択されたのが授与使役の形式であったと考えられる。受取手の性質を備える授与使役の被使役者は、そうした対象を表示する手段として、まさにうってつけであったのである。(87)や(88)のような文は、本来は受取手をとることが許されない動詞

---

<sup>12</sup> 朱德熙 1982 は、“唱一个歌给我听(歌を歌って私にきかせてくれる)”は“\*唱一个歌给我”が成立しないため、その構造は“唱一个歌/给我听”と分析するほかなく、“唱一个歌给我/听”と分析することはできないと述べている(朱德熙 1983 もあわせて参照)。朱德熙の構造分析は赵金铭 1992 によっても支持されている。



が、授与使役の形式を借りて受取手を導入した形式と理解することができる。

### 3.5 本章のまとめ

本章では、福州語と寧波語という二つの東南方言を取り上げ、共通語との比較を通して、中国語における受益と使役の繋がりについて考察した。「与える」という意味の動詞が文法化した使役標識によって授与使役が表される現象は、3つの地域に同じように観察された。しかし、福州語と寧波語の授与動詞は、必ずしも授与使役に限定されていないという点において、共通語に比べてより高度な文法化を遂げていることが明らかとなった。

観察の対象とした東南方言が福州語と寧波語のみであるため、この結果に基づいて東南方言の一般性に言及することは控えるべきであるが、授与使役を表す授与動詞が高度な文法化を遂げていることは、東南方言の特徴の一つと言ってよいと思われる。そして、その文法化の過程において最も大きな影響を与えたのは、専ら許容使役を表すための使役標識が存在しなかったことである。つまり、共通語の“让”のような使役標識が存在しなかったことが、授与使役を表す授与動詞の文法化を促進したと考えられる。そして、このことが授与動詞が受動標識へとさらなる文法化を遂げるきっかけになったと考えられる。この点については、次の第4章において詳しく述べる。

## 第4章 授与から受動への文法化

### 4.1 問題の所在

本章では、以下のような授与動詞によって構成される受動文について検討する。

(1) 门 给 风 吹 开 了。

door PAS wind blow-open MOD

(扉が風に吹き開けられた。) 吕叔湘主编 1980《现代汉语八百词》

影響の受け手である“门（扉）”を主語の位置に置き、事態の引き起こし手である“风（風）”を授与動詞の“给”が導いている。このように、“给”は受動標識として受動文の構成に関与している。

共通語には複数の受動標識が存在する。主として書面語に用いる“被”があり、口語には“叫”と“让”がある。“被”は受動専用であるが、“叫”と“让”は使役標識としても使われる。第3章でも述べたように、「言いつける」という意味の動詞が文法化した“叫”はおもに指示使役（directive causative）を表し、「譲る」という意味の動詞が文法化した“让”はおもに許容使役（permissive causative）を表す。

(2) 我 叫 她 早点儿 回 家。

I CALL her quickly back home

(ぼくは彼女を早く家に帰らせた。)

(3) 主任 让 小 李 去 广州。

chief ALLOW PFX Li go Guangzhou

(主任は李さんを広州へ行かせた。)

受動専用の“被”は、前後の文脈から動作者が明らかな場合、それを省略する

ことができる。しかし、使役標識でもある“叫”と“让”に、動作者の省略は許されない<sup>1</sup>。

- (4) a. 敌人 的 油库 被 (我们) 炸 毁 了。  
b. 敌人 的 油库 叫 \*(我们) 炸 毁 了。  
c. 敌人 的 油库 让 \*(我们) 炸 毁 了。

enemy GEN oil tank PAS us explode-ruin MOD

(敵の石油タンクは(我々によって)爆破された。)

このように、北方方言を基礎方言とする共通語には、原義と機能の異なる複数の受動標識が存在する<sup>2</sup>。そして、近年の文法書では、授与動詞の“给”もその一つに数えられることがある。

多くの先行研究が指摘するように、授与動詞を用いた受動文は主に東南地域の方言で観察される。王力 1943、高名凱 1948、太田 1956、詹伯慧 1981、李珊 1994 など、“给”の受動文と東南方言の繋がり、早い時期から繰り返し指摘されてきた。太田 1956 は北方方言の一つである北京語には、元来“给”を用いた受動文は存在しなかったと述べている。また、山田 1998 によれば、老舍の諸作品、『儿女英雄傳』、『紅樓夢』を通して、一部の例外的な用法を除いて、“给”による受動文は見当たらないという。つまり、現在の共通語としては半ば定着した感のある“给”の受動文は、かつての北京語には存在しなかったのである。

李宇明、陈前瑞 2005 は、北京大学コーパス (CCL) を利用した調査の中で、北京の作家である王朔の作品における受動標識の使用状況について以下のように報

---

<sup>1</sup> 『現代汉语八百词』は「好大的雨，衣服都叫淋透了。(すごい大雨で、服がすっかり濡らされてしまった。)」という例を挙げ、“叫”には動作者を省略した用法が稀に見られるが、“让”にそのような用法はないと指摘している。

<sup>2</sup> 江藍生 1999 によれば、“叫”の使役用法が現れるのは明代以降であり、受動用法は清代の文献によろやく現れるという。一方、“让”の使役用法は清代の文献にも見られないという。

告している<sup>3</sup>。現代北京語の受動標識の使用状況を知る上できわめて興味深い。

各种被动句式在人物对话和叙述语言中的比例  
(各種受動文の人物の対話文と叙述文の比率)

被动句种类 (受動文の種類)	对话与叙述的比例 (対話文と叙述文の比率)	合计 (合計)
VIII. 叫 / 让 + NP + 给 + VP	4: 0 / 15: 1	20
III. 叫 / 让 + NP + VP	46: 5 / 63: 7	121
VI. 给 + VP	20: 21	41
I. 被 + NP + VP	15: 36* <sup>4</sup>	823
V. 给 + NP + VP	2: 12	14
II. 被 + VP	3: 48*	502

李宇明、陈前瑞 2005

上の調査結果に基づいて、李宇明、陈前瑞 2005 は、“被”“叫/让”“给”の使用状況を以下のようにまとめている。

“被+NP+VP” および “被+NP+VP”	1325 例
“叫/让+NP+VP”	121 例
“给+NP+VP” および “给+VP”	55 例

“给”の 55 例には、“房子给弄脏了 (部屋が汚された)。”のような“给+VP”の 41 例が動作者を省略した受動文として数えられているが、これらを動詞句直前用法とみなせば、純然たる受動標識としての使用例は、わずか 14 例しかなかったことになる。しかも、その内の 12 例は叙述文に用いられている。対話文と

<sup>3</sup> 王朔 Wáng Shuò : 1958 年南京生まれ。後に北京に移り住み、文化大革命時代を北京で過ごす。1976 年北京四十四中学を卒業。北京語を取り入れた作品を数多く発表。老舍 (1888-1966) と並ぶ代表的な北京の作家である。

<sup>4</sup> 「\*」を付した比率は、サンプルとして選んだ作品における比率を表す。

しての使用例はたった 2 例しかない。こうした事実をふまえ、李宇明、陈前瑞 2005 は、“给+NP+VP” 的口語色彩最弱，主要用于叙述语言之中（“给+NP+VP” の口語的性質は最も弱く、主に叙述文に用いられる）。”と指摘している。このように、現在の北京語においても、授与動詞の“给”が主たる受動標識でないことは明らかである。

また、李宇明、陈前瑞 2005 の調査からは、受動標識としての“叫”と“让”の使用状況についても興味深い傾向を見て取ることができる。“叫”の 55 例に対して“让”は 86 例であり、北京語では“让”が優勢であることがわかる。一方、北方方言としては“叫”が優勢である。黄伯荣主编 1996 が取り上げる北方方言のうち、その多くが“叫”を受動標識に選択している。また、山東省の烟台のように、受動標識として“叫”を使用するが“让”は使用しないという地域はあっても、その逆、すなわち“让”を使用するが“叫”は使用しないという地域は報告されていない。

これに対して、木村 2004:59 は、授与動詞を用いた受動文が「地理的分布に粗密の差こそあれ、中国南北の広範囲に亘ってその存在が確認されている」と述べている。先行研究とは明らかに異なる指摘である。木村 2004 が具体的な使用地域として挙げたのは香港粵語のみなので、授与動詞による受動文が「中国南北の広範囲に存在する」という主張の根拠は不明であるが、その分布状況が地理的に東南地域に集中していることは歴然とした事実である。

以下に示すように、東南方言では「与える」という意味の授与動詞が、受動文を構成する現象が広く観察される。

(5) a. 佢 畀 本 书 我。 [粵語・广州]

he GIVE CLA book me

(彼はぼくに本をくれた。) 詹伯慧 1981

b. 佢 畀 狗 咬 亲。 [粵語・广州]

he PAS dog bite MOD

(彼は犬に咬まれた。) 詹伯慧 1981

(6) a. 伊 乞 我 几 本 书。 [閩語・福州]

- he GIVE me some CLA book  
 (彼はぼくに何冊か本をくれた。) 陈泽平 1998
- b. 钱 乞 我 使 光 咯。 [闽语・福州]  
 money PAS me use-nothing MOD  
 (金はぼくによってすべて使い切られた。) 陈泽平 1998
- (7) a. 伊 互 我 一 本 新 册。 [闽语・厦门]  
 he GIVE me a CLA new book  
 (彼はぼくに新しい本をくれた。) 詹伯慧 1981
- b. 伊 互 人 拍 一 下。 [闽语・厦门]  
 he PAS someone hit one time  
 (彼は誰かに殴られた。) 詹伯慧 1981
- (8) a. 我 拨 仔 俚 一 本 书。 [吴语・苏州]  
 I GIVE ASP him a CLA book  
 (ぼくは彼に本をやった。) 詹伯慧 1981
- b. 我 拨 俚 吓 仔 一 跳。 [吴语・苏州]  
 I PAS him surprise ASP one jump  
 (ぼくは彼に驚かされた。) 詹伯慧 1981
- (9) a. 拨 我 一 眼 浆糊。 [吴语・上海]  
 GIVE me a CLA paste  
 (糊を少しく下さい。) 钱乃荣 1997
- b. 写 辣 黑板 浪 个 字 拨 伊拉 揩 脱 了。 [吴语・上海]  
 write-be blackboard-on of word PAS them wipe-away MOD  
 (黑板に書いた字は彼らに消されてしまった。) 钱乃荣 1997
- (10) a. 我 拨 侬 个 苹果。 [吴语・绍兴]  
 I GIVE you CLA apple  
 (ぼくはきみにリンゴをあげよう。) 佐々木・樊 2019
- b. 我 要 拨 阿哥 骂 咯。 [吴语・绍兴]  
 I will PAS brother abuse MOD  
 (ぼくはきっと兄さんに叱られる。) 佐々木・樊 2019

- (11) a. 我 拨 佢 一 只 苹果。 [吴语・宁波]  
 I GIVE you a CLA apple  
 (きみにリンゴをあげよう。) 林・佐々木・徐 2002
- b. 眼镜 拨 小人 拷 破 雷。 [吴语・宁波]  
 grasses PAS child hit-broken MOD  
 (メガネは子供に壊された。) 林・佐々木・徐 2002
- (12) a. 得 你 书。 [湘语・衡阳]  
 GIVE you book  
 (きみに本をやろう。) 李永明 1986
- b. 茅草 刚 盖 好, 就 得 风 刮 跑 咯 哒。 [湘语・衡阳]  
 thatched just cover-good just PAS wind blow-run MOD MOD  
 (萱を葺いたばかりなのに、風に吹き飛ばされてしまった。)  
 李永明 1986
- (13) a. 佢 分 一 本 书 佢。 [客家语・梅县]  
 I GIVE a CLA book him  
 (ぼくは彼に本をあげた。) 詹伯慧 1981
- b. 佢 分 佢 打 e 一 拳。 [客家语・梅县]  
 I PAS him hit ASP one punch  
 (ぼくは彼に殴られた。) 詹伯慧 1981
- (14) a. 佢 分 你 一 粒 苹果。 [客家语・桃园]  
 I GIVE you a CLA apple  
 (きみにリンゴをあげよう。)
- b. 佢 分 人 打 哩。 [客家语・桃园]  
 he PAS someone hit MOD  
 (彼は誰かに殴られた。)

授与動詞と受動標識の関連はなぜ東南方言に集中して観察されるのか。言い換えれば、なぜ北方方言に少ないのであろうか。授与動詞を用いた受動文が東南方言に多いという現象を指摘する先行研究は多いが、突き詰めてその理由が議論さ

れたことはないようである。授与と受動の密接な繋がりが観察される東南地域の方言には、何らかの文法的な共通点があるのではないか。本章では各地のデータを基に、比較方言文法の観点からこの問題を考えてみたい。

## 4.2 先行研究の解釈と問題点

授与と受動の関連については、これまでもいくつかの解釈が示されている。それらを概観しつつ、問題点を整理してみたい。

伝統的には「与える」という動詞の原義から、直接的に受動の機能を引き出すとする立場がある。例えば、高名凱 1948 は(15a)のような受動文に対して、(15b)のような能動文からの派生あるいは省略があると指摘している。

(15) a. 我 给 他 打 了。

I PAS him hit MOD

(私は彼に殴られた。)

b. 我 给 了 他 来 打 我 的 机 会 。

I GIVE ASP him come hit me of chance

(私は彼に私を殴る機会を与えた。)

橋本 1987 は、授与動詞を用いた受動文について次のように述べている。

从理论上说汉语“给予”一被动兼用法也可能独立地在汉语里发展，因为“给予”这个意思容易被引申为“给对方让对方有机会做什么”“容让”等义。

(理論的に言って中国語の「授与」一受動兼用用法は中国語において独自に発展したのであろう。なぜなら、「授与」という意味は「相手に対して相手に何かをする機会を与える」「容認する」などの意味に拡張されやすいからである。)



橋本 1987 は“叫”や“让”など、使役—受動兼用という現象が北方アルタイ系言語の影響を受けたものであるのに対して、授与—受動兼用は中国語において独自に成立した可能性がある」と主張する。受動の機能を授与の意味に求める点は、高名凱 1948 の主張と共通する。

「与える」という動詞の原義から、直接的に受動の機能を引き出す解釈はシンプルで分かりやすい。モノの授与から機会の授与へと拡張し、最終的には主語が影響を受けるというプロセスは一定の合理性を備えている。しかし、少なくとも次のような受動文に対しては、機会を与えるという解釈だけでは十分な説得力を持ち得ない。“杯子”が“弟弟”に壊す機会を与えたという解釈は成り立たない以上、何らかの説明が必要になる。

- (16) 杯子 给 弟弟 打破 了。  
cup PAS brother hit-broken MOD  
(コップが弟に壊された。)

Bennett 1981、徐丹 1992 は、処置用法との関連から受動用法の成立を説明しようと試みている。例えば、次の(17)は受動文と処置文のいずれにも解釈することができる。

- (17) 小偷儿 给 他 捆 起来 了。 朱德熙 1982:181  
thief PAS/ACC him tie-up-come MOD  
(泥棒が彼に縛り上げられた／泥棒が彼を縛り上げた)

同一の形態素が受動文と処置文の両方を構成する現象は、いくつかの方言において観察されている。そうした事実に基づいて、授与から処置、そして受動へとという拡張のプロセスが提案されている。徐丹 1992 は、同一の形態素が「授与」と「取得」という二つの相反する意味を表す場合があることに着目し、北京語の“给”が機能語として処置と受動という二つの相反する構文を構成し得るのも、“给”自

身が二つの方向に発展する可能性を備えているからであると述べている<sup>5</sup>。

受動文と処置文が意味的にも構造的にも表裏の関係にあることはよく知られた事実である<sup>6</sup>。しかし、本稿が問題としている東南方言についていえば、受動文と処置文は必ずしも同一の形態素によって構成されるとは限らない。授与動詞が受動文を構成する現象は東南地域に広く観察されるが、処置文を構成する現象は東南方言の北部に集中している。また、徐丹 1992 が指摘するような、同一の形態素が「授与」と「取得」の両方を表すという現象は、一部の限られた地域でのみ観察されるものであり、高い一般性をもつとは言い難い。東南方言の授与動詞の中で、「授与」と同時に「取得」の意味を表し得るのはごく少数であると言わなければならない。処置との関連によって受動を説明する解釈はこのような点で問題がある。

一方、授与から受動への文法化のプロセスに受益の介在を仮定する立場として、佐々木 1993、1997 や木村 2004、2005 がある。佐々木 1993 は、“給”が導く名詞句の意味役割の連続性に注目し、モノの受取手としての受給者から、事柄の引き起こし手としての誘発者を経て、受動文の動作者へと拡張していく次のようなプロセスを提案した。

- (18) a. 我 给 她 买 了 一 瓶 好 药。 [受給者]  
I BEN her buy ASP a CLA good drug  
(私は彼女によい薬を買ってやった。)
- b. 我 给 孩子 洗 衣服。 [受益者]  
I BEN child wash clothes  
(我は子供のために洗濯する。)
- c. 我 们 在 广 场 上 给 地 主 们 流 汗。 [受益者／誘発者]  
we at square on BEN landlord PLR pour sweat  
(我々は広場で地主たちのために汗を流した。)
- d. 马 腿 给 石 头 折 断 了。 [誘発者]

---

<sup>5</sup> 授与動詞を用いた処置文については第5章で詳しく取り上げる。

<sup>6</sup> 王还 1957 を参照。

horse legs PAS stone snap-broken MOD

(馬の足は石に躓いて折れてしまった。)

e. 麦子 给 水 冲 走 了。 [誘発者／動作者]

wheat PAS water flood-away MOD

(麦が大水で流されてしまった。)

f. 杯子 给 弟弟 打 破 了。 [誘発者／動作者]

cup PAS brother hit-broken MOD

(コップは弟に壊された。)

g. 他 给 流氓 杀 了。 [動作者]

he PAS rascal kill MOD

(彼はならず者に殺された。)

(18a)において“给”が導く名詞句はモノの受取手としての受給者である。受益用法の典型であるこの用法から、行為の受取手ともいうべき受益者を経て、行為の引き起こし手である(18d)の誘発者へとつながる。(18c)について言えば、我々が汗を流すという行為は、確かに地主たちの利益に結びつく。この点から言えば、“地主们(地主たち)”は受益者としての性質を備えている。しかし、これを行為の担い手である“我们(私たち)”の側から見れば、必ずしも地主たちの利益を目的として汗を流しているのではない。むしろ、地主たちのせいで我々は汗を流すはめになったのである。即ち、ここでの“地主们”には受益者と誘発者の意味役割の二重性が認められる。

誘発者から動作者への拡張過程には、(18e)のような文の存在が想定される。ここでの“水(大水)”は、事柄の引き起こし手であるという点において、誘発者の“石头(石)”と共通する。しかし、次の(19)が成立することからもわかるように、“水”は高い動作主性(木村 1992 でいうところの致使力)を備えているという点において、(18f)の“弟弟(弟)”や(18g)の“流氓(ならず者)”に通ずる性質を備えている。

(19) 水 冲 走 了 麦子。

water flood-away ASP wheat

(大水が麦を流した。)

受給者から誘発者を經由して、受動文の動作者を導く機能を獲得していくプロセスは、北方方言のデータのみを見た場合、一定の説得力があるように思われる。しかし、授与と受動の関連が多く観察される東南地域の諸方言に対して、この拡張のプロセスは有効ではない。なぜなら、すでに第2章で見たように、多くの東南方言において授与動詞は受益者を導く機能を備えていないからである。

(20) a. 我 拨 依 一 只 苹果。 [吴语・宁波]

I GIVE you a CLA apple

(ぼくはきみにりんごをあげる。)

b. \*我 拨 依 买 衣裳。 [吴语・宁波]

I BEN you buy clothes

(ぼくはきみに服を買ってあげる。)

(21) a. 我 乞 汝 蜀 粒 苹果。 [闽语・福州]

I GIVE you a CLA apple

(ぼくはきみにりんごをあげる。)

b. \*我 乞 汝 画 蜀 张 图。 [闽语・福州]

I BEN you draw a CLA map

(ぼくはきみに地図を描いてあげる。)

(22) a. 侬 分 你 一 粒 苹果。 [客家语・桃园]

I GIVE you a CLA apple

(ぼくはきみにりんごをあげる。)

b. \*侬 分 你 买 一 领 襯衫。 [客家语・桃园]

I BEN you buy a CLA shirt

(ぼくはきみにシャツを一枚買ってあげる。)

(23) a. 佢 畀 本 书 我。 [粤语・广州]

he GIVE CLA book me

(彼はぼくに本をくれた。)

b. \*佢 畀 我 买 书。

[粤语・广州]

he BEN me buy book

(彼はぼくに本を買ってくれた。)

東南方言において受益者を表示する場合、一般的には随伴者と同じ前置詞が用いられる。それらは授与動詞とは関連がない。粵語と客家語の“同”や閩語の“共”のように「ともにする」という意味の動詞や、呉語の“搭”のように「関連する、あわせる」という意味の動詞、あるいは客家語の“搵”のように「混ぜる」という意味の動詞などが用いられる。これらはいずれも「複数の要素を結びつける」という意味において共通している。これらを結合動詞と呼ぶことにする。

(24) a. 我 同 你 买 架 车。

[粤语・香港]

I BEN you buy CLA car

(きみに車を買ってあげよう。) 千島 2004

b. 我 同 佢 拍 紧 拖。

[粤语・香港]

I COM you beat ASP drag

(私は彼と付き合っています。) 千島 2004 (拍拖=fall in love)

(25) a. 阿姆 同 阿姐 做 新娘 衫裤。

[客家语・美浓]

mother BEN sister make bridal dress

(母は姉に花嫁衣裳を作ってやった。) 田中 2001

b. 天光 我 爱 同 惠景 共下 煮 菜。[客家语・美浓]

tomorrow I will COM Huijing together boil food

(明日私は惠景と一緒に料理を作ります。) 田中 2001

(26) a. 佢 捷捷 搵 佢 洗 衫。

[客家语・桃园]

she always BEN me wash clothes

(彼女はいつも洗濯してくれる。)

b. 大家 搵 佢 共下 唸。

[客家语・桃园]

everyone COM me together read

(みなさん私と一緒に読んでください。)

(27) a. 我 共 汝 洗 衣裳。 [闽语・福州]

I BEN you wash clothes

(きみのために洗濯してあげよう。) 陈泽平 1998

b. 汝 着 共 我 齐 去, 我 乍 去。 [闽语・福州]

you need COM me together go I just go

(きみが私と一緒にいきたいというのなら、私は行く。) 陈泽平 1998

(28) a. 我 搭 依 买 衣裳 [吴语・宁波]

I BEN you buy clothes

(君に服を買ってあげる。) 林・佐々木・徐 2002

b. 其 老老 搭 我 打 乒乓。 [吴语・宁波]

he always COM me play table tennis

(彼はいつもぼくと卓球をする。) 林・佐々木・徐 2002

第5章において詳しく述べるが、授与動詞から受益前置詞へという文法化が広く観察される北方方言とは異なり、東南方言では結合動詞から随伴前置詞を経て、受益前置詞へという文法化が、一つの類型を形成している<sup>7</sup>。従って、授与から受益を経て、受動へという文法化は、少なくとも授与と受益の関連が観察されない東南方言にとって有効とは言えない。授与動詞による受動文が多く観察される東南方言をうまく説明できない佐々木 1993、1997 の解釈は、授与と受動の関連を正

---

<sup>7</sup> 北部呉語の“搭”と“帮”を取り上げた刘丹青 2003 は、両者の文法化のプロセスが次のように異なるものであったことを指摘している。随伴から受益へというプロセスだけでなく、受益から随伴へというプロセスの可能性もある。詳しくは 5.3 を参照。

搭：动词→并列连词

→伴随介词→受益介词

帮：动词→受益介词→伴随介词→并列连词

刘丹青 2003: 125

しく捉えているとは言いがたい。

木村 2004、2005 は、北京語の“给”に対して、授与から受益を経て受動へと至る文法化を主張している。授与動詞が授与目標マーカ―に文法化し、それが受益者マーカ―すなわち動作誘発者マーカ―へと拡張し、さらに状況誘発者マーカ―すなわち受動文動作者へと拡張するプロセスを提案している。受益者から動作者への拡張に、誘発者を介在させている点は、佐々木 1993、1997 が示した意味機能の連続性と共通している。木村・楊 2007 は、その主張をさらに発展させ、中国語における授与と受動のネットワークには、次の3種類があると述べている。

(29) 香港粵語タイプ：〈授与〉—〈許容使役〉—〈受動〉

北京語タイプ：〈授与〉—〈受益〉—〈受動〉

上海語タイプ：〈授与〉—〈不許容使役〉—〈受動〉

木村・楊 2007:89

香港粵語タイプと上海語タイプは、条件の違いはあるものの、使役を介して授与から受動へのネットワークが成立している点で一致している。一方、北京語タイプは授与から受益を経て受動へと繋がるネットワークであり、他の二つのタイプとは性質を異にしている。つまり、3つのタイプのネットワークを提案する木村・楊 2007 は、北方方言と東南方言を異なる文法化のプロセスによって説明しようとしている。

しかし、授与動詞を用いる受動文はなぜ東南方言に多いのか、なぜ北方方言に少ないのかという、本研究が提起している問題にとって、木村・楊 2007 の解釈は十分な解答とはなり得ない。北京語の授与動詞の受益用法はきわめて使用頻度の高い文法形式であるが、それに対して授与動詞による受動文の使用頻度は低い<sup>8</sup>。また、先に見た結合動詞のように、受益者マーカ―に文法化を遂げている動詞は、北方方言にも東南方言にも複数存在するが、“给”以外の受益者マーカ―で、受動標識の機能を獲得している例は見当らない。北京語タイプのネットワークが真に存在するのであれば、“给”以外の受益者マーカ―の中に、受動標識との兼用を示

---

<sup>8</sup> 李宇明、陈前瑞 2005 を参照。

す例があってもよいはずである。しかし、実際にそのような例は報告されていない。受益から受動へというプロセスを含む北京語タイプのネットワークについては、その一般性についてなお検討の余地が残されている。

木村 2004、木村・楊 2007 は、北京語タイプに属す例として湘語の祁陽（祁陽）を挙げている。李维琦 1998 によれば、祁陽の受動標識は授与動詞の“把”である。

- (30) a. 我 把 本 书 把 你。 [湘語・祁陽]  
 I GIVE CLA book GIVE you  
 (君に本をあげる。) 李维琦 1998
- b. 我 把 己 打 了 一 餐。<sup>9</sup> [湘語・祁陽]  
 I PAS him hit ASP one time  
 (ぼくは彼に一発殴られた。) 李维琦 1998

木村 2004、木村・楊 2007 は、祁陽の具体的な用例を挙げていないので、その主張の根拠は不明であるが、祁陽が北京語タイプに属するのであれば、①“把”が受益者を導入できること、②“把”が許容使役を表せないこと、この2点が示されなければならない。李维琦 1998 からは、そのような情報は得られなかった。

また、木村・楊 2007 は、上海語タイプに属す例として、呉語の紹興（紹興）を挙げている。紹興の授与動詞“拨[peʔ<sup>45</sup>]”には受動標識としての機能がある。

- (31) a. 我 拨 佢 一 本 书。 [呉語・紹興]  
 I GIVE you a CLA book  
 (君に本をあげる。) 佐佐木・樊 2018
- b. 我 拨 伊 敲 得 去 哉。 [呉語・紹興]  
 I PAS him hit ASP go MOD  
 (ぼくは彼に殴られた。) 佐佐木・樊 2018

<sup>9</sup> 李维琦 1998:120 によれば、(30b)は処置文としての読みも成立するため多義的であるという。そうした多義性を回避するために、受動文には“让把”や“下把”といった二音節前置詞が使われるという。



しかし、本研究の調査によれば、紹興の“撥”は許容使役を表すことができるが、その機能は必ずしも否定形に限定されない。許容使役の肯定形が成立しないことが上海語タイプの特徴であるならば、紹興はその類型には属さない<sup>10</sup>。

(32) 伊 想 早歇 归 去, 夹以 我 拨 伊 归 去 哉。 [吴语・绍兴]  
he want quickly back-go so I CAU him back-go MOD

(彼が早く帰りたいだったので、私は彼を帰らせた。) 佐佐木・樊 2018

(33) 伊 机场 弗 拨 我 去。 [吴语・绍兴]  
he airport not CAU me go

(彼はぼくを空港に行かせない。) 佐佐木・樊 2018

これまでのところ最も多くの研究者によって支持されているのは、受動標識を使役標識からの拡張と捉える立場である。使役から受動へという拡張過程は中国語以外のさまざまな言語においても確認されており、きわめて一般性の高い現象である<sup>11</sup>。

歴史文法の観点からこの問題を取り上げた蒋绍愚 2002 は、授与から使役、さらに受動へという拡張が、文法史上では比較的晩期にあたる明代から清代にかけて成立したことを指摘している。その上で清代中期の白話小説『红楼梦』の中に、使役と受動の何れにも解釈可能な次のような文があることを指摘し、使役から受動への拡張を繋ぐ例と説明している。

(34) 千万 别 给 老太太、太太 知道。 (红楼梦五二回)  
absolutely never CAU/PAS old madam madam know

(絶対ご隠居様や奥様に知られないようにするのですよ。) 蒋绍愚 2002

---

<sup>10</sup> 楊凱榮氏のご教示によれば、現代上海語では授与動詞の“撥”が肯定形と否定形の区別なく許容使役を構成するという。

<sup>11</sup> Haspelmath 1990、Washio 1993などを参照。

呉語の一つである上海語の授与動詞“拨[pəʔ<sup>s</sup>]”の受動用法について論じた楊凱榮 2015 も、蔣紹愚 2002 と同様に使役から受動へという文法化のプロセスを主張している。楊凱榮 2015 は、上海では次のような否定形（不許可使役）を経て、使役から受動への拡張が生じたことを清末の小説『海上花列傳』の実例をもって示している。

(35) 耐 阿敢 勿 拨 我 吃? 《海上花列傳》<sup>12</sup>

you why not CAU me eat

(おまえはどうして私に食べさせてくれないんだ。) 楊凱榮 2015

(36) 耐 快点 去 罢, 勳 拨 耐 阿哥 说? 《海上花列傳》

you quickly go MOD don't CAU your brother scold

(早く行きなさい、お兄さんに叱られないように。) 楊凱榮 2015

一方、北京語における授与から受動への文法化の問題を論じた木村 2004 は、「共時的なコーパスにも、また、過去二世紀余りを遡る代表的な北京語資料にも、“給”が純然たる許容使役文の〈被使役者〉マーカーとして用いられる例は見当たらない。一八世紀後半に成立した『紅樓夢』にも一九世紀中期に成立した『兒女英雄傳』にも（中略）、二十世紀初頭に成立した北京語口語資料『小額』にも、該当する“給”の用例は一例も索出されない」として、北京語において使役から受動へという文法化のプロセスを仮定することは論理的根拠を欠くと述べている。この点において蔣紹愚 2002 と木村 2004 の主張には隔たりがある。

第3章において指摘したように、現代北京語の“給”は授与使役に限定されており、許容使役を表すことはできない。

(37) a. 这 本 书 我 给 你 看。 [北京語]

this CLA book I CAU you read

(この本をきみに読ませる。)

<sup>12</sup> 『海上花列傳』は清末の光緒 20 年（1894 年）に出版された呉方言小説。会話の部分は上海語の基礎方言である蘇州語で書かれている。

b. \*我 给 你 去 机场。 [北京語]

I CAU you go airport

(ぼくはきみを飛行場に行かせる。)

木村 2004 が指摘する通り、少なくとも現代北京語においては、“给”は動詞の語彙的特徴から制約を受けており、授与行為と無関係な許容使役を表すレベルにまで文法化を遂げていない。北京語に関して、授与から使役、さらに受動へというプロセスを仮定することに問題があるという木村 2004 の指摘には本研究も同意する。北京語における“给”の受動文の使用頻度が著しく低いという事実にも合致する。

一方、東南方言の各地のデータは、授与動詞を用いた受動文が使役文からの拡張によって成立したものであることを有力に物語っている。授与から使役、そして受動へという文法化のプロセスを裏付ける最も有力な根拠は、動作主の省略に関する制約である。東南方言において授与動詞を用いた受動標識は、そのほとんどが動作主の省略を許さない。

(38) a. \*我 咯 书 拨  $\emptyset$  挖 走 嘞。 [吴语・宁波]

b. \*我 的 册 互  $\emptyset$  拿 去 也。 [闽语・厦门]

c. \*佢 个 书 分  $\emptyset$  拿 走 哩。 [客家语・桃园]

d. \*我 本 书 畀  $\emptyset$  攞 走 咗。 [粤语・广州]

I GEN book PAS bring-away MOD

(私の本は持っていかれた。)

(39) a. \*茶杯 拨  $\emptyset$  敲 破 哉。 [吴语・绍兴上虞]

b. \*茶杯 乞  $\emptyset$  拍 破 了。 [闽语・潮州]

c. \*茶杯 分  $\emptyset$  打 破 e。 [客家语・梅县]

tea cup PAS hit-broken MOD

(湯呑みは割られてしまった。) 詹伯慧 1981

これまでの調査において、唯一の例外は閩語の福州である。福州の授与動詞“乞”は、動作者を省略した受動文を構成することができる。こうした現象は東南方言

においてきわめて稀である。

(40) 我 其 书 乞 Ø 掏 去 了。 [闽语・福州]

I GEN book PAS bring-away MOD

(私の本は持っていかれた。) 林・佐々木・徐 2002

(41) 眼镜 乞 Ø 做 破 咯。 [闽语・福州]

glasses PAS do-broken MOD

(メガネが壊された。) 林・佐々木・徐 2002

一般に受動文では、主語の位置に立つ受け手がどうなったかに関心があり、動作の担い手である動作者には関心が薄いため、表示されないことが多い。Givón 2001によれば、多くの言語において受動文における動作者は文法規則によって除外され、英語のように動作者を表示する受動文が許容される言語においても、その使用頻度は低いという<sup>13</sup>。他言語との比較という観点から見れば、動作者の省略を許さない中国語の受動文は、むしろ特殊であると言わなければならない。

しかし、このような特殊性こそが、受動文と使役文の構文的関連を示していると考えられる。周知のとおり、中国語の使役文は兼語式と呼ばれる以下のような連動構造によって表される。

(42) N<sub>1</sub> + V<sub>1</sub> + N<sub>2</sub> + V<sub>2</sub> (+N<sub>3</sub>)

使役標識として“叫/让”を用いた次の具体例で説明すると、

(43) 我 {叫/让} 他 去 北京。

I CAU him go Beijing

(ぼくは彼を北京に行かせる。)

---

<sup>13</sup> 英語において動作者を伴わない受動文 (agentless passive) は全体の 80%を占めるとい  
う。Givón 2001:126。

“我（ぼく）”が“他（彼）”に対して指示を与える（または放任する）ことによって、“他”が“去北京（北京へ行く）”という事態を引き起こす状況を表している。兼語式という名称は、N<sub>2</sub>（他）がV<sub>1</sub>（叫/让）の目的語とV<sub>2</sub>（去北京）の主語を兼ねていることによるものである。中国語の分析的使役文において、使役の意味は使役標識と呼ばれるV<sub>1</sub>の“叫/让”が表しているのではなく、この構造（枠組）が持つ因果の解釈（読み）によってもたらされているのである<sup>14</sup>。

従って、たとえ前後の文脈から被使役者が自明な場合であっても、兼語式という連動構造を構成するための要である被使役者を省略することは許されない。

- (44) \*我 {叫/让} ∅ 去 北京。  
 I CAU go Beijing  
 （私は北京へ行かせる。）

共通語の“叫/让”による受動文が動作者の省略を許さないという現象も、使役文としての構文的特性を継承しているからに他ならない。

- (45) \*敌人 的 油库 {叫/让} ∅ 炸 毁 了。  
 enemy GEN oil tank PAS explode-ruin MOD  
 （敵の石油タンクは爆破された。）

一方、使役文からの拡張ではない“被”の受動文に、そうした制約は見られない。“被”の受動文では動作者の省略が可能である。

- (46) 敌人 的 油库 被 ∅ 炸 毁 了。  
 enemy GEN oil tank PAS explode-ruin MOD  
 （敵の石油タンクは爆破された。）

東南方言において、授与動詞を用いた受動文が動作者の省略を許さないという

<sup>14</sup> Li and Thompson 1981、楊凱榮 1989、佐々木 1997、石村 2011 を参照。

現象は、共通語の“叫/让”に共通する現象と考えられる。つまり、動作者の省略が許されないのは、授与動詞による受動文が使役文の構文的特性を保持していることの表れであり、それが使役文から拡張した形式であることを物語っている。

### 4.3 使役から受動への文法化

前節で見たように、授与と受動の関連が多く観察される東南方言では、授与から使役、そして受動へという文法化のプロセスが最も有力である。つまり、授与動詞を用いる受動文は使役文から拡張した形式である蓋然性がきわめて高い。ではなぜ、東南地域の方言にそのような文法化が成立したのであろうか。そこには、以下に示すような東南方言の使役文にほぼ例外なく観察される現象が関与していると考えられる。

まず、「言いつける」という意味の動詞を用いた指示使役は、調査した限りにおいて東南地域のすべての方言で観察された。共通語の“叫”に相当する指示使役標識は、南北を問わず中国各地の方言で確認されており、中国語の分析的使役の代表的なマーカーであるといえる。

(47) 我 呕 伊 早歇 归 去。 [吴语・绍兴]

I CAU him quickly back-go

(ぼくは彼に早く帰らせた。)

(48) 妈 拍 电话 叫 伊 出 来。 [闽语・厦门]

mother hit telephone CAU him out-come

(母は電話をかけて彼に出て来させた。)

(49) 佢 喊 你 去 办公室。 [客家语・桃园]

he CAU you go office

(彼はあなたをオフィスへ行かせた。)

(50) 佢 叫 我 去 机场。 [粤语・广州]

he CAU me go airport

(彼はぼくを空港に行かせる。)

ところが、東南地域では、許容使役を表すための標識が見当たらない。共通語の“让”にあたる使役標識が存在しないのである。「讓る」という意味の動詞“让”は存在する。しかし、それが使役標識に文法化を遂げている例はほとんどの地域において観察されない。

例外は北部呉語である。蘇州（苏州）や上海では、“让”が使役標識として使用され、許容使役を表すという<sup>15</sup>。

(51) 让 僚 等 仔 长 远 哉。 [呉語・苏州]

CAU you wait ASP long far MOD

(長らくお待たせしました。) 宮田・許・銭 1984

(52) 依 勿 去 管 伊, 让 伊 去 白相。 [呉語・上海]

you don't go care him CAU him go play

(彼にかまわず、遊びに行かせなさい。) 杨凯荣 2015

(53) 焮 碗 汤 让 我 吃 吃。 [呉語・上海]

this CLA soup CAU me eat-eat

(このスープを飲ませてください。) 钱乃荣 1997

一方、同じ呉語に属す紹興や寧波では、“让”を用いた次のような文は、必ずしも容認不可能ではないが、共通語の影響を受けた表現という印象を免れないという。この点において、蘇州や上海とは異なる。

(54) ?爹爹, 让 伊 去 得 埭 咳 哉。 [呉語・绍兴]

dad CAU her go ASP CLA MOD MOD

(お父さん、彼女を一度行かせてください。)

(55) ?让 阿拉 参观 一 下。 [呉語・宁波]

---

<sup>15</sup> 上海の状況はやや複雑である。複数のインフォーマントに対する調査を行ったが、使役標識として“让”を使うと答えた者がいた一方で、聞いてわかるが自分は使うことはないと答えた者もいた。

CAU us visit a little

(参観させてください。) 林・佐々木・徐 2002

では、東南方言において許容使役はどのように表されるのであろうか。最も単純な方法は、指示使役の標識を用いることである。共通語において“叫”と“让”の置き換えが比較的自由であったことを見れば、こうした状況は十分理解できる。

しかし、「言いつける」という意味の動詞に由来する指示使役の標識では、どうしても補いきれない許容使役の事態がある。共通語の“让”がそうであるように、許容の使役標識は否定辞を伴って、許可しない、あるいは放任しないことによって、被使役者の行為を妨げる事態を表すことができる。しかし、指示使役の標識はいずれも否定辞との相性が悪い。

(56) \*?我 弗 呕 伊 早歇 归 去。 [吴语・绍兴]

I not CAU him quickly back-go

(ぼくは彼に早く帰らせない。)

(57) \*?妈 怀 叫 伊 出 来。 [闽语・厦门]

mother not CAU him out-come

(母は彼に出て来させない。)

(58) \*?佢 唔 喊 你 去 办公室。 [客家语・桃园]

he not CAU you go office

(彼はあなたをオフィスへ行かせない。)

(59) \*?佢 唔 叫 我 去 机场。 [粤语・广州]

he not CAU me go airport

(彼はぼくを空港に行かせない。)

「言いつける」という意味の動詞を用いる指示使役は、言葉によって命令や指示を与え、それによって被使役者に対して積極的に関与する使役状況を典型とする。であるとすれば、指示使役の標識が否定に馴染まないのはむしろ当然のことであるといえよう。命令や指示を~~与えない~~ことによって、被使役者の行為を妨げることができないのである。許可しない、あるいは放任しないことによって、被



使役者の行為を妨げる事態を表し得る許容使役とは、この点において違いがある。

共通語の“让”にあたる使役標識を持たない東南方言では、被使役者の行為を妨げる事態を表すために、授与動詞を用いた使役文が使われる。

(60) 我 弗 拨 伊 早歇 归 去。 [吴语・绍兴]

I not CAU him quickly back-go

(ぼくは彼に早く帰らせない。)

(61) 妈 休 互 伊 出 来。 [闽语・厦门]

mother not CAU him out-come

(母は彼に出て来させない。)

(62) 佢 唔 分 你 去 办公室。 [客家语・桃园]

he not CAU you go office

(彼はあなたをオフィスへ行かせない。)

(63) 佢 唔 畀 我 去 机场。 [粤语・广州]

he not CAU me go airport

(彼はぼくを空港に行かせない。)

第3章において見たように、授与動詞を用いる使役文は、以下のようなモノのやり取りを通して被使役者の行為を誘発する授与使役を典型とする。

(64) 伊 拨 我 看 照相。 [吴语・绍兴]

he CAU me look picture

(彼はわたしに写真を見せてくれた。)

(65) 我 互 你 坐。 [闽语・厦门]

I CAU you sit

(あなたに座らせてあげる。)

(66) 佢 分 你 食。 [客家语・桃园]

I CAU you eat

(あなたに食べさせてあげる。)

(67) 我 畀 你 睇。 [粤语・广州]

I CAU you look  
(あなたに見せてあげる。)

ところが、東南地域の授与動詞は、こうした授与使役の領域にとどまらず、以下のような許容使役の事態にまでその表現領域を拡大させている。このような現象は共通語の授与動詞“给”には見られない。

(68) 小 李 想 到 广 州 去,  
PFX Li want to Guangzhou go  
夹以 主任 拨 伊 去 哉。 [吴语・绍兴]  
so chief CAU him go MOD  
(李さんが広州へ行きたがるので、主任は彼を行かせた。)

(69) 伊 互 我 去 机场。 [闽语・厦门]  
he CAU me go airport  
(彼はぼくを空港に行かた。)

(70) 佢 分 你 去 香港 旅游。 [客家语・桃园]  
he CAU you go Hong Kong trip  
(彼はあなたを香港旅行に行かせた。)

(71) 畀 佢 入 嚟。 [粤语・广州]  
CAU him enter-come  
(彼を入らせなさい。)

共通語の授与動詞“给”は、モノのやり取りを通して被使役者の行為を誘発する授与使役の事態しか表すことができない。これに対して、東南地域の授与動詞は許容使役の事態にまでその表現領域を拡げている。このことは、東南地域の授与動詞が動詞の原義を離れ、使役標識として高度な文法化を遂げていることを意味している。その原因となったのは、許容使役を表す“让”の不在であったと考えられる。

そして、許容使役の機能を獲得した授与動詞は、さらに文法化を遂げた結果、受動標識の機能を獲得することになった。木村 2000 が指摘するように、許容使役

文が表す事態は、受動文が表す事態と連続性を有している。以下の例で言えば、“他孩子（彼の子ども）”のなすがままに任せていた“老王（王さん）”が、その影響を被る状況に至る事態を表すのが受動文である。

- (72) a. 老王 让 他 孩子 乱 吵（，也 不 管。）  
 PFX Wang CAU his child disorder noisy also not care  
 （王さんは彼の子どもに騒がせた（が放っておいた）。）
- b. 老王 被 他 孩子 吵 醒 了。  
 PFX Wang PAS his child noisy-awake MOD  
 （王さんは彼の子どもに騒がれて目が覚めた。） 木村 2000:27

使役文と受動文の関連については多くの先行研究がある。Hespelmath 1990 は、さまざまな言語の受動標識を分析し、使役標識が受動標識へと拡張する過程について言及している。その中で、多くの言語において、使役から受動へのプロセスに再帰標識 (reflexive marker) の関与が認められるという事実を指摘し、そのプロセスを次のように示している。

- (73) a. I have the barber shave me. (causative)  
 b. I have myself shaved by the barber. (reflexive-causative)  
 c. I am shaved by the barber. (passive) Hespelmath 1990:46

Hespelmath 1990 は、授与動詞による中国語の受動標識を取りあげ、中国語の場合、使役から派生したと思われる受動標識には、そのことを明示する形態的表示が何ら見られないと述べている。しかし、形態変化の乏しい中国語において受動標識そのものを見た場合、それは当然のことであろう。むしろ、他の言語において形態的表示が果たす再帰標識の役割が、中国語では述語の結果表現によって担われている点にこそ注目すべきである<sup>16</sup>。よく知られているように、中国語の受動文では結果補語による結果的な状態変化の表示が不可欠である。動作行為の影

<sup>16</sup> 結果補語を再帰表現と見る解釈については佐々木 1992 を参照。

響が主語に状態変化をもたらしたことを表す結果補語は、ある種の再帰表現と理解されてよい<sup>17</sup>。

(74) a. 老王 被 他 孩子 吵 醒 了。

PFX Wang PAS his child noisy-awake MOD

(王さんは彼の子どもに騒がれて目が覚めた。)

b. \*老王 被 他 孩子 吵 了。

PFX Wang PAS his child noisy MOD

(王さんは彼の子どもに騒がれた。)

東南方言の授与動詞が受動標識の機能を獲得するプロセスには、許容使役の成立が不可欠であったと考えられる。限られた使役状況しか表すことのできない授与使役が、いきなり受動に拡張したとは考え難く、授与使役から許容使役を経て受動標識へと至る文法化のプロセスを本研究は支持する。授与動詞にとって許容使役への拡張は受動への文法化の条件であると言ってよく、その拡張を引き起こした原因は、共通語の“让”のような許容使役を表すための使役標識が存在しなかったことにある。

一方、北方方言の授与動詞は、授与使役から許容使役へという文法化が起らなかった。少なくとも北京語の“给”には、そのような変化は生じなかった。そのため、授与から許容使役への延長線上にある受動への文法化も成立しなかったのである。

このような文法化のプロセスを仮定することによって、東南方言における授与

---

<sup>17</sup> ドイツ語の“lassen + sich”の形式は、許容使役が受動を表す中国語の状況と類似している。中国語は“sich”のような再帰代名詞を持たないが、その役割を“吵醒”の“醒”が担っているといえる。結果補語“醒”が表す状態は、動作行為の受け手である主語の“老王”に生じた変化を表している。

Nasrin lässt sich fotografieren. German

Nasrin CAU herself photographed

(Nasrin は写真を撮られた。) Hespelmath 1990:46

と受動の繋がりを無理なく説明できると同時に、授与動詞を用いた受動文がなぜ東南方言に多く、北方方言に少ないのかという問題に対しても、合理的な解答を与えることが可能となる。

#### 4.4 本章のまとめ

本章では、授与動詞を用いる受動文がなぜ東南方言に多いのか、言い換えればなぜ北方方言に少ないのかという問題を中心に、授与と受動の関係について考察した。授与動詞による受動文の先行研究の多くは、それが東南地域に集中していることに言及するが、その理由が突き詰めて議論されたことがなかった。

本研究は、授与から使役を経由して受動に至るという蒋绍愚 2002 をはじめ、杨凯荣 2015 らが主張する文法化のプロセスを支持するとともに、それらがなぜ東南地域に集中して観察されるのかという疑問に一つの解答を示した。それは、共通語の“让”のような許容使役のための使役標識の不在である。

第3章で見たように、専ら許容使役を表すための使役標識を持たない東南方言では、指示使役や授与使役の標識を用いて許容使役を表すしかない。その否定形式、即ち不許可の状況には、指示使役を用いることは難しく、授与使役を用いるしかない。そうしたいわば選択の余地のない状況から、東南方言の授与動詞は、授与使役から許容使役へとその機能を拡張していったと考えられる。

つまり、東南方言では以下のような文法化のプロセスを経て、授与動詞は受動標識の機能を獲得したと考えられる。

(75) 授与動詞 → 授与使役標識 → 許容使役標識 → 受動標識

このような文法化のプロセスを仮定することは、東南方言における授与と受動の繋がりを無理なく説明できるだけでなく、授与動詞を用いた受動文がなぜ東南方言に多く、北方方言に少ないのかという疑問にも答えることができる。

このように、中国語の受動文は、少なくとも口語のレベルでは、南北をとわず使役から受動へという文法化が成立していることがわかる。北方方言では発話動

詞や許容動詞が、東南方言では授与動詞が受動標識を担っているが、それらはいずれも使役標識がその機能を拡張させたものである。使用される動詞の語彙的意味は異なるが、南北には同じ原理が働いている。このことは、他の多くの言語においても観察される使役から受動へという一般性を持つ言語現象が、中国語にも成立していることを示している。

最後に、残された課題について触れておきたい。北部呉語の蘇州や上海は、許容使役を表す“让”を持っている<sup>18</sup>。にもかかわらず、授与動詞の“拨”が受動標識の機能を担う。許容使役のための使役標識の不在が授与動詞の文法化を引き起こしたと見る本研究の主張の反例になる。また、蘇州や上海の“让”は、許容使役を表すにもかかわらず、受動標識の機能を持たない。この点で、共通語の“让”とも異なる。北部呉語に見られるこうした現象に、現時点では明確な解答を持たないが、この地域の“让”については引き続き検討を続けていきたい。

---

<sup>18</sup> 呉語の下位分類として、蘇州と上海は「苏沪嘉小片」に属し、紹興は「临绍小片」、寧波は「甬江小片」に属す。いずれも「太湖片」の一つであり、コミュニケーションに大きな支障はないとされるが、細部にはやはり違いがあるとも言われている。蘇州や上海に見られた許容使役の“让”は、紹興や寧波では確認されなかった。

## 第5章 授与から処置への文法化

### 5.1 処置文の種類

#### 5.1.1 先行研究と問題の所在

本章では、処置文と呼ばれる以下のような有標ヴォイス構文と授与動詞の関連について考える。

- (1) 我 给 电视机 修好了。 朱德熙 1982:181  
I ACC TV set repair-good MOD  
(ぼくはテレビを修理した。)

上の文において“给”は動作行為の対象を導いている。“给”の目的語である“电视机(テレビ)”に対して、“修”という行為を働きかけることによって、“好(よい)”という状態にならしめる事態が表されている。この構文が処置文(disposal construction)と呼ばれるのは、他動詞文とは異なるこうした性質をふまえてのことである。

ここでの“给”は“把”に置き換えることが可能である。“把”は「手に持つ」という意味の動詞が文法化した処置標識である。

- (2) 我 把 电视机 修好了。  
I ACC TV set repair-good MOD  
(ぼくはテレビを修理した。)

张伯江 2000 は、処置文は主体が能動的に働きかけることによって、客体に位置の移動や状態変化を起こさせる使役的状况を表すものであることを指摘している。また、木村 2000 は、この構文が使役文の一種であることを明確にするために、従来の処置文という名称に代えて、「執行使役文」と呼ぶことを提案している。本研

究は、処置文の使役的性質に関する張伯江 2000 と木村 2000 の主張を支持するが、呼び方については一般的に定着している処置文を用いることにする。

蔣紹愚 2002 は、歴史的資料の中で“給”による処置文はきわめてまれであると指摘している。江藍生 1999 によれば、古い用例は清末の『兒女英雄伝』に見えるという<sup>1</sup>。王健 2004 は、80 年代初めに行われた北京大学中文系による北京語の口語の調査において、“把”に相当する“给”の用例が 46 例あったことを報告している。また、朱景松 1995 は、現代作家の作品に対する調査に基づき、現代北京語として“给”による処置文は、決して特殊な用法ではないと述べている。特殊な用法ではないとあえて主張する背景には、北京語の代表的な処置標識である“把”に比べて、“给”の処置文が多用されてこなかったことがある。ここでは通時的議論に踏み込むことは控えるが、先行研究をまとめれば、現代北京語には“给”を用いた処置文は存在するが、その歴史は比較的新しく、使用例も決して多くはないといえる。

「与える」という意味の授与動詞である“给”が、なぜ処置文を構成できるのか。即ち、“把”との置き換えが可能な(1)のような文は、授与動詞の文法的特徴とどのように関連づけられるであろうか。

徐丹 1992 は比較的早い段階でこの問題を取り上げた数少ない研究の一つである。第 3 章及び第 4 章で見たように、“给”は使役文や受動文において動作者を導くことができる。一方、処置文では対象を導く。そうした相反する文法機能を持つ理由を、徐丹 1992 は動詞の語彙的特性によって説明しようと試みている。即ち、“给”には「授与」と「取得」という二つの相反する方向に発展する可能性があり、そのためヴォイス標識となった際にも、相反する二つの機能を担うことができるのだという。いわゆる“施受同辞”の立場である。

確かに、中国語の一部の動詞は「授与」と「取得」という相反する意味を表すことができる。また、そのような動詞が中国語だけでなく、他の言語に存在することも事実である。しかし、そのことがこの問題にとって真に関与的であるかは疑問である。少なくとも共通語では、“给”に「取得」の意味を全く見出せない。

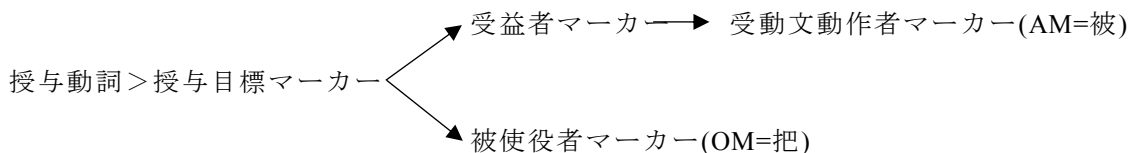
---

<sup>1</sup> 『兒女英雄伝』：初版は光緒 4 年（1878 年）、北京聚珍堂から出版。清末の北京語を反映するといわれる。



なぜ対象を導くことができるのかという素朴な疑問に、徐丹 1992 の説明は十分に答えていない<sup>2</sup>。

木村 2007 は、次のようなプロセスを経て、授与動詞が受動標識（受動文動作者マーカ―）と処置標識（被使役者マーカ―）に文法化を遂げたと主張する。



木村 2007:105

即ち、授与動詞の“給”が、はじめに次の(3)のようなモノの受取手を導く授与目標マーカ―に文法化し、

(3) 小 红 给 小 王 送 来 了 一 封 信。

PFX Hong BEN PFX Wang deliver-come ASP a CLA letter

(シャオホンは王さんに手紙を1通届けにきた。) 木村 2007:97

それがメタファーに支えられて、(4)のような抽象度の高い事物の受取手を導く機能を獲得し、

(4) 夕 阳 给 他 脸 上 抹 了 一 层 淡 淡 的 红 晖。

setting sun BEN his face on put ASP a CLA lightly red sunshine

(夕日が彼の顔にうっすらとした赤い日の光を塗りつけた。) 木村 2007:103

その延長線上に、“把”との置き換えが可能な(5)のような受影的な被使役者マーカ―、即ち処置標識としての“给”が成立したと主張している。

<sup>2</sup> 同一の形態素が「授与」と「取得」の両方を表すいわゆる“施受同辞”の現象に基づく解釈は江藍生 1999 にも見られる。

- (5) 夕 阳 给 他 的 脸 映 红 了。  
 setting sun ACC his GEN face reflect-red MOD  
 (夕日が彼の顔を赤く染めた。) 木村 2007:104

木村 2007 は、受動文と処置文がともに使役的な事態を表す結果構文であるという事実を認識することが重要であると述べる。“给”が導く名詞句は、受動文にあっては使役的状况をもたらす使役者であり、処置文にあっては使役的状况を強いられる被使役者であるという新たな解釈を示している。

北京語のデータを見る限り、木村 2007 の主張には説得力があり、同一の形態素である“给”が受動標識と処置標識の両方を担う理由が明快に示されている。しかし、東南方言のデータを見た場合、北京語について提出された木村 2007 の文法化のプロセスは、必ずしも有効とは言えない。

東南方言では、授与動詞が処置標識を担う現象が北部地域を中心に観察されるが、第 2 章でも詳しく取り上げたように、これらの地域の授与動詞は、木村 2007 のいう授与目標マーカ―の機能、即ち具体的なモノの受取手としての受益者を導く機能を持たないのである。呉語の寧波（宁波）の例を参照されたい。

- (6) a. 我 拨 你 一 只 苹果。 [呉語・宁波]  
 I GIVE you a CLA apple  
 (きみにリンゴをあげよう) 林・佐々木・徐 2002
- b. 你 拨 房间 打扫 打扫。 [呉語・宁波]  
 you ACC room clean-clean  
 (部屋を掃除しなさい。) 林・佐々木・徐 2002
- c. \*我 拨 你 买 衣裳。 [呉語・宁波]  
 I GIVE you buy clothes  
 (きみに服を買ってあげよう) 林・佐々木・徐 2002

(6a)は本動詞の例である。(6b)が示すように、寧波では授与動詞を用いた処置文が成立する。しかし、モノの受取手を動詞句の前に表示する(6c)のような受益者前置型の受益文は成立しない。

寧波においてモノの受取手を表示する最も一般的な方法は、次の(7)のような受給者後置型の受益文である。

- (7) 我 买 衣裳 拨 佢。 [吴语・宁波]  
I buy clothes GIVE you  
(きみに服を買ってあげよう) 林・佐々木・徐 2002

(6c)のような授与目標マーカの用法が成立しない以上、そこからの拡張によって処置標識の用法が成立したという説明は成り立たない。多くの東南方言の授与動詞にとって、木村 2007 が提案する文法化のプロセスは有効とは言えない。授与と処置の繋がりについて、特定の地域に限定されない、より一般性のある別の文法化のプロセスを提示することが求められている。

共通語において処置文を構成する代表的な標識は“把”である。その使用頻度から言っても、“給”の処置文はマイナーな用法と言わざるをえない。処置文の研究においてこれまで十分な議論が尽くされてこなかった理由もこの点にある。しかし、東南方言の中には授与動詞によって処置文を構成することが、決してマイナーとは言えない地域が数多くある。本章は、そうした東南方言の処置文に対する分析を通して、授与と処置の関連について新たな提案を示したい。

### 5.1.2 東南方言の処置文

本節では、東南方言の処置文を方言ごとに概観する。

呉語の状況はやや複雑である。まず、蘇州（苏州）や上海、杭州では、共通語と同様に、「手に持つ」という意味の動詞である“拿”や“把”を用いる。

- (8) 难道 说 拿 我 也 要 烧 呀? [吴语・苏州]  
surely say ACC me also will burn MOD  
(俺のことも焼いてしまおうというんじゃない。) 石汝杰 1996
- (9) 僚 搭 我 拿 衣裳 汰 干净 仔。 [吴语・苏州]  
you BEN me ACC clothes wash-clean MOD

(服をきれいに洗ってください。) 李小凡 1997

(10) 阿拉 拿 弄 个 好 消息 告诉 了 姆妈。[吴语・上海]  
we ACC this CLA good news tell ASP mother

(私たちはこのよい知らせをお母さんに伝えた。) 钱乃荣 1997

(11) 班主任 拿 笔记 改 好, 还 拨 我 了。 [吴语・上海]  
class teacher ACC note revise-good return-give me MOD

(担任はノートを添削して、ぼくに返してくれた。) 宮田・許・钱 1984

(12) 拿 张 邮票 贴 上 去。 [吴语・杭州]

ACC CLA stamp stick-up-go

(切手を貼りなさい。) 钱乃荣 1992

(13) 你 把 袜儿 洗 洗 它。 [吴语・杭州]

you ACC socks wash-wash it

(靴下を洗いなさい。) 钱乃荣 1992

一方、杭州や紹興(绍兴)、寧波では、授与動詞の“拨”によって処置文が構成される。このような現象は蘇州や上海には見られない<sup>3</sup>。

(14) 你 拨 桌子 揩 揩 它 号。 [吴语・杭州]

you ACC table wipe-wipe it MOD

---

<sup>3</sup> 杭州と紹興の“拨”は受益者を導くこともできる。第2章で述べたように、授与動詞が受益者を導く現象は、他の東南方言ではほとんど観察されない。

你 为啥 拨 我 烧 饭? [吴语・杭州]

you why GIVE me burn meal

(どうしてぼくのためにご飯を作ってくれたんだい?) 钱乃荣 1992

阿姐, 我 拨 侬 捉 鱼 去。《翠》 [吴语・绍兴]

sister I GIVE you catch fish go

(お姉さん、魚を捕まえてきてあげるよ。) 佐佐木・樊 2019

(机を拭きなさいよ。) 钱乃荣 1992

(15) 你 拨 小王 个 棉被 晒 晒。 [吴语・绍兴]

you ACC PFX Wang GEN cotton quilt dry-dry

(王さんの上掛けを干してあげなさい。) 佐々木・樊 2019

(16) 你 拨 房间 打扫 打扫。 [吴语・宁波]

you ACC room clean-clean

(部屋を掃除しなさい。) 林・佐々木・徐 2002

さらに、紹興では随伴者を導く“则[tseʔ<sup>45</sup>]”が、寧波では随伴者や受益者を導く“搭[toʔ<sup>5</sup>]”が、処置の対象を導く現象も観察される<sup>4</sup>。

(17) a. 我 则 你 同队 去。 [吴语・绍兴]

I COM you together go

(ぼくは君と一緒にいく。) 杨葳、杨乃浚 2000

b. 我 则 伊 敲 得 顿。 [吴语・绍兴]

I ACC him hit ASP CLA

(ぼくは彼を一発殴った。) 佐々木・樊 2019

(18) a. 我 搭 你 买 衣裳。 [吴语・宁波]

I BEN you buy clothes

(君に服を買ってあげる。)

b. 其 老老 搭 我 打 乒乓。 [吴语・宁波]

he always COM me play table tennis

(彼はいつもぼくと卓球をする。)

c. 其 搭 我 咯 书 扯 破 囉。 [吴语・宁波]

he ACC I GEN book tear-broken MOD

(彼は私の本を破った。) 林・佐々木・徐 2002

---

<sup>4</sup> 紹興の“则”は随伴者を導くが、受益者を導く機能は持たない。

次に閩語の状況を見る。閩語では授与動詞が処置文を構成することはない。福州では“共[ky<sup>3</sup>]”によって処置文が構成される<sup>5</sup>。

(19) 伊 共 我 伞 拈 去 咯。 [閩語・福州]

he ACC my umbrella bring-go MOD

(彼はぼくの傘を持って行ってしまった。) 陈泽平 1998

(20) 伊 共 许 张 批 烧 代 咯。 [閩語・福州]

he ACC that CLA letter burn-drop MOD

(彼はその手紙を焼き捨てた。) 陈泽平 1998

“共”は受益者や随伴者を導くほか、等位接続詞としての機能も備えている。

(21) a. 我 共 汝 洗 衣裳。 [閩語・福州]

I BEN you wash clothes

(きみのために洗濯してあげよう。) 陈泽平 1998

b. 汝 着 共 我 齐 去, 我 乍 去。 [閩語・福州]

you need COM me together go I just go

(きみがぼくと一緒に行きたいというのなら、ぼくは行く。) 陈泽平 1998

c. 我 共 老 王 都 是 做 先生 其。 [閩語・福州]

I CON PFX Wang all be do teacher MOD

(ぼくと王さんはどちらも教師をしています。) 陈泽平 1998

厦門（厦門）では、“[ka<sup>21</sup>]”によって処置文が構成される。

(22) 伊 ka 厝 卖 去 啊。 [閩語・厦門]

he ACC house sell-go MOD

(彼は家を売ってしまった。) 鄭榮・曹逢甫 1995

---

<sup>5</sup> 陈泽平 1998 は、[ky<sup>3</sup>]は[koyŋ<sup>242</sup>]が弱化により軽声化したものであると述べている。

“[ka<sup>21</sup>]”は受益者を導くこともできる。

- (23) 你 的 衫, 伊 会 ka 你 洗 [闽语・厦门]  
you GEN shirt he can BEN you wash  
(君のシャツは、彼が洗ってくれるはずだ。) 鄭榮・曹逢甫 1995

従来、“[ka<sup>21</sup>]”には、“甲”や“该”などさまざまな漢字があてられてきたが<sup>6</sup>、鄭榮・曹逢甫 1995は“[ka<sup>21</sup>]”は“合[kap<sup>32</sup>]”の弱化形式であると述べている。すなわち、[kap] > [kaʔ] > [ka]という弱化が生じたと考えられている。前置詞としての用法に弱化が生じることは、福州語の“共”や“乞”にも見られる現象である。“[ka<sup>21</sup>]”と“合[kap<sup>32</sup>]”は調値も類似しており、鄭榮・曹逢甫 1995の指摘は説得力がある。

“合”には(24)のような随伴者を導く機能や、(25)のような等位接続詞としての機能がある。

- (24) 你 的 代伙, 伊 昨方 合 我 讲。  
you GEN matter he yesterday COM me talk  
(君の用事は、彼が昨日ぼくに話した。) 鄭榮・曹逢甫 1995
- (25) 伊 合 我 拢 有 去。  
he CON I all have go  
(彼とぼくは二人とも行った。) 鄭榮・曹逢甫 1995

厦門における“[ka]”と“合”を合わせた機能は、福州の“共”のそれに匹敵する。即ち、受益者や随伴者などを導く前置詞によって処置文が構成されるという点において、厦門と福州は一致している。

客家語や粵語では、そもそも処置文をあまり使用しないと言われている。東南方言は北方方言に比べ総じて処置文の使用頻度が低いが、客家語や粵語はとくにその傾向が顕著である。

---

<sup>6</sup> 詹伯慧 1981、厦门市地方志编纂委员会办公室编 1996等を参照。

強いて挙げるとすれば、これらの方言では書面語の“将”によって処置文が構成される。授与動詞が処置文に關与することはない。

(26) 僱 将 这 本 书 放 在 桌 儿 上。 [客家语・梅县]  
I ACC this CLA book put-be desk on

(ぼくはその本を机の上に置いた。) 大嶋 1996

(27) 佢 将 这 钱 存 着 银 行 底 去。 [客家语・连城]  
he ACC this money save-arrive bank in go

(彼はその金を銀行に預けにいった。) 项梦冰 1997

(28) 将 嗰 件 衫 洗 干 净。 [粤语・广州]  
ACC that CLA shirt wash-clean

(そのシャツをきれいに洗いなさい。) 饶秉才・欧阳觉亚・周无忌 1981

(29) 将 个 广 州 城 围 到 实 一 实, [粤语・广州]  
ACC CLA Guangzhou city enclose-CSC tight-a-tight

(広州の街をがっちり包圍した。) 李新魁等 1995

李新魁等 1995 によれば、粵語の広州 (广州) において“将”を用いる処置文は、共通語における“把”を用いた処置文に比べて使用頻度が低いという。また、口語では三人称代名詞“佢”を再帰的に用いる次のような形式が好んで用いられると指摘している。

(30) 将 条 项 链 卖 咗 佢, 唔 系 有 钱 嘍! [粤语・广州]  
ACC CLA necklace sell ASP it not be have money MOD

(そのネックレスを売れば金になるじゃないか。) 李新魁等 1995

(31) 饮 晒 啲 啤 酒 佢 啦! [粤语・广州]  
drink this CLA beer it MOD

(これらのビールを飲んでしまおう。) 李新魁等 1995

(30)では“将”を用いた処置文に、また(31)では他動文において三人称代名詞



を用いている。動作行為の対象を再帰的に指示することによって、それへの強い働きかけを表している。

项梦冰 1997 は、客家語の连城（连城）にも三人称代名詞を再帰的に用いる次のような文が成立することを指摘している。

(32) 衫 收 佢 转 来。 [客家語・连城]

clothes take it back-come

(洗濯物を取り込んでこい。) 项梦冰 1997

(33) 鸟子 赶走 佢。 [客家語・连城]

bird drive away it

(鳥を追っ払え。) 项梦冰 1997

これらの文では、動作行為の対象を主題化し、三人称代名詞“佢”がそれを再帰的に指示することによって、処置文に相当する使役的な働きかけが表されている<sup>7</sup>。

项梦冰 1997 は、客家語の连城では、日常の口語において“将”を用いた処置文

---

<sup>7</sup> 三人称代名詞を再帰的に用いる現象は呉語や閩語にも見られる。黄伯荣主编 1996 は呉語の上海では、目的語を前置し、元の位置に三人称代名詞を用いる文が成立することを指摘している。

齧 只 鸡 杀 脱 伊。 [呉語・上海]

this CLA chicken kill ASP it

(この鶏を殺してしまえ。) 黄伯荣主编 1996

Lien 2002 は、現代閩南語では、前置詞“共”を用いた(a)に比べ、対象を主題化し、代名詞を再帰的に用いた(b)の方がより典型的な表現であると述べている。

(a) 共 杯仔 拍 破。 [閩語]

ACC cup hit-broken

(b) 杯仔 共 伊 拍 破。 [閩語]

cup ACC it hit-broken

(コップを割った。)

を聞くことはめったになく、多くはあらたまった場面や物語を語るとき、または何かの制作過程などを紹介する際に聞くことがある程度であると述べている。共通語の処置文は、以下のような受事主語文によって表されるという。

(34) 门 去 关 转 来。 [客家语・连城]

door go close-back-com

(扉を閉めてこい。) 项梦冰 1997

(35) 碗 先 洗 净 来。 [客家语・连城]

bowl first wash-clean-come

(まず茶碗を洗いなさい。) 项梦冰 1997

(36) 间 先 检正 一 下。 [客家语・连城]

room first clean a little

(まず部屋を片付けなさい。) 项梦冰 1997

项梦冰 1997 は、连城における受事主語文の使用頻度は共通語に比べて非常に高く、その重要な原因の一つが処置文の未発達にあると述べている。処置文が未発達であることと、受事主語文の使用頻度が高いことの、どちらが原因でどちらが結果であるかは措くとしても、処置文の使用頻度と受事主語文の使用頻度に関連があることは確かなようである。

動作行為の対象を主題化する傾向は、他の東南方言においても観察されている。钱乃荣 1997 は、呉語の上海について、前置詞“拿[?nE<sup>52</sup>/ ?nɔ<sup>52</sup>]”を用いた(37)のような処置文はあまり用いられず、(38)のように対象を文頭に置いて話題とするか、もしくは主語と動詞の間に表示する(39)のような文がよく用いられると指摘している。

(37) 我 拿 多余 个 钞票 存 了 进 去。 [吴语・上海]

I ACC surplus of money save ASP enter-go

(余ったお金を預けに行った。) 钱乃荣 1997

(38) 多余 个 钞票 我 存 了 进 去。 [吴语・上海]

surplus of money I save ASP enter-go

(同上。) 钱乃荣 1997

(39) 我 多余 个 钞票 存了 进去。 [吴语・上海]

I surplus of money save ASP enter-go

(同上。) 钱乃荣 1997

黄伯荣主编 1996 によれば、呉語の金華は処置文そのものが存在しないという。処置の意味を表す際には、前置詞を用いることなく、対象を動詞の前に表示するという。

(40) 尔 扇 门 关上。 [吴语・金华]

you CLA door close-up

(扉を閉めてください。) 黄伯荣主编 1996

陈泽平 1998 によれば、閩語の福州では、受事主語文が頻繁に使用され、(41)のような定 (definite) の対象だけでなく、(42)のような不定 (indefinite) の対象についても主語の位置に置くことができるという。

(41) 手表 讨 着了。 [闽语・福州]

watch find-arrive MOD

(時計は見つかった。) 陈泽平 1998

(42) 芭蕉果 食 几条。 [闽语・福州]

banana eat some CLA

(バナナを何本か食べた。) 陈泽平 1998

このように、受事主語文の使用頻度が高いことを指摘する東南方言の先行研究は多い。それと同時に、共通語の“把”に比べて、処置文の使用頻度が低いことが指摘されている。その原因について、現時点では明確な解答を持たないが、対象の主題化は東南方言の特徴の一つであり、その傾向が強い地域では、処置への文法化が起こりにくいと予測される。

客家語の大埔や桃園（桃園）では、梅県（梅县）や連城（连城）とは異なり、

受益者や随伴者を導く形態素が処置文を構成する現象が報告されている。この点は、呉語の寧波や紹興や、閩語の福州や厦門と共通している。

(43) 佢 得 催 一 下 去 广 州。 [客家语・大埔]

he COM me together go Guangzhou

(彼はぼくと一緒に広州へ行く。) 何耿鏞 1997

(44) 佢 得 阿 叔 个 碗 打 烂。 [客家语・大埔]

he ACC uncle GEN bowl hit-broken

(彼はおじさんの茶碗を割った。) 何耿鏞 1997

(45) 佢 捷 捷 搵 佢 洗 衫。 [客家语・桃园]

he always BEN me wash clothes

(彼はいつもぼくのために洗濯してくれる。)

(46) 佢 搵 吾 书 扯 烂 哩。 [客家语・桃园]

he ACC my book tear-broken MOD

(彼はぼくの本を破った。)

次に、湘語の状況について見たい。南部の衡陽では“把[pa<sup>33</sup>]”または“搵[lau<sup>33</sup>]”によって処置文が構成される。いずれも「手に持つ」という意味の動詞である。

(47) 其 把 黄 豆 大 咯 雨 点, 朝 泥 巴 身 上

he ACC soybean size GEN raindrop toward clay body on

打 下 来。

[湘语・衡阳]

hit-down-come

(彼は大豆のような雨つぶを泥だらけの体めがけて打ちつけた。) 李永明 1986

(48) 再 吹 搵 那 个 人 咯 帽 子 吹 放

again blow ACC that CLA man GEN cap blow-put

地 上 去 哒。

[湘语・衡阳]

ground on go MOD

(もう一度吹いてあの人の帽子を地面に吹き飛ばせ。) 李永明 1986

衡陽における「与える」という意味の授与動詞は“得[te<sup>22</sup>]”であり、処置文の構成には関与していない<sup>8</sup>。

- (49) 其 不 得 钱, 你 买 吗 东西? [湘语・衡阳]  
he not GIVE money you buy what things  
(彼がお金をくれなかったら、きみは何を買うんだね。) 李永明 1986

北部の長沙（长沙）では“把[pa<sup>42</sup>]”によって処置文が構成される。

- (50) 把 □ 碗 饭 吃完 哒! [湘语・长沙]  
ACC this CLA rice eat-finish MOD  
(そのご飯を食べ終わってしまいなさい!) 李永明 1991

長沙の“把”は「手に持つ」という意味の動詞ではなく、授与動詞である。この点において、長沙は衡陽と異なる。

- (51) 把 本 书 你。 [湘语・长沙]  
GIVE CLA book you  
(君に本をあげる。) 李永明 1991

長沙と同様の現象は隣接する贛語でも観察された。江西省東部に位置する黎川

---

<sup>8</sup> 衡陽の授与動詞“得”は、次のように許容使役文や受動文を構成することができるが、処置文を構成することはない。

- 其 口 最 多, 莫 得 其 听 到。 [湘语・衡阳]  
he mouth very much don't GIVE him listen-arrive  
(彼は一番おしゃべりなので、彼に聞かれてはいけない。) 李永明 1986  
茅草 刚 盖 好, 就 得 风 刮 跑 咯 哒。 [湘语・衡阳]  
thatched just cover-good just PAS wind blow-run MOD MOD  
(萱を葺いたばかりなのに、風に吹き飛ばされてしまった。) 李永明 1986

と撫州（抚州）では、授与動詞による処置文が成立する。黎川の“把[pai<sup>44</sup>]”、撫州の“摆[pai<sup>45</sup>]”は、いずれも「与える」という意味の授与動詞である。

(52) a. 把 本 书 把 我。<sup>9</sup> [贛語・黎川]

GIVE CLA book GIVE me

(ぼくに本をくれ。) 顔森 1993

b. 莫 把 茶碗 打 破 了。 [贛語・黎川]

never ACC cup hit-broke MOD

(コップを割ってはいけない!) 顔森 1993

(53) a. 寡居 真个 拿 出 十七八万 两 银子 [贛語・抚州]

widow really bring-out 170~180,000 CLA money

摆 渠, 陈昌仪 1991

GIVE him

(未亡人は本当に十七八万両もの銀を取り出して彼に与えた。)

b. 你 摆 钱 拿 出 来, [贛語・抚州]

you ACC money bring-out-come

(あなたはお金を出しなさい。) 陈昌仪 1991

安徽省南部に位置する徽語の一部にも同様の現象が観察される。休寧、黟県、祁門では、授与動詞による処置文が成立する。休寧の“提[te<sup>55</sup>]”、黟県の“界[pzi<sup>31</sup>]”、祁門の“分[fā<sup>11</sup>]”はいずれも「与える」という意味の授与動詞である。

(54) a. 我 提 小 李 一 本 书。 [徽語・休寧]

I GIVE PFX Li a CLA book

(ぼくは李さんに本をやった。) 平田主編 1998

b. 提 老鼠 洞 □<sup>10</sup> 出 来 [徽語・休寧]

<sup>9</sup> 黎川では、授与動詞“把”が一文中に2回出現する受益文が成立する。この形式については次節で詳しく分析する。

<sup>10</sup> [teiu<sup>212</sup>]

ACC mouse hall fill-out-come

(ねずみの穴を塞いでしまいなさい。) 平田主編 1998

(55) a. 渠 畀 我 一 个 桃。 [徽語・黟縣]

he GIVE me a CLA peach

(彼はぼくに桃をくれた。) 平田主編 1998

b. 尔 畀 门 关 起 来。 [徽語・黟縣]

you ACC door close-up-come

(扉を閉めなさい。) 平田主編 1998

(56) a. 尔 分 晓<sup>=</sup> 一 把 剪刀。<sup>11</sup> [徽語・祁門]

you GIVE me a CLA scissors

(ぼくにはさみをくれ。) 平田主編 1998

b. 尔 分 钱 摆 好。 [徽語・祁門]

you ACC money put-good

(お金をしまいなさい。) 平田主編 1998

休寧では、授与動詞“提”のほかに、受益者や随伴者を導く“帮[pau<sup>33</sup>]”によっても処置文を構成することができる。

(57) 帮 门 关 出 来。 [徽語・休寧]

ACC door close-out-come

(扉をしめなさい。) 平田主編 1998

これまでの観察によって、東南方言の処置文には大きく4つのタイプがあることがわかる<sup>12</sup>。

①「手にもつ」という意味の動詞を用いる地域：

蘇州（呉語）、上海（呉語）、杭州（呉語）、衡陽（湘語）

---

<sup>11</sup> 「<sup>=</sup>」は同音字であることを表す。

<sup>12</sup> 一つの地域がタイプの異なる複数の処置標識を持つこともある。

② 授与動詞を用いる地域：

杭州（呉語）、紹興（呉語）、寧波（呉語）、黎川（贛語）、撫州（贛語）、  
休寧（徽語）、黟県（徽語）、祁門（徽語）、長沙（湘語）

③ 受益者や随伴者を導く前置詞を用いる地域：

紹興（呉語）、寧波（呉語）、休寧（徽語）、福州（閩語）、厦門（閩語）、  
桃園（客家語）、大埔（客家語）

④ 処置文をあまり使わないが、強いて挙げれば“将”を用いる地域：

梅県（客家語）、連城（客家語）、大埔（客家語）、広州（粵語）

調査した地点が限られているため、これによって授与動詞によって処置文が構成される地域を完全に特定することは難しい。しかしながら、少なくともこれまでの観察からは、それらが各地に散在するのではなく、東南方言北部に帯状に分布していることがわかる<sup>13</sup>。授与動詞を用いた処置文の分布状況は、地理的にも興味深い。

## 5.2 授与から処置への文法化

これまでの観察によって、呉語の杭州、紹興（绍兴）、寧波（宁波）、湘語の長沙（长沙）、贛語の黎川、撫州（抚州）、徽語の休寧（休宁）、黟県（黟县）、祁門（祁门）では、授与動詞による処置文が成立することが明らかとなった。「与える」

---

<sup>13</sup> 第4章でも述べたように、東南方言では授与動詞を用いた受動文が広く観察される。

蘇州、上海、杭州、福州、撫州、厦門、梅県、連城、広州、衡陽、休寧、黟県、祁門の各地ではそのような例が観察された。しかし、長沙、黎川、撫州では、受動文の構成に授与動詞は関与していない。長沙は“被[pei<sup>21</sup>]”、黎川は“着[ts‘oʔ<sup>5</sup>]”、撫州は“着[t‘oʔ<sup>5</sup>]”によって受動文が構成される。これらはいずれも授与とは無関係である。



という意味の動詞が、どのようにして処置標識へと文法化を遂げたのか。本節ではそのプロセスを検証してみたい。

第2章で見たように、一部の東南方言では、共通語と語順が異なる二重目的語文が成立する。例えば、粵語の広州ではいわゆる間接目的語と直接目的語の順序が共通語と逆になる。共通語では着点（Goal）が主題（Theme）の前に現れるのに対して、広州では後ろに現れる文が成立する。

(58) 我 给 你 个 好 主意。 [共通語]

I GIVE you CLA good idea

（おまえにいいアイデアをあげよう。） 老舍《骆驼祥子》

(59) 畀 枝 笔 我。 [粵語・廣州]

GIVE CLA pen me

（ぼくにペンをくれ。） 饶秉才・欧阳觉亚・周无忌 1981

この点に関して、長沙や撫州では粵語タイプの二重目的語文が成立する。主題が先で、着点が後の文が許容される。

(60) 把 本 书 你。 [湘語・長沙]

GIVE CLA book you

（君に本をやる。） 李永明 1991

(61) 渠 摆 柑 子 你。 [贛語・撫州]

he GIVE orange you

（彼は君にミカンをやった。） 陈昌仪 1991

一方、呉語の杭州、紹興、寧波、および徽語の休寧、黟県、祁門は共通語タイプの語順をとる。

(62) 拔 我 回 音 号！ [吳語・杭州]

GIVE me reply MOD

（返事をくれよ！） 钱乃荣 1992

- (63) 我 拨 借 个 苹果。 [吴语・绍兴]  
 I GIVE you CLA apple  
 (きみにリンゴをあげよう。) 佐々木・樊 2019
- (64) 我 拨 借 一 只 苹果。 [吴语・宁波]  
 I GIVE you a CLA apple  
 (きみにリンゴをあげよう。) 林・佐々木・徐 2002
- (65) 我 提 小 李 一 本 书。 [徽语・休宁]  
 I GIVE PFX Li a CLA book  
 (ぼくは李さんに本をやった。) 平田主編 1998
- (66) 渠 畀 我 一 个 桃。 [徽语・黟县]  
 he GIVE me a CLA peach  
 (彼はぼくに桃をくれた。) 平田主編 1998
- (67) 尔 分 晓<sup>レ</sup> 一 把 剪刀。 0 [徽语・祁门]  
 you GIVE me a CLA scissors  
 (ぼくにハサミをくれ。) 平田主編 1998

直接目的語と間接目的語の語順に関しては、共通語タイプと粵語タイプの両方が成立していることがわかる。従って、授与動詞による処置文の成否に、二重目的語文の語順の問題が直接関与しているとは言えないようである。

贛語の黎川に関しては、二重目的語文の用例を採取できなかった。しかし、顔森 1993 は次の(68)に、“给我一本书 (ぼくに本をくれ)” という共通語の訳を付している。

- (68) 把 本 书 把 我。 [贛語・黎川]  
 GIVE CLA book GIVE me  
 (ぼくに本をくれ。) 顔森 1993

一文中に「与える」という意味の授与動詞が2度繰り返し現れるこの形式は、呉語の杭州、湘語の長沙、そして徽語の黟县においても観察された。

(69) 拨 张 年历片 拨 辣 他。 [吴语・杭州]

GIVE CLA calendar GIVE ASP him

(カレンダーを彼にやった。) 钱乃荣 1992

(70) 你 不 把 半 个 工钱 把 我, [湘语・长沙]

you not GIVE half CLA salary GIVE me

(半分の給料をくれないならば、) 李永明 1991

(71) 渠 畀 一 本 书 畀 我。 [徽语・黟县]

he GIVE a CLA book GIVE me

(彼はぼくに本をくれた。) 平田主編 1998

「与える」という意味の授与動詞が繰り返し現れるこの形式を次のように表すことにする。

(72) GIVE<sub>1</sub> + Theme + GIVE<sub>2</sub> + Goal

GIVE<sub>1</sub>は主題 (Theme) を導き、GIVE<sub>2</sub>は着点 (Goal) を導く。共通語では見ることのないこの形式こそが、授与動詞による処置文の原型であると考えられる。

まず、次のような文の存在に注目されたい。

(73) 我 把 □ 只 宝贝 送 把 你 哒 啦。 [湘语・长沙]

I GIVE this CLA treasure present-GIVE you MOD MOD

(この宝物を君にプレゼントしてあげよう。) 李永明 1991

(74) 把 □ 个 东西 拿 把 我。 [赣语・黎川]

GIVE this CLA things bring-GIVE me

(それをぼくに取ってくれ。) 颜森 1993

上に見た(68)から(71)との違いは、(73)や(74)では着点を導く GIVE<sub>2</sub>の前に、“送”や“拿”など前項動詞が出現している点にある。即ち、ここでの GIVE<sub>2</sub>は結果補語の役割を担っている。このような文における GIVE<sub>1</sub>は、如何に理解されるべき

であろうか。無論、「与える」という意味の本動詞と理解してもよい。しかし同時に、処置標識と理解することも可能である。なぜなら、GIVE<sub>1</sub>が導いている主題は、GIVE<sub>2</sub>を含む動詞句が表す授与行為の「受け手」を表していると見ることができるからである。つまり、(73)や(74)の GIVE<sub>1</sub>には「与える」という意味の動詞としての解釈と、処置標識としての解釈がともに成立する。

こうした文の成立をもとに、次の(75)や(76)のような文が成立したものと考えられる。

(75) 你 摆 钱 拿 出 来, [赣语・抚州]

you GIVE money bring-out-come

(あなたはお金を出しなさい。) 陈昌仪 1991

(76) 把 她们 拖 到 船 上。 [湘语・长沙]

GIVE them pull-arrive ship on

(彼女たちを船に引きずっていった。) 李永明 1991

これらの文では、結果補語としての GIVE<sub>2</sub>が、他の補語成分(“出来”や“到”)にとって代わられた文と見ることができる。(73)や(74)との違いは、授与の意味を表さなくなった点にある。

GIVE<sub>2</sub>が姿を消した(75)や(76)は授与の意味を表さない。しかし、授与とはモノを移動させることであるならば、(73)や(74)と(75)や(76)は、GIVE<sub>1</sub>が導く主題の移動を表しているという点において共通している。(75)や(76)の GIVE<sub>1</sub>にはもはや「与える」という意味を見出し難いが、移動の主体を導くという点において授与動詞の性質を保持している。ここでの GIVE<sub>1</sub>は一定レベルの文法化を遂げた処置標識として、移動の主体としての「受け手」を導いているといえる。

次の(77)や(78)の GIVE<sub>1</sub>には、もはや「与える」という意味との関連を見出すことは難しい。しかし、これらもまた、これまでに見た GIVE<sub>1</sub>の文法化の延長線上に位置づけることができる。

(77) 把 □ 碗 饭 吃 完 哒! [湘语・长沙]

GIVE this CLA rice eat-finish MOD

(そのご飯を食べ終わってしまいなさい!) 李永明 1991

(78) 莫 把 茶碗 打 破 了。 [贛語・黎川]

never GIVE tea cup hit-broken MOD

(コップを割ってはいけない) 顔森 1993

すでに述べたように、(73)から(76)はいずれも移動を表す文であり、GIVE<sub>1</sub>が導く名詞句への働きかけは、それに位置的な変化をもたらす。これに対して、(77)や(78)では物理的な変化をもたらす。GIVE<sub>1</sub>が導く名詞句が結果として蒙る変化に違いはあるが、それが働きかけの対象であるという点では一致している。「与える」という意味をほぼ完全に抽象化し、働きかけの対象を導く機能語となった(77)や(78)の GIVE<sub>1</sub>は、より高度な文法化を遂げた処置標識であると考えられる。

以上のように、一文中に二つの授与動詞が現れる文と、授与動詞による処置文の間には、意味的にも構造的にも連続性があることがわかる。つまり、授与動詞による処置標識とは、文法化を遂げた GIVE<sub>1</sub>に他ならないのである。こうした位置的变化から物理的变化へという文法化のプロセスを仮定することによって、「与える」という意味の動詞である授与動詞がなぜ処置文を構成できるのかという疑問に対して無理のない解答を与えることが可能となる。

## 5.3 受益から処置への文法化

### 5.3.1 問題の所在

本節では、東南方言における処置文の類型の一つである受益者標識や随伴者標識によって構成される処置文について検討する。

すでに見たように、呉語の紹興、寧波、閩語の福州、厦門、客家語の桃園、大埔では、受益者や随伴者などを導く前置詞によって処置文が構成される。

(79) a. 我 则 伊 敲 得 顿。 [吳語・紹興]

I ACC him hit ASP CLA

(ぼくは彼を一発殴った。) 佐々木・樊 2019

- b. 我 则 偌 同队 去。 [吴语・绍兴]  
 I COM you together go  
 (ぼくは君と一緒に行く。) 杨葳、杨乃浚 2000
- (80) a. 其 搭 我 咯 书 扯 破 嘞。 [吴语・宁波]  
 he ACC I GEN book tear-broken MOD  
 (彼は私の本を破った。) 林・佐々木・徐 2002
- b. 我 搭 依 买 衣裳。 [吴语・宁波]  
 I BEN you buy clothes  
 (君に服を買ってあげる。) 林・佐々木・徐 2002
- c. 其 老老 搭 我 打 乒乓。 [吴语・宁波]  
 he always COM me play table tennis  
 (彼はいつもぼくと卓球をする。) 林・佐々木・徐 2002
- (81) a. 伊 共 我 伞 拈 去 咯。 [闽语・福州]  
 he ACC my umbrella bring-go MOD  
 (彼はぼくの傘を持って行ってしまった。) 陈泽平 1998
- b. 我 共 汝 洗 衣裳。 [闽语・福州]  
 I BEN you wash clothes  
 (きみのために洗濯してあげよう。) 陈泽平 1998
- c. 汝 着 共 我 齐 去, 我 乍 去。 [闽语・福州]  
 you need COM me together go I just go  
 (きみが私と一緒にいきたいというのなら、私は行く。) 陈泽平 1998
- d. 我 共 老王 都 是 做 先生 其。 [闽语・福州]  
 I CON PFX Wang all be do teacher MOD  
 (ぼくと王さんはどちらも教師です。) 陈泽平 1998
- (82) a. 伊 ka 厝 卖 去 啊。 [闽语・厦门]  
 he ACC house sell-go MOD  
 (彼は家を売ってしまった。) 鄭榮・曹逢甫 1995
- b. 你 的 衫, 伊 会 ka 你 洗。 [闽语・厦门]  
 I GEN shirt he can BEN you wash

(君のシャツは、彼が洗ってくれるはずだ。) 鄭榮・曹逢甫 1995

- (83) a. 佢 得 阿叔 个 碗 打 烂。 [客家语・大埔]  
he ACC uncle GEN bowl hit-broken  
(彼はおじさんの茶碗を割った。) 何耿鏞 1997
- b. 佢 得 催 买 东西。 [客家语・大埔]  
he BEN me buy things  
(彼は私に物を買ってくれた。) 何耿鏞 1997
- c. 佢 得 催 一下 去 广州。 [客家语・大埔]  
he COM me together go Guangzhou  
(彼はぼくと一緒に広州へ行く。) 何耿鏞 1997
- (84) a. 佢 搵 吾 书 扯 烂 哩。 [客家语・桃园]  
he ACC my book tear-broken MOD  
(彼はぼくの本を破った。)
- b. 佢 捷捷 搵 催 洗 衫。 [客家语・桃园]  
he always BEN me wash clothes  
(彼はいつもぼくのために洗濯してくれる。)
- c. 大家 搵 催 共下 唸! [客家语・桃园]  
everyone COM me together read  
(みなさん私と一緒に読んでください。)

このような文が東南地域の処置文の重要な一類型であることは間違いないが、従来の処置文研究においては十分な議論が尽くされていない。同一の形態素が一方で随伴者や受益者を導き、一方で処置対象を導くのはなぜなのか。複数の東南方言に共通して観察されるこのような現象に対して、文法化の観点から説明を試みたい。

### 5.3.2 随伴から受益への文法化

処置文の議論に入る前に、随伴者と受益者の関係について考えておきたい。随

伴者と受益者に同じ前置詞が使われる現象については、すでいくつかの方言について詳細な分析が行われている。例えば、北部呉語の“搭”と“帮”を取り上げた刘丹青 2003 は、両者の文法化のプロセスが異なることを指摘している。

(85) 搭：动词 → 并列连词

→ 伴随介词 → 受益介词

帮：动词 → 受益介词 → 伴随介词 → 并列连词 刘丹青 2003: 125

“搭”は、動詞から並列接続詞と随伴前置詞への文法化が同時に成立し、随伴前置詞の用法から受益前置詞へと文法化が進んだことを示している。一方、“帮”は動詞から受益前置詞の用法が先に成立し、それが随伴前置詞の用法を経て、並列接続詞へと文法化を遂げたことを示している。つまり、随伴から受益へというプロセスだけでなく、受益から随伴へというプロセスの可能性もあるということである。

随伴から受益への文法化としては、次のようなプロセスを仮定することができるであろう。

(86) a. 佢 得 催 一下 去 广州。 [客家语・大埔]

he COM me together go Guangzhou

(彼はぼくと一緒に広州へ行く。) 何耿鏞 1997

b. 佢 同 阿 张 商量 过 欸。 [客家语・梅县]

I COM PFX Zhang consult ASP MOD

(ぼくは張さんと相談しました。) 林立芳 1997

c. 汝 共 大家 讲 清楚。 [闽语・福州]

you to everyone talk-clear

(みんなにきちんと話しなさい。) 陈泽平 1998

d. 我 搭 侬 买 衣裳。 [吴语・宁波]

I BEN you buy clothes

(服を買ってあげよう。) 林・佐々木・徐 2002



主語の位置にある名詞句と前置詞が導く名詞句の、動作行為に対する関与のあり方に注目されたい。典型的な随伴者を導く(86a)では、両者の関与の仕方はほぼ対等である。“佢(彼)”と“催(ぼく)”はほぼ対等な立場で“去广州(広州へ行く)”という行為に関与している。この用法は並列接続詞に近く、動詞の語彙的意味を最もよく保存している。次の(86b)では主語の方がやや積極的に関与しているという点で、主語からの方向性が見て取れる。しかし、“商量(相談する)”という行為には両者がとも関与している。(86c)では主語の積極性がより顕著であり、“汝(あなた)”から“大家(みんな)”への明確な方向性が見て取れる。ただし、“讲清楚(はっきり話す)”という行為は聞き手の存在を前提として成り立つものであり、その意味において“大家”の関与も否定できない。主語の関与の度合いが高まるにつれて、前置詞が導く名詞句の関与の度合いは下がっていき、典型的な随伴者から行為の向かう対象へとその性質を変化させていることがわかる。こうした変化の延長線上に、(86d)の受益者を位置づけることができる。主語の“我(わたし)”は明確な意図を持って“买衣裳(服を買う)”という行為を“依(あなた)”に向けて実行している。受益者の“依”は受取手としてそれを享受する立場にあり、“买衣裳”という行為への関与は消極的である。

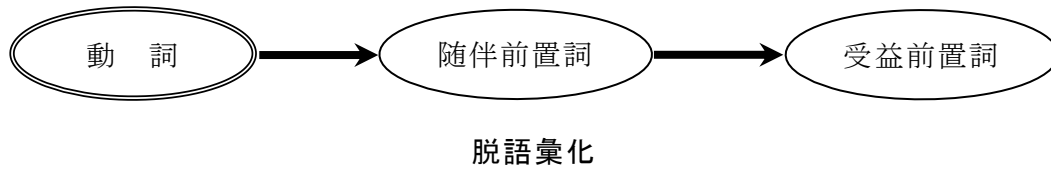
随伴者を導く前置詞には、閩語の“共”や客家語の“同”のように「ともにする」という意味の動詞が文法化したものや、呉語の“搭”のように「関連する、あわせる」という意味の動詞、または客家語の“搯”のように「混ぜる」という意味の動詞が文法化したものなどがある<sup>14</sup>。語彙的意味に多少の違いはあるが、これらはいずれも「複数の要素を結びつける」という動詞の語彙的特徴を抽象化させることによって、随伴者を導く前置詞という文法的要素に変化したものである。上に見た随伴前置詞から受益前置詞へと拡張していくプロセスは、そうした脱語彙化(delexicalization)の流れの延長線上に位置づけられる<sup>15</sup>。

---

<sup>14</sup> 客家語の大埔の“得”について、何耿鏞 1993:29 は「佢得一千块钱(他得到一千元) 彼は1000元手に入れた」や「佢个病有kau得(他的病有好转)彼の病気は好転した」のような文を動詞の用例としてあげている。これらの用法と随伴前置詞の用法との関連についてはさらに詳しい検討が必要である。

<sup>15</sup> 刘丹青 2003 が指摘する呉語の“帮”のように、動詞→受益前置詞→随伴前置詞という

[図 1]



### 5.3.3 受益と処置に関する先行研究

Lai 2003 は客家語の“搵”に関する分析の中で、受損者 (malefactive) を導く用法が受益文から処置文への拡張の引き金となったと主張している<sup>16</sup>。

- (87) a. 佢 尽量 搵 汝 做到。 [客家語]  
I full BEN you do-arrive  
(できる限りのことをしてあげましょう。) Lai 2003
- b. 汝 无 尽□ 搵 佢 乱 讲话。 [客家語]  
you don't careless BEN me disorder speak words  
(いい加減なことを言わないでくれ。) Lai 2003
- c. 阿 明 搵 杯仔 打 烂 了。 [客家語]  
PFX Ming ACC cup hit-broken MOD  
(阿明はコップを壊した。) Lai 2003

(87a)において“搵”は利益の受け手を導き、典型的な受益文を構成している。受益文は時として(87b)のように望ましくない影響の受け手、即ち受損者を導く場合がある。こうした受益から受損への拡張が、(87c)のような動作行為の結果から

---

文法化のプロセスも考えられるため、随伴前置詞と受益前置詞の関係をすべて図 1 のように捉えられるわけではない。脱語彙化については大堀 2002、2004 を参照。

<sup>16</sup> Lai 2003: 354 は、データはおもに北部四縣の客家語 (Northern Sixian Hakka) に基づくと記している。

被害を蒙る対象を導く用法に繋がったと Lai 2003 は指摘している。

受益者を導く前置詞が受損者を導く現象は、共通語の“给”などにも見られる<sup>17</sup>。ただし、そうした用例の多くは一人称や二人称を受損者に見立てる文でなければならないなど、その成立には一定の制約がある。受損者を導く文は受益者を導く文のように自由には成立できない。そうした限られた条件の下で成立する文が、処置文の成立の引き金になったとは考えにくい。また、上の(87c)では、処置対象の“杯仔(コップ)”が望ましくない影響を蒙る事態が描かれており、この文を見る限りでは受損者を導く(87b)との間に意味的な連続性があるように思える。しかし、処置文における処置対象がつねに望ましくない影響の受け手であるとは限らない。(87c)の“杯仔”が持つ望ましくない影響の受け手という意味的な特徴は、すべての処置対象に当てはまるわけではない。受益から処置へのプロセスに受損者を導く用法の介在を仮定する Lai 2003 の分析はこうした点で疑問が残る。

曹志耘 1997 は、呉語の金華湯溪において受益と処置が同じ形態素を用いる現象について興味深い分析を行っている。金華湯溪において受益者を導く前置詞には“帮”と“听”の二つがあるという。

(88) 我 帮 尔 买 来 一 件 衣裳。 [呉語・金華湯溪]

I BEN you buy-come a CLA clothes

(あなたに服を買ってきてあげた。) 曹志耘 1997

(89) 尔 听 我 写 封 信。 [呉語・金華湯溪]

you BEN me write CLA letter

(私に手紙を書いてください。) 曹志耘 1997

“帮”や“听”を用いた受益文では、次のように動作行為の対象を表す名詞句を主題化し、動詞句の前に置くことがあるという<sup>18</sup>。

---

<sup>17</sup> 朱德熙 1982:180 を参照。

<sup>18</sup> “块玻璃”や“些衣裳”は定(definite)の名詞句である。量詞“块”“些”は、指示詞に通じる定指機能を果たしている。

(90) 我 帮 尔 块 玻璃 敲 敲 破。 [吴语・金华汤溪]

I BEN you CLA glass hit-hit-broken

(お前のためにガラス窓を割ってやった。) 曹志耘 1997

(91) 我 听 尔 些 衣裳 收 归 来 罢。 [吴语・金华汤溪]

I BEN you some clothes take-back-come MOD

(お前のために服を取り込んでやった。) 曹志耘 1997

この場合、“帮”や“听”の後ろの人称代名詞は省略することができるため、次のような文が成立するという。

(92) 我 帮 块 玻璃 敲 敲 破。 [吴语・金华汤溪]

I BEN CLA glass hit-hit-broken

(ガラス窓を割ってやった。) 曹志耘 1997

(93) 我 听 些 衣裳 收 归 来 罢。 [吴语・金华汤溪]

I BEN some clothes take-back-come MOD

(服を取り込んでやった。) 曹志耘 1997

この時、“帮”や“听”は意味的に後ろの名詞と直接関連していると理解されるため、文全体は共通語の“把”構文のような働きを持つと曹志耘 1997 は指摘している。つまり、受益文から処置文への拡張過程に人称代名詞の省略があるというわけである。

曹志耘 1997 は、金華湯溪において(92)や(93)のような文は非常に少ないとしながらも、共通語の“把”構文の影響によって、この種の用法はさらに発達するであろうという予測を述べている。遠藤 2004 は、曹志耘 1997 の分析を支持する立場から、北方方言の影響という点をさらに詳しく説明している。遠藤 2004 によれば、代名詞省略 (pro-drop) によって成立した(92)や(93)のような文は、北方方言の処置文と形式的に平行しており、またその文法的意味も非常に近接していることから、北方方言の“把”と“帮”に類推 (analogy) が生じ、“帮”は処置標識として再分析 (reanalysis) されるのだという。

受益文から処置文への文法化のプロセスに人称代名詞の省略を仮定する曹志耘

1997の分析は興味深い。ただし、そのような省略がなぜ生じるのかという疑問には答える必要があるだろう。省略が生じる一般的な理由としては、話し手と聞き手の双方にとって受益者が誰であるかが自明であり、あえて言及する必要性に乏しい場合などが考えられる。そうであるならば、なぜ前置詞が残ったのか。また、曹志耘 1997の指摘によれば、(92)や(93)のような文は金華湯溪において使用頻度が高くないという。そうした稀な文から、処置文のような生産性の高い構文が成立し得るのかといった疑問も残る。客家語に関して Lai 2003 が使用頻度の高くない受損者から処置への拡張を仮定したのと同様の問題がある。

さらに大きな問題は北方方言の影響である。かりに、人称代名詞の省略によって(92)や(93)のような文が成立したとして、そこからさらに“帮”が処置標識へと文法化を遂げたのは、果たして真に北方方言の影響であろうか。“把”の影響によって“帮”が処置標識として再分析されるという遠藤 2004の分析は、北方方言の影響を過大に評価しているのではないか。遠藤 2004自身も指摘しているように、同一の形態素が受益者と処置対象の両方を導く現象は、浙江南部や福建沿岸地区、雲南、広東東部、台湾など、北方方言との間にそれほど密接な接触があったとは思われない地域においても観察されている。こうした地域の処置文がすべて“把”の影響によって成立したとは考えにくい。

方言間の影響関係は方言文法の研究にとって重要なテーマの一つであり、東南方言に対する北方方言の影響も無視することはできない。各地の処置文について、共通語の“把”の影響を指摘する研究は多い。しかし一方で、影響関係を論じることで、真の問題解明がなおざりにされてしまう危険もある。以下では、北方方言の影響などはとりあえず措くとして、東南方言内部における合理的な説明の可能性を探ることにしたい。

#### 5.3.4 処置対象と人称代名詞の関連

ここで注目したいのは、人称代名詞と処置対象の密接な関連である。呉語や客家語の一部では、処置対象に人称代名詞の修飾を強く求めるという現象が観察される。

呉語の寧波には処置文を構成する前置詞が二つある。一つは随伴者や受益者を

導く機能を備えた“搭[toʔ<sup>5</sup>]”であり、もう一つは前節で見た「与える」という意味の授与動詞の“拨[paʔ<sup>5</sup>]”である。

(94) a. 搭 其 咯 棉被 晒 一 晒。 [吴语・宁波]

ACC he GEN cotton quilt dry-a-dry

(彼の布団を干してやろう。) 林・佐々木・徐 2002

b. 其 老老 搭 我 打 乒乓。 [吴语・宁波]

he always COM me play table tennis

(彼はいつもぼくと卓球をする。) 林・佐々木・徐 2002

c. 我 搭 侬 买 衣裳。 [吴语・宁波]

I BEN you buy clothes

(君に服を買ってあげよう。) 林・佐々木・徐 2002

(95) a. 侬 拨 房间 打扫 打扫。 [吴语・宁波]

you ACC room clean-clean

(君は部屋を掃除しなさい。) 林・佐々木・徐 2002

b. 我 拨 侬 一 只 苹果。 [吴语・宁波]

I GIVE you a CLA apple

(君にリンゴをあげよう。) 林・佐々木・徐 2002

インフォーマントによれば、(94a)のように処置対象が人称代名詞の修飾を伴う場合、“拨”よりも“搭”が選択される傾向が強いという。一方、(95a)のように処置対象が人称代名詞の修飾を伴わない場合は、“搭”よりも“拨”が選択されるという。ここで言う「選択される傾向が強い」とは、それを選択しなければ非文になるというわけではないが、もう一方に比べて優先して選択されるという意味に理解されたい。処置対象が人称代名詞の修飾を伴う場合、インフォーマントが第一に選択するのは“搭”であって、“拨”ではない。一方、人称代名詞の修飾を伴わない場合、これと逆の選択が観察された。ただし、何れの場合にも“搭”と“拨”の置き換えは可能であった。

唯一置き換えが不可能であったのは、述語に“拨”が含まれる次のような文で

ある。この場合、必ず授与動詞の“撥”を選択しなければならず、随伴者や受益者を導く機能を備えた“搭”を用いることはできない。

- (96) 我 {\*搭/拨} 该 本 书 卖 拨 依。 [吴语・宁波]  
I ACC this CLA book sell-GIVE you  
(この本をきみに売ってあげる。) 林・佐々木・徐 2002

両者の使い分けが顕著に現れるのが、次のように処置対象が人称代名詞そのものである場合である。このような文では、必ず“搭”が選択され、“撥”を用いることは許されない。

- (97) 我 {搭/\*拨} 其 打 勒 半 死 半 活。 [吴语・宁波]  
I BEN/GIVE him hit ASP half dead half alive  
(ぼくは彼を半殺しの目にあわせた。) 林・佐々木・徐 2002

- (98) 其 {搭/\*拨} 我 狠 勒 一 顿。 [吴语・宁波]  
he BEN/GIVE me hit ASP one time  
(彼はぼくを罵った。) 林・佐々木・徐 2002

処置対象と人称代名詞の間に見られる密接な関連は、客家語についても報告されている。林立芳 1997 によれば、客家語の梅県でも処置対象には人称代名詞の関与が強く求められるという。梅県にも二つの処置前置詞がある。一つは随伴者や受益者を導く機能を備えた“同[t‘uŋ<sup>11</sup>]”であり、もう一つは「手に持つ」という意味と関わりがあり、隋代には早くも処置前置詞としての機能を獲得していたと言われる“将[tsioŋ<sup>44</sup>]”である<sup>19</sup>。

- (99) {同/将} 佢 玻璃窗 拭 净 来。 [客家语・梅县]  
ACC my window wipe-clean MOD  
(ぼくの窓ガラスを拭いた。) 林立芳 1997

---

<sup>19</sup> 梅祖麟 1990 を参照。

林立芳 1997 によれば、“同”を用いる場合、処置対象には人称代名詞の修飾が不可欠であるという。人称代名詞の修飾を伴わない“玻璃窗（窓ガラス）”を処置対象とする文では、“同”を用いることができない<sup>20</sup>。

(100) {\*同/将} 玻璃窗 拭 净 来。 [客家语・梅县]

ACC window wipe-clean MOD

(窓ガラスを拭いた。) 林立芳 1997

同様の現象は大埔の客家語についても報告されている。何耿鏞 1993 によれば、次の文では、所有者を表す“nga（私の）”は省略できないという。

(101) 佢 得 \*(nga) 碗 打 烂 了。<sup>21</sup> [客家语・大埔]

he ACC my bowl hit-broken MOD

(彼はわたしの茶碗を割ってしまった。) 何耿鏞 1993

“得[det<sup>21</sup>]”は随伴者や受益者を導く前置詞でもある。

(102) 佢 得 催 一 下 去 广州。 [客家语・大埔]

he COM me together go Guangzhou

(彼はわたしと一緒に広州へ行く。) 何耿鏞 1993

---

<sup>20</sup> 李荣主编 1995 によれば、梅県では“将把[tsion<sup>44</sup>pa<sup>31</sup>]”という二音節前置詞によっても処置文が構成されるという。以下の例が示すように、“将把”が導く処置対象に人称代名詞の修飾語は不要である。

佢 将把 事情 话 佢 知。 [客家语・梅县]

I ACC situation speak him know

(ぼくは出来事を彼に知らせた。) 李荣主编 1995

<sup>21</sup> 何耿鏞 1993: 74 は「佢得 nga 碗要烂了。」と記しているが、印刷上の誤りと思われるので改めた。



(103) 佢 得 催 买 东西。 [客家语・大埔]

he BEN me buy things

(彼はわたしに物を買ってくれる。) 何耿鏞 1993

このように、随伴者や受益者を導く機能を備えた前置詞が処置文を構成する場合、呉語の寧波や客家語の梅県や大埔では、処置対象には人称代名詞の関与が必要とされることがわかる。ただし、こうした現象はすべての地域で観察されるわけではない。客家語について言えば、梅県や大埔で見られた現象は、台湾北部の桃園の処置文には観察されなかった。また、閩語の福州や厦門に関する調査でも、人称代名詞と処置対象の関連を裏付ける現象はとくに見られなかった。

人称代名詞と処置対象の間に見られる密接な関連を踏まえた上で、先に見た曹志耘 1997 の分析を改めて検討してみたい。曹志耘 1997 の分析は人称代名詞の省略を仮定するという点において疑問が残るが、次のような受益文を処置文の原型と捉える点は、受益から処置への文法化のプロセスを理解する上で重要な指摘である。

(104) 我 帮 尔 块 玻璃 敲 敲 破。 [吴语・金华汤溪]

I BEN you CLA glass hit-hit-broken

(窓ガラスを割ってやった。) 曹志耘 1997

(105) 我 听 尔 些 衣裳 收 归 来 罢。[吴语・金华汤溪]

I BEN you some clothes take-back-come MOD

(服を取り込んでやった。) 曹志耘 1997

これらは動作行為の対象を主題化し、動詞句の前に表示するタイプの受益文である。こうした対象前置型の受益文を処置文の原型と見る曹志耘 1997 の分析には本研究も同意する。ただし、そのプロセスにおいて人称代名詞の省略が起こったとする解釈には検討の余地があろう。前節で見た寧波や梅県、大埔の現象は、人称代名詞と処置対象との間のむしろ密接な関連を示している。こうした現象を合理的に説明するためには、単に人称代名詞の省略を仮定するだけでは不十分である。

処置対象が人称代名詞の修飾を伴うということは、言い換えれば、そうした処置文ではモノの所有者がつねに明示されるということである。人称代名詞によって明示されるその所有者とは、意味的に見れば影響を被る主体に他ならない。望ましい影響を被る主体であれば受益者であり、望ましくない影響を被る主体であれば受損者である。つまり、寧波や梅県、大埔の処置文では、受益者や受損者が所有者として表示されているのである<sup>22</sup>。

対象を動詞句の前に表示するタイプの受益文から受益者や受損者をモノの所有者として表示する処置文への文法化のプロセスを仮定するならば、これまでの現象を無理なく説明することができる。寧波の呉語を例に言えば、(106a)から(106b)への拡張を仮定することによって、受益前置詞であった“搭”がなぜ処置対象を導く機能を獲得したのかを理解することができる。

(106) a. 搭 其 棉被 晒 一 晒。 [呉語・寧波]

BEN him cotton quilt dry-a-dry

(彼のために布団を干してやる。)

b. 搭 其 咯 棉被 晒 一 晒。 [呉語・寧波]

ACC he GEN cotton quilt dry-a-dry

(彼の布団を干してやる。)

(106a)は目的語の“棉被(布団)”を動詞句の前に前置させた受益文であり、(106b)は処置対象が人称代名詞の所有者を伴う処置文である。一見してわかるように、両者は形式的にきわめて類似している。唯一の違いは、所有関係を表す構造助詞“咯”の有無である。

情報価値の観点から言えば、人称代名詞が担うのはつねに旧情報であり、その情報量は必ずしも多くない。杉村 2005 の言葉を借りれば、人称代名詞は自己主張が弱い。従って、利益の受取手である人称代名詞を(106a)のように受益者として

<sup>22</sup> 受益者を所有者として表示する現象は、日本語の受益文にも見られる。

ぼくは李さんの髪を切ってやった。

花子は彼のセーターを洗ってやった。

表示するか、あるいは(106b)のようにモノの所有者として表示するかは、文全体としての情報価値にそれほど大きな影響を与えない。モノの所有者として表示される人称代名詞は、処置対象を限定する役割を果しており、それが定 (definite) であることを示している。

無論、両者の情報価値がまったく等しいというわけではない。(106a)の“其(他)”には受損者としての読みが生じる蓋然性が高い。他人の布団を干すことは一般的には恩恵授与と理解されるが、それが迷惑と受け取られる状況もあり得ないわけではない。

(106b)のような文の成立は、“搭”の文法機能に非常に大きな変化をもたらしたといえる。受益者という人を導く前置詞であった“搭”が、モノを導くという新たな機能を獲得したことになる。つまり、受益者を所有者として表示する文が成立したことによって、受益標識から処置標識への文法化が起こったと考えられる。

このような文法化は、単なる語彙的意味の抽象化、即ち脱語彙化とは明らかに性質が異なる。受益標識としてすでに文法的要素として確立していた“搭”が、その機能を拡張することによって、処置対象というモノを導く新たな機能を獲得したのである。脱語彙化とは異なるこうした文法化のプロセスを大堀 2002 は「多機能性 (polyfunctionality) の発達」と呼んでいる。

### 5.3.5 文法化の多様性

動詞から随伴前置詞を経て受益前置詞へと至る文法化は、東南地域の各地で報告されている。ただし、そのようにして成立した受益前置詞のすべてが処置前置詞に文法化を遂げているわけではない。例えば、粵語の広州の“同”は受益前置詞としての機能を備えてはいるが、処置文の構成には関与していない<sup>23</sup>。また、客家語であっても、台湾南部の美濃のように処置文そのものをほとんど使わない地域もある<sup>24</sup>。このように、受益から処置への文法化がまったく起こっていない地域もある。

---

<sup>23</sup> 広州の処置文を構成する前置詞には“将”と“械”がある。“械”を使用する地域は少なく、市内ではほとんど使われなという。黄伯荣主编 1996 を参照。

<sup>24</sup> 田中智子氏のご教示による。

一方、福州や廈門の閩語、桃園の客家語などでは、人称代名詞の有無に関わらず自由に処置対象を導くことができる。

(107) a. 伊 共 我 其 车 骑 去。 [闽语・福州]

he ACC I GEN bicycle ride-go

(彼はぼくの自転車に乗って行った。) 陈泽平 1998

b. 共 茶杯 掏 过 来! [闽语・福州]

ACC tea cup bring-over-come

(コップ持って来てください。) 陈泽平 1998

(108) a. 伊 共 我 其 书 扯 破 也。 [闽语・厦门]

he ACC I GEN book tear-broken MOD

(彼はぼくの本を破いた。) 林・佐々木・徐 2002

b. 我 共 即 本 册 卖 互 你。 [闽语・厦门]

I ACC this CLA book sell-GIVE you

(この本を売ってあげましょう。) 林・佐々木・徐 2002

(109) a. 佢 搵 催 个 电脑 搵 坏 了。 [客家语・桃园]

he ACC I GEN computer hit-broken MOD

(彼はぼくのコンピュータを壊した。)

b. 你 遽遽 搵 读书 报告 送 去 啊。 [客家语・桃园]

you quickly ACC study report send-go MOD

(早くレポートを出しに行きなさいよ。)

これらの地域では、モノを導くという機能が完全に定着しており、人称代名詞の関与を裏付ける現象は見出せない。このように、高度に文法化を遂げている地域もある。

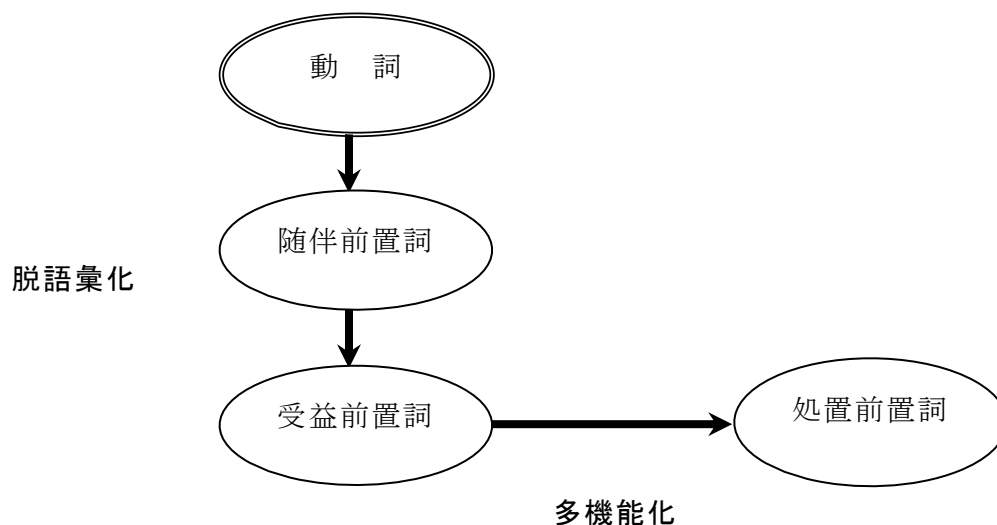
寧波や梅県、大埔のように処置対象が人称代名詞の修飾を要求する地域は、広州や美濃のように文法化がまったく起こっていない地域と、福州や廈門、桃園のように高度な文法化が成立している地域の間位置づけることができるである

う。人称代名詞の修飾を伴うモノのみを導くことができるという現象は、受益標識から処置標識へと変化する多機能性の発達の途中段階を示していると考えられる。

福州や厦門、桃園のように高度な文法化を遂げた地域の資料だけを見た場合、受益文と処置文がなぜ同じ前置詞を使うのかという問題を解決するのは容易ではない。通時的資料の乏しいこれらの地域において、その文法化のプロセスを俄かに理解することは困難である。しかし、寧波や梅県、大埔のように文法化の途中段階を示す地域の資料、さらには広州や美濃のようにまったく文法化が起こっていない地域の資料、これら複数の地域の資料を繋ぎあわせていくことによって、受益から処置への文法化のプロセスを的確に把握することができる。

これまでの観察が示すように、処置前置詞の成立には少なくとも二種類の文法化が関与している。一つは、動詞から随伴前置詞を経由して受益前置詞が成立していくプロセスである。即ち、“虚化”と呼ばれる脱語彙化の流れである。しかし、受益前置詞から処置前置詞への文法化は、それとは明らかに性質の異なるプロセスである。処置前置詞の成立は、すでに文法標識として確立していた受益前置詞が、その機能を拡張することによって、モノを導くという新たな文法機能を獲得した多機能化の結果である。それを誘発したのは、受益者をモノの所有者として表示する現象であったことを各地の方言データは示している。

[図 2]



以上のように、各地の方言資料は文法化のプロセスのさまざまな段階を表している。広州や美濃のように受益から処置への拡張が起こっていない地域、あるいは寧波や梅県、大埔のように発達途中の段階を示す地域、そして福州や厦門、桃園のように高度な文法化を遂げている地域など、それぞれがレベルの異なる文法化の段階を示している。こうした複数の地域の方言資料を総合的に分析するならば、共時的な言語資料のみに基づいて受益から処置への文法化に合理的な説明を与えることは十分に可能である。

## 5.4 本章のまとめ

本章では、共通語の授与動詞“給”が処置文を構成する問題を出発点として、同様の現象が観察される一部の東南方言について分析を行った。その結果、それらの地域では次のような受益文からの拡張によって処置文が成立したことが明らかとなった。

### (110) GIVE<sub>1</sub> + Theme + GIVE<sub>2</sub> + Goal

一文中に授与動詞が繰り返し現れるこのタイプの受益文が、処置文の原型である。授与動詞による処置標識とは、文法化を遂げた GIVE<sub>1</sub> に他ならない。授与されるモノであった主題 (Theme) が、状態変化の主体へと変化を遂げたことが、GIVE<sub>1</sub> に新たな機能をもたらしたと考えられる。授与から処置への文法化とは、位置的变化から物理的变化への文法化である。このようなプロセスを仮定することによって、「与える」という意味の授与動詞がなぜ処置文を構成できるのかを無理なく説明することができる。

一文中に二つの授与動詞が現れる受益文は共通語では一般に許容されない。そのため、上に述べた GIVE<sub>1</sub> の文法化のプロセスは、共通語の“給”にはあてはまらないのではないかという反論が予想される。

王建 2004 は、佐々木 1999 および佐佐木 2002 が提案した授与から処置への文法化のプロセスに対して肯定的な評価を与えつつも、北京語を含む多くの地域に

において、二つの授与動詞が繰り返し現れるの(110)のような文が見られないことを問題点として指摘している。その上で、王建 2004 は授与動詞による処置文には、受益から処置へというプロセスと、使役から処置へというプロセスの二つが考えられると主張している。受益から処置へというプロセスというプロセスについては、木村 2007 に対する問題点としても指摘したように、東南方言の処置文にとって有効な説明となり得ない。使役から処置へというプロセスは、執行使役文とも呼ばれる処置文の性質をうまく説明できるという点で興味深いが、北京語のように授与動詞を用いた使役文が授与使役に限定されている北方方言の処置文を説明しにくいという問題点が残る。

可能性の一つとして、共通語の“给”は東南方言の影響によって処置用法を獲得したと説明することもできる。中国語内部の「言語接触」の影響は十分に考えられるからである。共通語と各地の方言との間には、とりわけその可能性が大きい。

しかし、授与動詞を用いた処置文が成立する北方方言は共通語だけではない。東南方言との間にそれほど密接な接触があるとは考えられない地域にも、授与動詞の処置文は成立する。例えば、徐丹 1992 は、北方方言の中で授与動詞による処置文が観察される地域として、徐州(江苏)、武昌(湖北)、汉口(湖北)、忠县(四川)、邯郸(河北)の各地を挙げている。また黄伯荣主编 1996 は、交城(山西)についても同様の現象を指摘している。東南方言の影響という説明は、これらすべての地域に対して説得力を持つとは言いがたい。

この問題について注目したいのは、朱德熙 1979 が次のような文を適格な文として挙げていることである。

- (111) 你 给 钱 给 他。 [共通語]  
you GIVE money GIVE him  
(彼にお金をあげなさい。) 朱德熙 1979

朱德熙 1979 はこの文を S<sub>2</sub>形式、すなわち受給者後置型の文と認定している。つまり、一文中に授与動詞が繰り返し現れる受益文は、共通語として必ずしも不適格とは言えないのである。ただし、その使用例が少ないことは事実である。使

用頻度の低い形式から文法化が生じるのかという問題は残るが、北方方言としてこのタイプの受益文が完全に許容されないわけではない。従って、本研究が提示した授与から処置への文法化のプロセスは、必ずしも北方方言にあてはまらないとは言えない。

また、使用頻度の観点からいうと、蒋绍愚 2002 や江蓝生 1999 が指摘する歴史的な事実も無視できない。“给”による処置文の歴史は比較的新しく、使用例も決して多くない。朱景松 1995 は、現代北京語として“给”による処置文は特殊な用法ではないと主張するが、北京語の代表的な処置標識である“把”に比べて、使用頻度が低いことは紛れもない事実である。いわば二番手の処置標識であることと、(111)のような受益文の使用頻度が低いことは、決して無関係ではないと思われる。

本章の後半では、受益から処置への文法化について分析を行った。東南方言の処置文には、授与動詞を用いるタイプのほか、受益者や随伴者を導く前置詞を用いるタイプもある。受益前置詞から処置前置詞への文法化は、すでに文法標識として確立していた受益前置詞が、その機能を拡張することによって、モノを導くという新たな文法機能を獲得した多機能化の結果である。こうした文法化の引き金になったのは、受益者をモノの所有者として表示する現象であったと考えられる。



## 第6章 授与動詞とヴォイス構文のネットワーク:

### まとめと展望

本研究は、受益文や受動文、使役文、処置文といった有標ヴォイス構文において、ヴォイス標識の役割を担う授与動詞がどのような文法化のプロセスを経てその機能を獲得したのかを中心に、中国語における授与動詞とヴォイス構文の関連について考察した。同一の形態素がなぜさまざまなヴォイス標識の機能を担うのかという問題に対して、東南方言の資料を活用することによって、比較方言文法の観点から分析を行った。

分析を通して明らかになったのは、授与動詞とヴォイス構文の関連を理解する上で、次のような形式の受益文がきわめて重要な意味を持つということである。本研究が取り上げたヴォイス構文の多くは、この形式からの拡張であると考えられる。

#### (1) GIVE<sub>1</sub> + Theme + GIVE<sub>2</sub> + Goal

この形式は、中国語の授与動詞には、潜在的に主題 (Theme) と着点 (Goal) という二つの意味役割を導く機能があることを示している。つまり、授与動詞には、授与物であるモノを導く役割と、その受取手である人を導く役割があるということである。

(1)のような形式は、抽象的な理論上の可能性を示しているのではない。多くの地域において、二つの授与動詞が同時に現れる現象が報告されている。

(2) 把 本 书 把 我。 [贛語・黎川]

GIVE CLA book GIVE me

(ぼくに本をくれ。) 顔森 1993

(3) 渠 畀 一 本 书 畀 我。 [徽語・黟縣]

- he GIVE a CLA book GIVE me  
 (彼はぼくに本をくれた。) 平田主編 1998
- (4) 拨 本 书 拨 我。 [吴语・上海]  
 GIVE CLA book GIVE me  
 (ぼくに本をくれ。) 钱乃荣 1993
- (5) 拨 张 年历片 拨 辣 他。 [吴语・杭州]  
 GIVE CLA calendar GIVE ASP him  
 (カレンダーを彼にやった。) 钱乃荣 1992
- (6) 我 把 本 书 把 你。 [湘语・祁阳]  
 I GIVE CLA book GIVE you  
 (きみに本をあげる。) 李维琦 1998
- (7) 你 不 把 半 个 工钱 把 我, [湘语・长沙]  
 you not GIVE half CLA salary GIVE me  
 (半分の給料をくれないならば、) 李永明 1991
- (8) 我 畀 咗 一 本 书 畀 佢。 [粤语・广州]  
 I GIVE ASP a CLA book GIVE him  
 (ぼくは彼に本をあげた。) 横田 2019
- (9) 他 把 一 本 书 把 得 我。 [官话・武汉]  
 he GIVE a CLA book GIVE to me  
 (彼は一冊の本をくれた。) 黄伯荣主編 1996

一文中に二つの授与動詞が同時に現れる文を許容するか否かは地域ごとに制限が異なるが、中国語の授与動詞にとって、モノと人という二つの異なる意味役割を導く機能があることを認識しておくことは重要である。以下、各章で取り上げたこの形式に関わりのある構文を振り返ってみたい。

第2章では、粵語タイプの二重目的語文を取り上げた。共通語と語順が異なる以下のような二重目的語文は、特定の地域に限って成立するものではなく、東南方言の各地に広く観察されることを指摘した。

- (10) 佢 畀 三 部 书 我。 [粤语・广州]

he GIVE three CLA book me

(彼はぼくに本を三冊くれた。) 黄伯荣主编 1996

(11) 分 一 本 书 佢。 [客家语・连城]

GIVE a CLA book him

(彼に本をあげる。) 项梦冰 1997

(12) 你 明天 买来, 我就 得 钱 你。 [湘语・衡阳]

you tomorrow buy-come I just GIVE money you

(おまえが明日買ってきたら、金をやろう。) 李永明 1986

(13) 伊 拨 仔 本 书 我。 [吴语・上海]

he GIVE ASP CLA book me

(彼はぼくに本をくれた。) 劉堅 1997

間接目的語が直接目的語の後ろに表示されるこのタイプの二重目的語文は、以下に示すように、一文中に二つの授与動詞が同時に現れる受益文から、受給者を導く授与動詞が省略された形式であると考えられる。

(14) 佢 畀 三 部 书 (畀) 我。 [粤语・广州]

he GIVE three CLA book GIVE me

(彼はぼくに本を三冊くれた。)

つまり、粵語タイプの二重目的語文とは、(1)の構造から GIVE<sub>2</sub> が省略されたものである。

(15) GIVE<sub>1</sub> + Theme + (GIVE<sub>2</sub>) + Goal

第3章では、授与動詞を用いた使役文の分析を行った。授与動詞を用いる使役文は、授与行為を通して被使役者に直接的に働きかける授与使役の状況しか表すことができない。このことを指摘した上で、授与使役文とは、受給者後置型の受益文に動詞が付加された連動構造から、授与行為の実現のために行った手段を表す部分を省略した文であることを示した。

(16) 他 (送 本 书) 给 我 看。 [共通語]

he present CLA book GIVE me read

(彼は本を一冊プレゼントしてぼくに読ませてくれた。)

授与使役文を受給者後置型の受益文からの拡張とみなす理由の一つには、閩語の福州のように、使役者が行った具体的な手段を文法的に明示しなければならない地域が存在することがある。

(17) 伊 \* (送 本 书) 乞 我 看。 [閩語・福州]

he present CLA book GIVE me read

(彼は(本を一冊プレゼントして)ぼくに読ませてくれた。)

福州のような地域を例外として扱うのではなく、各地の授与使役文を統一して説明しようとするならば、授与使役文は受給者後置型の受益文から拡張した形式と分析されるべきである。また、このような分析は、各地の授与使役文に共通して観察される、被使役者が受取手としての性質を備えていなければならないという、このタイプの使役文に備わる意味的特徴についても構造的な根拠を与えることになる。

その構造に注目すれば、受給者後置型の受益文は、〈手段〉＋〈目的〉タイプの連動構造であるという点で(1)の形式と共通している。次の対比が示すように、受給者後置型の受益文が成立するためには、授与のための〈手段〉が明示されなければならない。

(18) a. 你 买 件 毛衣 给 我。 [共通語]

I buy CLA sweater GIVE me

(セーターを買ってください。)

b. \*你 洗 件 毛衣 给 我。 [共通語]

I wash CLA sweater GIVE me

(セーターを洗ってください。)

“买件毛衣（セーターを買う）”という行為は、“给我（私に与える）”という〈目的〉の〈手段〉となりえるが、“洗件毛衣（セーターを洗う）”という行為は、授与の〈手段〉とはなり得ないのである。

このことは、(1)の形式についても同様にあてはまる。

(19) GIVE<sub>1</sub> + Theme + GIVE<sub>2</sub> + Goal = (1)

把 本 书 把 我。 [赣语・黎川]

GIVE CLA book GIVE me

(ぼくに本をくれ。) 颜森 1993

“把本书（本を与える）”という〈手段〉を通して、“把我（私に与える）”という〈目的〉を実現しているという点で、受給者後置型の受益文と共通している。二つの GIVE が一文中に同時に現れる(1)は、受給者後置型の受益文と同様に、〈手段〉 + 〈目的〉タイプの連動構造を構成する受益文であると理解されてよい。

第4章では、授与動詞を用いた受動文について考察した。本研究は、授与から使役を経由して受動に至るという蒋绍愚 2002をはじめ、杨凯荣 2015らが主張する文法化のプロセスを支持する。その上で、それらが東南地域に集中して観察される原因は、共通語の“让”に相当する許容使役のための使役標識が存在しなかったことにあるという解釈を示した。

閩語の福州や呉語の寧波（宁波）では、授与動詞を用いた東南方言の使役文が、必ずしも授与使役に限定されず、許容使役をもその使用範囲に含んでいることを第3章において明らかにした。こうした現象は、二つの地域に限らず、東南方言の各地で広く観察された。

(20) 我 拨 伊 早歇 归 去。 [吴语・绍兴]

I GIVE him quickly back-go

(ぼくは彼に早く帰らせた。)

(21) 妈 拍 电话 互 伊 出 来。 [闽语・厦门]

mother hit telephone GIVE him out-come

(母は電話をかけて彼に出て来させた。)

(22) 佢 分 你 去 办公室。 [客家语・桃园]

he GIVE you go office

(彼はあなたをオフィスへ行かせた。)

(23) 佢 畀 我 去 机场。 [粤语・广州]

he GIVE me go airport

(彼はぼくを空港に行かせた。)

授与使役に限定されない東南方言の授与動詞は、共通語のそれに比べて、使役標識としての文法化が進んでいるということが出来る。このような現象をもたらした原因は、東南方言が専ら許容使役を表すための使役標識を持たなかったことにあると考えられる。共通語の“让”に相当する使役標識が存在しなかったことが、東南方言の授与動詞の使役標識としての文法化を促進し、結果として許容使役の機能をもたらした。許容使役の機能を獲得した東南方言の授与動詞は、そこからさらに文法化を遂げて、受動標識の機能を獲得したと考えられる。

授与から受動への文法化をこのように分析することによって、授与動詞を用いた受動文がなぜ東南方言に多く、北方方言に少ないのかという問題についても、無理のない解答を与えることが可能になる。北方方言には許容使役のための“让”がある。そのため、授与動詞の文法化は授与使役にとどまり、許容使役の機能を獲得するには至らなかった。一方、東南方言には、“让”に相当する許容使役のための使役標識が存在しない。そのため、その穴を埋める形で授与動詞が許容使役へと文法化を遂げた。両者を分けた原因は、許容使役標識の有無である。その結果、許容使役の機能を獲得した東南方言の授与動詞は、受動標識へとさらなる文法化を遂げることになったのである。

授与動詞を用いた受動文は東南方言に多いことを指摘する先行研究は多いが、なぜ多いのかという理由に答えた研究はこれまでなかったように思われる。許容使役標識の不在を原因とみる本研究の分析は、この問題に対する初めての解釈を示したといえる。また、複数の東南方言の資料に基づいて、授与動詞が授与使役から許容使役を経て受動へと至る文法化のプロセスを示したことで、少なくとも

口語のレベルでは、中国語の受動文は南北をとわず、使役から受動へという他の言語にも多く観察される一般性の高い文法化によって成立していることが明らかとなった。

ここまでは受給者を導く GIVE<sub>2</sub>の文法化、すなわち人を導く授与動詞の文法化であった。第5章で取り上げた授与から処置への文法化は、受給物を導く GIVE<sub>1</sub>の文法化、すなわちモノを導く授与動詞の文法化である。

一文中に二つの授与動詞が現れる(1)の形式の受益文は、次のような文法化のプロセスを経て、処置文へと拡張したと考えられる。

(24) a. GIVE<sub>1</sub> + Theme + GIVE<sub>2</sub> + Goal

渠 界 一 本 书 界 我。 [徽語・黟縣]

he GIVE a CLA book GIVE me

(彼はぼくに一冊の本をくれた。)

b. GIVE<sub>1</sub> + Theme + V + GIVE<sub>2</sub> + Goal

我 拨 该 本 书 送 拨 依。 [吳語・寧波]

I GIVE this CLA book present-GIVE you

(この本を君にプレゼントしてあげる。)

c. GIVE<sub>1</sub> + Theme + V + Result (Directional)

把 她们 拖 到 船 上。 [湘語・長沙]

GIVE them pull-arrive ship on

(彼女たちを船に連れてこい。)

d. GIVE<sub>1</sub> + Theme + V + Result (Stative)

莫 把 茶碗 打 破 了。 [贛語・黎川]

don't GIVE cup hit-broken MOD

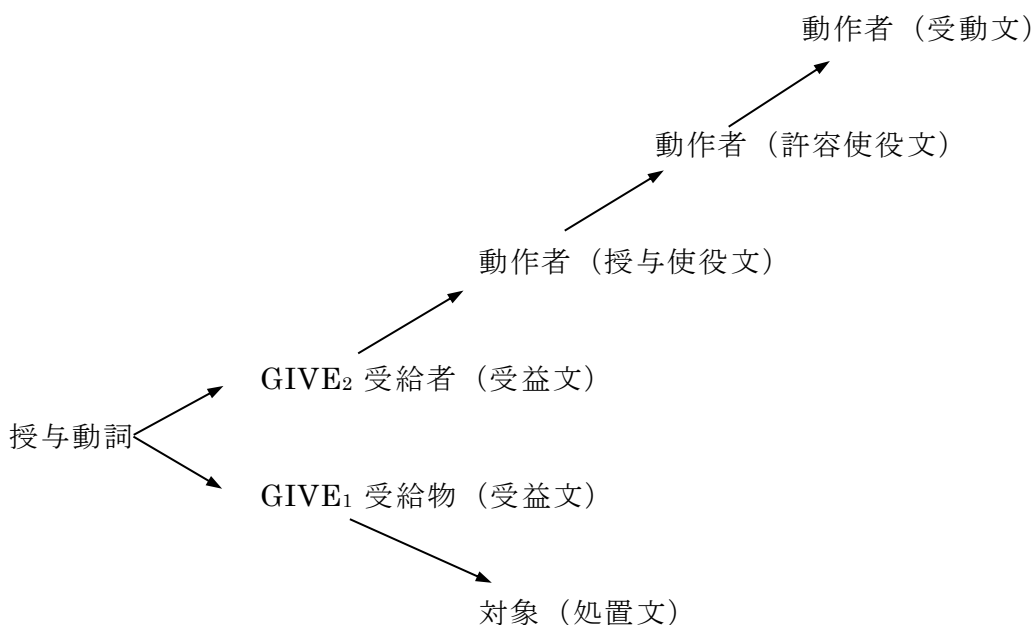
(茶碗を割ってはいけない。)

授与動詞の処置標識とは、文法化を遂げた GIVE<sub>1</sub>に他ならない。つまり、授与物を導く授与動詞が、動作行為の対象を導く機能を獲得したことが、授与から処

置への文法化である。言い換えれば、位置的变化の主体であった受給物が、物理的变化の主体へと変わる文法化である。こうしたプロセスを仮定することによって、「与える」という意味の授与動詞がなぜ処置文を構成できるのかという疑問に対して、従来の解釈よりも簡潔で、無理のない説明が可能となる。

以上のことをまとめると、授与動詞がヴォイス標識を担う構文のネットワークは、以下のように示すことができる。

### <授与動詞とヴォイス構文のネットワーク>



本研究は、形態変化の乏しい中国語において、さまざまなヴォイス構文がどのように構成されるのか、またそれらがどのようなネットワークを構成しているのかを文法化の観点から考察した。「与える」という意味の授与動詞に複数のヴォイス標識の機能が集中しているのはなぜなのかという問題の解明に比較方言文法の観点から取り組んだ。分析を通して見えてきたことは、木村 2000、2003 のいう「動作者と主語の関係を中心に、名詞表現の意味役割と格表示の対応関係の変更が何らかのかたちで明示的かつ規則的に反映される現象」に関わる中国語の特徴と多言語にも通じる一般性である。動詞の形態変化という手段を持たない中国語



では、意味役割と格表示の対応関係の変更を限られた数のヴォイス標識によって表すことになる。そのため、一つのヴォイス標識に複数の機能が集中することになる。また、ヴォイス標識の多くは動詞が文法化を遂げたものであるため、地域によって選択される動詞が異なったり、文法化のレベルがまちまちであったりする現象が見られる。しかし、一見、地域間の差異が大きいように見えるヴォイス構文も、全体としては整然とした一つのネットワークを構成しており、多言語にも通じる一般性を備えている。授与動詞を中心に取り上げた本研究は、ヴォイスに関わる中国語のそうした特徴の一端を明らかにしたにすぎないが、従来の研究が未解決であった問題に対していくつかの新たな解釈を示した。

できるだけ多くの地域を取り上げるよう努めたが、本研究が調査した地域は広大な中国大陸の一部にすぎない。調査対象を拡げていけば、あるいは本研究が示した解釈の反例となる地域も現れるかもしれない。また、本研究は授与動詞とヴォイスの関連を中心に分析を行ったため、授与動詞を用いた受動文や処置文がほとんど観察されない北方方言に対する調査は十分とは言えない。視点と範囲を変えて、今後さらに分析を続けていきたい。

## 参考文献

(日本語)

- 相原まり子 2005 中国語のフォーカス標示手段—“来”を中心に—,『中国語学』252号, 111-126頁。
- 池上嘉彦 2011 日本語と主観性・主体性,『主観性と主体性』(ひつじ意味論講座第5巻) ひつじ書房, 49-67頁。
- 石村広 2011 『中国語結果構文の研究—動詞連続構造の観点から—』白帝社。
- 井上優 2011 日本語・韓国語・中国語の「動詞+授受動詞」,『日本語学』9月号, 38-48頁。
- 大河内康憲 1974 被動が成立する基礎—日本語などとの関連で—,『中国語学』220号, 1-12頁。
- 大嶋広美 1996 梅県客家語会話(二), 中国語學研究『開篇』No.14, 143-160頁。
- 太田辰夫 1956 「給」について,『神戸外大論叢』7巻1-3号, 177-197頁。
- 太田辰夫 1958 『中国語歴史文法』江南書院。
- 大堀壽夫 2002 『認知言語学』東京大学出版会。
- 大堀壽夫 2004 文法化の広がりと問題点,『言語』4月号, 26-33頁。
- 奥津敬一郎 1980 動詞文型の比較,『日英語比較講座 第2巻文法』大修館書店, 63-100頁。
- 神谷智幸 2019 『現代中国語“給”の文法機能—“給V”構造」ならびに“V給”構造」の意味と機能—』, 東京大学大学院総合文化研究科博士論文。
- 河上誓作編 1996 『認知言語学の基礎』研究社出版。
- 木津祐子 2019 「箇」の個別化機能と定指“量名”構造, 中国語學研究『開篇』No.37, 149-161頁。
- 木村英樹 1992 BEI受身文の意味と構造,『中国語』6月号, 10-15頁。
- 木村英樹 1996 『中国語はじめの一步』ちくま新書。
- 木村英樹 2000 中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化,『中国語学』247号, 19-39頁。
- 木村英樹 2000 “给”が使えない「ために」,『中国語』10月号, 32頁。
- 木村英樹 2003 中国語のヴォイス,『言語』32-4, 64-69頁。
- 木村英樹 2004 授与から受動への文法化—北京語授与動詞の前置詞化をめぐって

- 一、『言語』33-4, 58-65頁。
- 木村英樹・鷺尾龍一 2008 東アジア諸語にみるヴォイスの多様性と普遍性—序に代えて—、『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点—』くろしお出版, 1-20頁。
- 木村英樹 2008 北京語授与動詞“给”の文法化, 『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点—』くろしお出版, 93-107頁。
- 木村英樹・楊凱榮 2008 授与と受動の構文ネットワーク—中国語授与動詞の文法化に関する方言比較文法試論—, 『ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点—』くろしお出版, 65-91頁。
- 木村英樹 2017 『中国語はじめの一步〔新版〕』ちくま学芸文庫。
- 佐々木勲人 1990 “给”構文の多義性について, 『日本語と中国語の対照研究』第13号, 26-38頁。
- 佐々木勲人 1992 受身標識の個性と文法化, 『未名』第10号, 129-147頁。
- 佐々木勲人 1993 受身と受益—“给”構文の分析—, 『日本語と中国語の対照研究』第15号, 13-22頁。
- 佐々木勲人 1994 中国語の受益文, 『言語文化論集』第38号, 315-325頁。
- 佐々木勲人 1996 “被…给”と“把…给”—強調の“给”再考—, 『中国語学』243号, 65-74頁。
- 佐々木勲人 1997 中国語における使役と受動の曖昧性, 『ヴォイスに関する比較言語学的研究』三修社, 133-160頁。
- 佐々木勲人 1999 南方方言におけるGIVEの処置文, 『中国語学』246号, 207-216頁。
- 佐々木勲人 2002 中国語における使役と受益—比較方言文法の観点から—, 『事象と言語形式』三修社, 177-197頁。
- 佐々木勲人 2010 台湾客家語の受益文, 『汉语与汉语教学研究』創刊号, 66-74頁。
- 佐々木勲人 2013 ヴォイス構文と主観性—話者の言語化をめぐる—, 『木村英樹教授還暦記念 中国語文法論叢』白帝社, 315-331頁。
- 佐々木勲人 2017 恩恵授与と事態把握, 『楊凱榮教授還暦記念論文集 中日言語研究論叢』朝日出版社, 355-366頁。
- 澤田淳 2014 日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化—多言語との比較対

- 象と合わせて一、『言語研究』145号, 27-60頁。
- 柴谷方良 1978 『日本語の分析—生成文法の方法』大修館書店。
- 柴谷方良 1982 ヴォイス：日本語・英語, 『講座日本語学 10 外国語との対照』明治書院, 256-279頁。
- 柴谷方良 2000 第3章：ヴォイス, 『日本語の文法：第1巻 文の骨格』岩波書店, 117-186頁。
- 杉村博文 1992 遭遇と達成—中国語被動文の感情的色彩—, 『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』くろしお出版, 45-62頁。
- 杉村博文 2005 “普通话”の授受構文, 『中国語普通話文法と方言文法の多様性と普遍性に関する類型論的・認知言語学的研究』（平成13-16年度科学研究費補助金基盤研究B(1)研究成果報告書）, 46-103頁。
- 杉村博文 2006 中国語授与構文のシンタクス, 『大阪外国語大学論集』35号, 65-96頁。
- 田中智子 2001 客家語の介詞「同」について, 『日本中国語学会第51回全国大会予稿集』, 85-89頁。
- 千島英一 2004 現代香港広東語の記述的研究, 『現代香港広東語の語彙体系とその形成にかんする記述的研究』（平成13-15年度科学研究費基盤研究(B)研究成果報告書）。
- 永江貴子 2005 祈使句における“给”と“帮”の選択について—台湾国語と普通話との比較から, 『中国語学』252号, 196-209頁。
- 永江貴子 2010 台湾国語における受益者マーカー—普通話との比較から, 『文化外国語専門学校紀要』第23号, 19-37頁。
- 橋本敬・中塚雅也 2007 文法化の構成的モデル化—進化言語学からの考察—, 『日本認知言語学会論文集』第7巻, 33-43頁。
- 橋本萬太郎 1978 『言語類型地理論』弘文堂。
- 益岡隆志 1987 『命題の文法—日本語文法序説—』くろしお出版。
- 宮田一郎・許宝華・銭乃榮 1984 『普通話対照 上海語・蘇州語学習と研究』光生館。
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 2010 『コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門』明治書院。

- 山田忠司 1998 北京語における「給」の発達について—『紅樓夢』、『兒女英雄傳』、老舍作品をめぐって、『大阪産業大学論集 人文科学編』96号, 51-61頁。
- 山田敏弘 2004 『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』明治書院。
- 山梨正明 1995 『認知文法論』ひつじ書房。
- 楊凱榮 1989 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』くろしお出版。
- 楊凱榮 1994 受益表現について—“給”と「てあげる、てくれる」との比較を中心の一、『九州国際大学 教養研究』第1巻第1号, 103-124頁。
- 楊凱榮 2009 日中受益表現と所有構造の対照研究, 『日中言語研究と日本語教育』第2号, 1-12頁。
- 横田文彦 2019 広東語授与型二重他動構文, 中國語學研究『開篇』No.37, 299-337頁。
- 林璋・佐々木勲人・徐萍飛 2002 『東南方言比較文法研究—寧波語・福州語・廈門語の分析—』好文出版。
- 盧濤 1993 「給」の機能語化について, 『中国語学』240号, 60-69頁。
- 鷺尾龍一・三原健一 1997 『日英語比較選書7 ヴォイスとアスペクト』研究社出版。

(中国語)

- 北京大学中文系1955 1957級语言班編 1982 《現代漢語虛詞例釋》北京：商務印書館。
- 曹志耘 1997 金華湯溪方言的動詞謂語句, 李如龍, 張雙慶主編《動詞謂語句》(中國東南部方言比較研究叢書(第三輯)) 廣州：暨南大學出版社, 39-57頁。
- 陳昌儀 1991 《贛方言概要》南昌：江西教育出版社。
- 陳澤平 1998 《福州方言研究》福州：福建人民出版社。
- 高名凱 1948 [1986] 《漢語語法論》上海：開明書店, 復刊(修訂版) 北京：商務印書館。
- 黃蓓 2016 作為主觀性標記的“給”—兼論句法標記說的不足, 《語言科學》第4期, 377-390頁。
- 黃伯榮主編 1996 《漢語方言語法類編》青島：青島出版社。

- 何耿镞 1993《客家方言语法研究》厦门：厦门大学出版社。
- 江蓝生 1999 汉语使役与被动兼用探源，《祝贺梅祖麟先生：汉语历史句法及构词法论文集》巴黎，收录于《近代汉语探源》北京：商务印书馆（2000），221-236页。
- 蒋绍愚 2002“给”字句、“教”字句表被动的来源—兼谈语法化、类推和功能扩张，《语言学论丛》26，159-177页。收录于《语法化与语法研究（一）》北京：商务印书馆（2003），202-223页。
- 李荣主编 1995《梅县方言词典》南京：江苏教育出版社。
- 李如龙、梁玉璋、邹光春、陈泽平 1994《福州方言词典》福州：福建人民出版社。
- 李珊 1994《现代汉语被字句研究》北京：北京大学出版社。
- 李炜 2004 加强处置/被动语势的助词“给”，《语言教学与研究》第1期，55-61页。
- 李小凡 1997《苏州方言语法研究》北京：北京大学出版社。
- 李新魁·黄家教·施其生·麦耘·陈定方 1995《广州方言研究》广州：广东人民出版社。
- 李永明 1986《衡阳方言》长沙：湖南人民出版社。
- 李永明 1991《长沙方言》长沙：湖南出版社。
- 李宇明、陈前瑞 2005 北京话“给”字被动句的地位及其历史发展，《方言》第4期，289-297页。
- 梁玉璋 1990 福州话的“给”字，《中国语文》第4期，280-283页。
- 林立芳 1997 梅县方言的动词谓语句，李如龙，张双庆主编《动词谓语句》（中国东南部方言比较研究丛书（第三辑））广州：暨南大学出版社，195-211页。
- 林连通主编 1993《泉州市方言志》北京：社会科学文献出版社。
- 刘丹青 2003 语法化的共性与个性，单向性与双向性——以北部吴语的同义多功能虚词“搭”和“帮”为例，吴福祥，洪波主编《语法化与语法研究（一）》北京：商务印书馆，125-144页。
- 刘丹青 2003《语序类型学与介词理论》北京：商务印书馆。
- 劉堅 1997 上海話跟普通話不同的若干語法格式，余靄芹、遠藤光暎共編《橋本萬太郎紀念中國語學論集》東京：內山書店，277-281页。
- 羅肇錦 1984《客家語法研究》台北：台灣學生書局。

- 吕叔湘主编 1980《现代汉语八百词》北京：商务印书馆。
- 梅祖麟 1990 唐宋处置式的来源，《中国语文》第3期，1-9页。
- 木村英树 2005 北京话“给”字句扩展为被动句的语义动因，《汉语学报》第2期，14-21页。
- 平田昌司 1997 休宁方言的动词谓语句，李如龙，张双庆主编《动词谓语句》（中国东南部方言比较研究丛书（第三辑））广州：暨南大学出版社，84-104页。
- 平田昌司主编 1998《徽州方言研究》（中國語學研究《開篇》单刊No.9）东京：好文出版。
- 钱乃荣 1992《杭州方言志》（中國語學研究《開篇》单刊No.5）东京：好文出版。
- 钱乃荣 1997《上海话语法》上海：上海人民出版社。
- 桥本万太郎 1987 汉语被动式的历史·区域发展，《中国语文》第1期，36-49页。
- 饶秉才、欧阳觉亚、周无忌 1981《广州话方言词典》香港：商务印书馆香港分馆。
- 任鹰、李梦迪 2017 给予动词“给”的被动标记化问题再议，《楊凱榮教授還曆紀念論文集 中日言語研究論叢》东京：朝日出版社，315-331页。
- 邵敬敏 2009 从“V给”句式的类化看语义的决定性原则，《语言教学与研究》第6期，1-8页。
- 沈家煊 1999 “在”字句和“给”字句，《中国语文》第2期，94-102页。
- 盛益民 2014《吴语绍兴柯桥话参考语法》天津：南开大学博士学位论文。
- 施关淦 1981 “给”的词性及与此相关的某些语法现象，《语文研究》第2期，31-38页。
- 石汝杰 1996《吴语读本—明清吴语和现代苏州方言》（中國語學研究《開篇》单刊No.8）东京：好文出版。
- 汤珍珠、陈忠敏、吴新贤 1997《宁波方言词典》南京：江苏教育出版社。
- 田中智子 2009 台灣美濃客家話的處置標記—淺談年齡層的區別，《臺灣語言學論文集》東京：東歐亞大陸語言研究會，69-77頁。
- 王福堂 2015《绍兴方言研究》北京：语文出版社。
- 王还 1957《“把”字句和“被”字句》上海：上海教育出版社。
- 王还 1983 英语和汉语的被动句，《中国语文》第6期，409-418页。
- 王健 2004 “给”字句表处置的来源，《语言研究》第4期，9-13页。
- 王力 1943 [1985]《中国现代语法》（上册）北京：商务印书馆。

- 温锁林、范群 2006 现代汉语口语中自然焦点标记“给”，《中国语文》第1期，19-25页。
- 厦门市地方志编纂委员会办公室 1996《厦门方言志》北京：北京语言学院出版社。
- 项梦冰 1997《连城客家话语法研究》北京：语文出版社。
- 徐丹 1992 北京话中的语法标记词“给”，《方言》第1期，54-60页。
- 颜森 1993《黎川方言研究》北京：社会科学文献出版社。
- 杨凯荣 2015 论上海话的使役，被动标记，《华东师范大学学报（哲学社会科学版）》第1期，96-103页。
- 杨葳、杨乃浚 2000《绍兴方言》北京：国际文化出版公司。
- 袁家骅 1960 [1983]《汉语方言概要》（第2版）北京：文字改革出版社。
- 遠藤雅裕 2004 漢語方言處置標誌的地理分布與幾種處置句，《中国语学》251号，56-73页。
- 曾字凡 1982《广州话—普通话口语词对译手册》香港：三联书店香港分店。
- 詹伯慧 1981《现代汉语方言》武汉：湖北人民出版社。
- 张伯江 2000 论汉语“把”字句的句式语义，《语言研究》第1期，28-40页。
- 赵金铭 1992 “我唱给你听”及相关句式，《中国语文》第1期，1-11页。
- 鄭榮、曹逢甫 1995 閩南語「ka」用法之間的關係，曹逢甫、蔡美慧編《台灣閩南語論文集》台北：文鶴出版社，23-46页。
- 朱德熙 1979 与动词“给”相关的句法问题，《方言》第2期，81-87页。
- 朱德熙 1982《语法讲义》北京：商务印书馆。
- 朱德熙 1983 包含动词“给”的复杂句式，《中国语文》第3期，161-166页。
- 朱景松 1995 介词“给”可以引进受事成分，《中国语文》第1期，48页。
- 朱彰年、薛恭穆、汪维辉、周志锋 1996《宁波方言词典》上海：汉语大词典出版社。
- 佐佐木勋人 2002 由给予动词构成的处置句，《语法研究和探索（十一）》北京：商务印书馆，235-245页。
- 佐佐木勋人、樊晓萍 2018 绍兴话的处置句和被动句，《现代中国语研究》第20期，154-162页。
- 佐佐木勋人、樊晓萍 2019 论绍兴话给予动词“拨”的语法化，《论丛 现代语·现代文化》第20期，1-10页。



(英語)

- Bennet, P. A. 1981. The Evolution of Passive and Disposal Sentences. *Journal of Chinese Linguistics* 9. 61-90.
- Brown, P. & S. C. Levinson. 1987. *Politeness: some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Chao Yuen Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.
- Givón, Talmy. 2001 [1984]. *Syntax: an introduction, vol. II*. Rev. ed., Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Goldberg, Adele E. 1995. *Constructions: a construction grammar approach to argument structure*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Haspelmath, Martin. 1990. The Grammaticization of Passive Morphology, *Studies in Language* 14-1, 25-72.
- Heine, B., Claudi, U. & Hünemeyer, F. 1991. *Grammaticalization: a conceptual framework*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Hopper, Paul J., and Elizabeth Closs Traugott. 1993. *Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lai, Huei-ling. 2003. Hakka LAU Constructions: a constructional approach. *Language and Linguistics* 4.2: 353-378.
- Li, Charles N., and Sandra A. Thompson. 1981. *Mandarin Chinese: a functional reference grammar*. Berkeley: The University of California Press.
- Lien, Chin-fa. 2002. Grammatical Function Words 乞, 度, 共, 甲, 將 and 力 in Li<sup>4</sup> Jing<sup>4</sup> Ji<sup>4</sup> 荔鏡記 and their Development in Southern Min. In Dah-an Ho (ed.), *Dialect Variations in Chinese*. Papers from the Third International Conference on Sinology, Linguistics Section. Taipei: Academia Sinica. 179-216.
- Newman, John. 1993. The Semantics of Giving in Mandarin. In Richard A. Geiger and Brygida Rudzka-Ostyn (eds.), *Conceptualizations and Mental Processing in Language*. New York: Mouton de Gruyter. 433-485.
- Shibatani, Masayoshi, Zhang Qin and Lu Tao. 1994. Chinese Benefactive Constructions. In Matthew Chen and Ovid Tzeng (eds.), *In honor of William S-Y. Wang*:

- interdisciplinary studies on language and language change*. Taipei: Pyramid Press. 459-477.
- Shibatani, Masayoshi. 1996. Applicatives and Benefactives: a cognitive account. In Shibatani, M. and S. A. Thompson (eds.), *Grammatical Constructions*, 157-194. Oxford: Oxford University Press.
- Sun Chaofen. 1996. *Word-Order Change and Grammaticalization in the History of Chinese*. Stanford: Stanford University Press.
- Washio, Ryuichi. 1993. When Causatives Mean Passive: a cross-linguistic perspective. *Journal of East Asian Linguistics* 2. 45-90.
- Xu Liejiong and Alain Peyraube. 1997. On the Double Object Construction and the Oblique Construction in Cantonese. *Studies in Language* 21:1. 105-127.